



Japanese Language and  
Japanese Studies Courses  
for International Students

留 学 生 の た め の  
日本語・日本事情科目  
講 義 概 要

2023 ▶ 2024  
April March



OITA UNIVERSITY

# 留学生のための

## 講義概要

**2023-2024**

1. 日本語・日本事情科目 (留学生向け科目)
2. グローバル科目 (留学生・日本人学生向け科目)  
(使用言語：日本語／日本語と英語／英語)

この小冊子は、留学生のための「日本語・日本事情科目」、「グローバル科目」の概要を説明しています。

- ・「日本語・日本事情科目」：日本語科目は日本語習得を目的とした言語ベースの科目です。  
プレイスメントテストで受講するレベルを決めます。
- ・「グローバル科目」：大分について学ぶ授業の他、言語学、ソーシャルメディア、教育、経済、理工、サステナビリティ、ポピュラー・カルチャー等の科目が、日本語、英語、日本語&英語で開講されます。

正規生は「日本語・日本事情科目」、「グローバル科目」を履修することができますが、日本語1～3を履修しても単位認定されませんので注意してください。学位取得のための単位に関する詳細については所属学部にも必ず確認を行ってください。

# **JAPANESE LANGUAGE AND JAPANESE STUDIES COURSES FOR INTERNATIONAL STUDENTS**

**(2023-2024)**

- 1 . Japanese Language and Japanese Studies Courses for International Students
- 2 . Global Studies Courses for International and Japanese Students (offered in either English, Japanese, or an integration of both)

This booklet provides an introduction to Japanese Language, Japanese Studies, and Global Studies courses.

- Japanese Language and Japanese Studies Courses: designed to improve Japanese language skills. Students will enroll in the appropriate level of Japanese language course based on the result of a placement exam.
- Global Studies Courses: develop international and global perspectives as well as an understanding of Oita's region-specific issues through a variety of courses in the areas of linguistics, social media, education, economics, applied engineering and science, sustainability, and popular culture. Courses are offered in either Japanese, English, or an integration of both.

All Global Studies courses are available to all international students. However, please note that credits for Japanese courses 1~3 are not granted to international students seeking an undergraduate degree. If you are a degree-seeking student, you must contact your faculty regarding credit requirements for your degree.

## 2023年度 前期

### 1. 日本語・日本事情科目

授業科目名	時間	単位数	学部等	担当教員	レベル (使用言語)	頁
日本語 1 文法	火1	2	国際教育推進センター	ブルカート香織	入門・初級	1
日本語 1 会話	水2	2	国際教育推進センター	ブルカート香織	入門・初級	2
日本語 1 総合	木2	2	国際教育推進センター	ブルカート香織	入門・初級	3
日本語 1 読解	月4	2	国際教育推進センター	長 池 一 美	入門・初級	4
日本語 2 文法	火2	2	国際教育推進センター	南 里 敬 三	初級	5
日本語 2 会話	水1	2	国際教育推進センター	南 里 敬 三	初級	6
日本語 2 総合	金2	2	国際教育推進センター	南 里 敬 三	初級	7
日本語 2 読解	月1	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	大 坪 美奈子	初級	8
日本語 3 文法	木2	2	国際教育推進センター	坂 井 美恵子	初中級	9
日本語 3 会話	水2	2	国際教育推進センター	坂 井 美恵子	初中級	10
日本語 3 読解Ⅱ	火1	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	大 坪 美奈子	初中級	11
日本語 3 作文Ⅱ	木4	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	大 坪 美奈子	初中級	12
多読で学ぶ日本語	月4	2	国際教育推進センター	坂 井 美恵子	中級～上級	13
日本語 4 文法Ⅱ	火2	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	大 坪 美奈子	中級	14
日本語 4 スピーキング	木1	2	国際教育推進センター	坂 井 美恵子	中級	15
日本語 4 読解Ⅱ	金2	2	国際教育推進センター	西 島 順 子	中級	16
日本語 4 作文Ⅱ	水1	2	国際教育推進センター	西 島 順 子	中級	17
日本語 4 応用Ⅱ	木2	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	大 坪 美奈子	中級	18
日本語 5 スピーキング	月2	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	大 坪 美奈子	上級	19
日本語 5 読解・作文Ⅱ	水1	2	国際教育推進センター	坂 井 美恵子	上級	20
日本語 5 文法Ⅱ	金1	2	国際教育推進センター	西 島 順 子	上級	21
Independent Research Project I	金5	2	国際教育推進センター	長 池 一 美	英語	76
日本研究Ⅱ（日研対象）	金5	2	国際教育推進センター	南里・センター教員	日本語	22
大学院入学前予備教育日本語初級集中 (国費予備教育プログラム留学生対象)	-	-	国際教育推進センター	セン タ ー 教 員	日本語 初級	23
医学部学生補講（会話）	月1・2	-	国際教育推進センター	セン タ ー 教 員	日本語 初級～中級	-

### 2. グローバル科目

授業科目名	時間	単位数	学部等	担当教員	レベル (使用言語)	頁
日本語文法分析	火2	2	国際教育推進センター	西 島 順 子	日本語	35
ビジネスジャパニーズ演習 3	月3	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	大 坪 美奈子	日本語	36
ビジネスジャパニーズ演習 4	木3	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	大 坪 美奈子	日本語	37
狂言で大分を学ぶ	火4	2	国際教育推進センター	南里敬三・西島順子	日本語&英語	38
サステナビリティ大分2	木4	2	国際教育推進センター	ブルカート香織	英語&日本語	39
歩いて楽しい街：大分と別府	金3	2	国際教育推進センター	南 里 敬 三	日本語&英語	40
大分地域理解	水2	2	国際教育推進センター	西 島 順 子	日本語	41
異文化コミュニケーション	火3	2	国際教育推進センター	長 池 一 美	英語&日本語	42
Japanese Popular Culture Studies	水4	2	国際教育推進センター	長 池 一 美	英語&日本語	43
Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies	水3	2	国際教育推進センター	長池一美・南里敬三	英語&日本語	44
Introduction to Japanese History, Culture and Society	月3	2	国際教育推進センター	長 池 一 美	英語	45
Ethnographic Study on Rural Japan	木3	2	経済学部	久保田 亮	英語	100
The Politics and Economics of the EU	木3	2	経済学部	DAY Stephen	英語	101

# 2023年度 時間割 (前期)

	月	火	水	木	金
1 (9:00-10:30)	医学部学生補講 (会話) (GAIA教員)	日本語1文法 (ブルカート)	日本語2会話 (南里)	日本語4スピーキング (坂井)	日本語5文法Ⅱ (西島)
	日本語2読解 (大坪)	日本語3読解Ⅱ (大坪)	日本語4作文Ⅱ (西島)		
			日本語5読解・作文Ⅱ (坂井)		
2 (10:40-12:10)	医学部学生補講 (会話) (GAIA教員)	日本語2文法 (南里)	日本語1会話 (ブルカート)	日本語1総合 (ブルカート)	本語2総合 (南里)
	日本語5スピーキング (大坪)	日本語4文法Ⅱ (大坪)	大分地域理解 (西島)	日本語3文法 (坂井)	日本語4読解Ⅱ (西島)
		日本語文法分析 (西島)	日本語3会話 (坂井)	日本語4応用Ⅱ (大坪)	
3 (13:10-14:40)	Introduction to Japanese History, Culture and Society (長池)	異文化 コミュニケーション (長池)	Japanese Aesthetics & Fashion Media Studies (長池 & 南里)	The Politics and Economics of the EU (DAY)	歩いて楽しい街: 大分と別府 (南里)
	ビジネスジャパニーズ 演習3 (大坪)			Ethnographic Study on Rural Japan (久保田)	
				ビジネスジャパニーズ 演習4 (大坪)	
4 (14:50-16:20)	日本語1読解 (長池)	狂言で大分を学ぶ (南里・西島)	Japanese Popular Culture Studies (長池)	サステナビリティ大分2 (ブルカート)	江漢大学ゼミナール3 (未定)
	多読で学ぶ日本語 (坂井)	江漢大学ゼミナール2 (未定)		日本語3作文Ⅱ (大坪)	
5 (16:30-18:00)					日本研究Ⅱ (日研生) (南里外)
					Independent Research Project I (長池外)

## 2023年度 後期

### 1. 日本語・日本事情科目

授業科目名	時間	単位数	学部等	担当教員	レベル (使用言語)	頁
日本語 1 文法	火2	2	国際教育推進センター	ブルカート香織	入門・初級	1
日本語 1 会話	水1	2	国際教育推進センター	ブルカート香織	入門・初級	2
日本語 1 総合	木2	2	国際教育推進センター	ブルカート香織	入門・初級	3
日本語 1 読解	月4	2	国際教育推進センター	長 池 一 美	入門・初級	4
日本語 2 文法	火1	2	国際教育推進センター	南 里 敬 三	初級	5
日本語 2 会話	水2	2	国際教育推進センター	南 里 敬 三	初級	6
日本語 2 総合	金2	2	国際教育推進センター	南 里 敬 三	初級	7
日本語 2 読解	月1	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	藤 田 明 美	初級	24
日本語 3 文法	火2	2	国際教育推進センター	坂 井 美恵子	初中級	9
日本語 3 会話	水2	2	国際教育推進センター	坂 井 美恵子	初中級	10
日本語 3 読解 I	木1	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	大 坪 美奈子	初中級	25
日本語 3 作文 I	月2	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	藤 田 明 美	初中級	26
日本語 4 文法 I	月1	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	大 坪 美奈子	中級	27
日本語 4 スピーキング	火1	2	国際教育推進センター	坂 井 美恵子	中級	15
日本語 4 読解 I	金1	2	国際教育推進センター	西 島 順 子	中級	28
日本語 4 作文 I	木2	2	国際教育推進センター	西 島 順 子	中級	29
日本語 4 応用 I	火2	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	大 坪 美奈子	中級	30
日本語 5 スピーキング	月2	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	大 坪 美奈子	上級	19
日本語 5 読解・作文 I	水1	2	国際教育推進センター	坂 井 美恵子	上級	31
日本語 5 文法 I	金2	2	国際教育推進センター	西 島 順 子	上級	32
レポート・論文作成	木3	2	国際教育推進センター	西 島 順 子	超級	33
Independent Research Project II	金5	2	国際教育推進センター	長 池 一 美	英語	88
日本研究 I (日研生対象)	金5	2	国際教育推進センター	南里・センター教員	日本語	34
大学院入学前予備教育日本語初級集中 (国費予備教育プログラム留学生対象)	-	-	国際教育推進センター	セン ター 教 員	日本語 初級	23
医学部学生補講 (会話)	月1・2	-	国際教育推進センター	セン ター 教 員	日本語 初級～中級	-

### 2. グローバル科目

授業科目名	時間	単位数	学部等	担当教員	レベル (使用言語)	頁
日本語表現技術	火4	2	国際教育推進センター	西 島 順 子	日本語	46
日本語学 I	木2	2	国際教育推進センター	坂 井 美恵子	日本語	47
ビジネスジャパニーズ演習 1	月3	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	藤 田 明 美	日本語	48
ビジネスジャパニーズ演習 2	火2	2	国際教育推進センター (非常勤講師)	藤 田 明 美	日本語	49
異文化コミュニケーション	月3	2	国際教育推進センター	長 池 一 美	英語&日本語	42
Manga Studies	水3	2	国際教育推進センター	長 池 一 美	英語&日本語	50
Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies	金4	2	国際教育推進センター	長池一美・南里敬三	英語&日本語	44
Introduction to Japanese History, Culture and Society	水4	2	国際教育推進センター	長 池 一 美	英語	45
日本文法とディスコース	金3	2	国際教育推進センター	南 里 敬 三	英語&日本語	51
ソーシャルネットワークと大分からの発信 II	火3	2	国際教育推進センター	南 里 敬 三	日本語&英語	52
サステナビリティ大分	木4	2	国際教育推進センター	ブルカート香織	英語&日本語	53
The Politics and Economics of Globalization	木3	2	経済学部	DAY Stephen	英語	113
認知言語学から見た日英対照分析	木4	2	教育学部	橋 本 美喜男	英語	54
The World of Chemistry	火5	2	理工学部	井 上 高 教	英語	115
Globalization of Japan's Economy	金2	2	経済学部	柴 田 茂 樹	英語	116
Japanese Management and Sustainable Development	金3	2	経済学部	碓 邦 生	英語	117



## 2023年度 時間割 （後期）

	月	火	水	木	金
1 (9:00-10:30)	医学部学生補講 (会話) (GAIA教員)	日本語2文法 (南里)	日本語1会話 (ブルカート)	日本語3読解Ⅰ (大坪)	日本語4読解Ⅰ (西島)
	日本語2読解 (藤田)	日本語4スピーキング (坂井)	日本語5読解・作文Ⅰ (坂井)		
	日本語4文法Ⅰ (大坪)				
2 (10:40-12:10)	医学部学生補講 (会話) (GAIA教員)	日本語1文法 (ブルカート)	日本語2会話 (南里)	日本語1総合 (ブルカート)	日本語2総合 (南里)
	日本語3作文Ⅰ (藤田)	日本語3文法 (坂井)	日本語3会話 (坂井)	日本語4作文Ⅰ (西島)	日本語5文法Ⅰ (西島)
	日本語5スピーキング (大坪)	日本語4応用Ⅰ (大坪)		日本語学Ⅰ (坂井)	Globalization of Japan's Economy (柴田)
		ビジネスジャパニーズ 演習2 (藤田)			
3 (13:10-14:40)	異文化 コミュニケーション (長池)	ソーシャルネット ワークと大分からの 発信Ⅱ (南里)	Manga Studies (長池)	レポート・論文作成 (西島)	日本文法と ディスコース (南里)
	ビジネスジャパニーズ 演習1 (藤田)			The Politics and Economics of Globalization (DAY)	Japanese Management and Sustainable Development (碓)
4 (14:50-16:20)	日本語1読解 (長池)	日本語表現技術 (西島)	Introduction to Japanese History, Culture and Society (長池)	認知言語学から見た 日英対照分析 (橋本)	Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies (長池 & 南里)
		江漢大学ゼミナール1 (未定)		サステナビリティ大分 (ブルカート)	
5 (16:30-18:00)		The World of Chemistry (井上)			Independent Research Project Ⅱ (長池外)
					日本研究Ⅰ (日研生) (南里外)

## Spring Semester, April 2023 - August 2023

### 1. Japanese Language and Japanese Studies Courses

SUBJECT	Day and Time	CREDITS	FACULTY	LECTURER	Level (Language)	PAGE
Japanese 1 Grammar	Tue.1	2	GAIA	BURKART Kaori	Novice	55
Japanese 1 Conversation	Wed.2	2	GAIA	BURKART Kaori	Novice	56
Japanese 1 Integrated Activities	Thu.2	2	GAIA	BURKART Kaori	Novice	57
Japanese 1 Reading	Mon.4	2	GAIA	NAGAIKE Kazumi	Novice	58
Japanese 2 Grammar	Tue.2	2	GAIA	NANRI Keizo	Novice-High	59
Japanese 2 Conversation	Wed.1	2	GAIA	NANRI Keizo	Novice-High	60
Japanese 2 Integrated Activities	Fri.2	2	GAIA	NANRI Keizo	Novice-High	61
Japanese 2 Reading	Mon.1	2	GAIA (Part-time)	OTSUBO Minako	Novice-High	62
Japanese 3 Grammar	Thu.2	2	GAIA	SAKAI Mieko	Intermediate-Low	63
Japanese 3 Conversation	Wed.2	2	GAIA	SAKAI Mieko	Intermediate-Low	64
Japanese 3 Reading II	Tue.1	2	GAIA (Part-time)	OTSUBO Minako	Intermediate-Low	65
Japanese 3 Writing II	Thu.4	2	GAIA (Part-time)	OTSUBO Minako	Intermediate-Low	66
Extensive Reading in Japanese	Mon.4	2	GAIA	SAKAI Mieko	Intermediate-Advanced	67
Japanese 4 Grammar II	Tue.2	2	GAIA (Part-time)	OTSUBO Minako	Intermediate	68
Japanese 4 Speaking	Thu.1	2	GAIA	SAKAI Mieko	Intermediate	69
Japanese 4 Reading II	Fri.2	2	GAIA	NISHIJIMA Yoriko	Intermediate	70
Japanese 4 Writing II	Wed.1	2	GAIA	NISHIJIMA Yoriko	Intermediate	71
Japanese 4 Contextual Japanese II	Thu.2	2	GAIA (Part-time)	OTSUBO Minako	Intermediate	72
Japanese 5 Speaking	Mon.2	2	GAIA (Part-time)	OTSUBO Minako	Advanced	73
Japanese 5 Reading / Writing II	Wed.1	2	GAIA	SAKAI Mieko	Advanced	74
Japanese 5 Grammar II	Fri.1	2	GAIA	NISHIJIMA Yoriko	Advanced	75
Independent Research Project I	Fri.5	2	GAIA	NAGAIKE Kazumi	English	76
Preparatory Course in Japanese for Pre-Postgraduate Students	—	—	GAIA	Instructors of GAIA	Japanese&English	77
Japanese for Medical Students: Conversation	Mon.1・2	—	GAIA	Instructors of GAIA	Japanese&English (Novice-Intermediate)	—

### 2. Global Courses

SUBJECT	Day and Time	CREDITS	FACULTY	LECTURER	Level (Language)	PAGE
Analysis of Japanese Grammar	Tue.2	2	GAIA	NISHIJIMA Yoriko	Japanese	89
Business Japanese Seminar 3	Mon.3	2	GAIA (Part-time)	OTSUBO Minako	Japanese	90
Business Japanese Seminar 4	Thu.3	2	GAIA (Part-time)	OTSUBO Minako	Japanese	91
Learning OITA Through Kyogen	Tue.4	2	GAIA	NANRI NISHIJIMA	Japanese&English	92
Sustainability & Global Development in Oita 2	Thu.4	2	GAIA	BURKART Kaori	English&Japanese	93
City Project: Oita and Beppu	Fri.3	2	GAIA	NANRI Keizo	Japanese&English	94
Oita Area Studies	Wed.2	2	GAIA	NISHIJIMA Yoriko	Japanese	95
Intercultural Communication	Tue.3	2	GAIA	NAGAIKE Kazumi	English&Japanese	96
Japanese Popular Culture Studies	Wed.4	2	GAIA	NAGAIKE Kazumi	English&Japanese	97
Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies	Wed.3	2	GAIA	NAGAIKE NANRI	English&Japanese	98
Introduction to Japanese History, Culture and Society	Mon.3	2	GAIA	NAGAIKE Kazumi	English	99
Ethnographic Study on Rural Japan	Thu.3	2	Economics	KUBOTA Ryo	English	100
The Politics and Economics of the EU	Thu.3	2	Economics	DAY Stephen	English	101

※ GAIA : Global Education and Intercultural Advancement Center



## COURSE SCHEDULE (Spring Semester, April 2023 - August 2023)

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1 (9:00-10:30)	Japanese for Medical Students:Conversation (GAIA)	Japanese 1 Grammar (BURKART)	Japanese 2 Conversation (NANRI)	Japanese 4 Speaking (SAKAI)	Japanese 5 Grammar II (NISHIJIMA)
	Japanese 2 Reading (OTSUBO)	Japanese 3 Reading II (OTSUBO)	Japanese 4 Writing II (NISHIJIMA)		
			Japanese 5 Reading / Writing II (SAKAI)		
2 (10:40-12:10)	Japanese for Medical Students:Conversation (GAIA)	Japanese 2 Grammar (NANRI)	Japanese 1 Conversation (BURKART)	Japanese 1 Integrated Activities (BURKART)	Japanese 2 Integrated Activities (NANRI)
	Japanese 5 Speaking (OTSUBO)	Japanese 4 Grammar II (OTSUBO)	Oita Area Studies (NISHIJIMA)	Japanese 3 Grammar (OTSUBO)	Japanese 4 Reading II (NISHIJIMA)
		Analysis of Japanese Grammar (NISHIJIMA)	Japanese 3 Conversation (OTSUBO)	Japanese 4 Contextual Japanese II (OTSUBO)	
3 (13:10-14:40)	Introduction to Japanese History, Culture and Society (NAGAIKE)	Intercultural Communication (NAGAIKE)	Japanese Aesthetics & Fashion Media Studies (NAGAIKE & NANRI)	The Politics and Economics of the EU (DAY)	City Project: Oita and Beppu (NANRI)
	Business Japanese Seminar 3 (OTSUBO)			Ethnographic Study on Rural Japan (KUBOTA)	
				Business Japanese Seminar 4 (OTSUBO)	
4 (14:50-16:20)	Japanese 1 Reading (NAGAIKE)	Learning Oita Through Kyogen (NANRI & NISHIJIMA)	Japanese Popular Culture Studies (NAGAIKE)	Sustainability and Glocal Development in Oita 2 (BURKART)	Jinghan University 3+1 Program 3
	Extensive Reading in Japanese (SAKAI)	Jinghan University 3+1 Program 2		Japanese 3 Writing II (OTSUBO)	
5 (16:30-18:00)					Independent Research Project I (NAGAIKE)

## Fall Semester, October 2023 - February 2024

### 1. Japanese Language and Japanese Studies Courses

SUBJECT	Day and Time	CREDITS	FACULTY	LECTURER	Level (Language)	PAGE
Japanese 1 Grammar	Tue.2	2	GAIA	BURKART Kaori	Novice	55
Japanese 1 Conversation	Wed.1	2	GAIA	BURKART Kaori	Novice	56
Japanese 1 Integrated Activities	Thu.2	2	GAIA	BURKART Kaori	Novice	57
Japanese 1 Reading	Mon.4	2	GAIA	NAGAIKE Kazumi	Novice	58
Japanese 2 Grammar	Tue.1	2	GAIA	NANRI Keizo	Novice-High	59
Japanese 2 Conversation	Wed.2	2	GAIA	NANRI Keizo	Novice-High	60
Japanese 2 Integrated Activities	Fri.2	2	GAIA	NANRI Keizo	Novice-High	61
Japanese 2 Reading	Mon.1	2	GAIA (Part-time)	FUJITA Akemi	Novice-High	78
Japanese 3 Grammar	Tue.2	2	GAIA	SAKAI Mieko	Intermediate-Low	63
Japanese 3 Conversation	Wed.2	2	GAIA	SAKAI Mieko	Intermediate-Low	64
Japanese 3 Reading I	Thu.1	2	GAIA (Part-time)	OTSUBO Minako	Intermediate-Low	79
Japanese 3 Writing I	Mon.2	2	GAIA (Part-time)	FUJITA Akemi	Intermediate-Low	80
Japanese 4 Grammar I	Mon.1	2	GAIA (Part-time)	OTSUBO Minako	Intermediate	81
Japanese 4 Speaking	Tue.1	2	GAIA	SAKAI Mieko	Intermediate	69
Japanese 4 Reading I	Fri.1	2	GAIA	NISHIJIMA Yoriko	Intermediate	82
Japanese 4 Writing I	Thu.2	2	GAIA	NISHIJIMA Yoriko	Intermediate	83
Japanese 4 Contextual Japanese I	Tue.2	2	GAIA (Part-time)	OTSUBO Minako	Intermediate	84
Japanese 5 Speaking	Mon.2	2	GAIA (Part-time)	OTSUBO Minako	Advanced	73
Japanese 5 Reading/ Writing I	Wed.1	2	GAIA	SAKAI Mieko	Advanced	85
Japanese 5 Grammar I	Fri.2	2	GAIA	NISHIJIMA Yoriko	Advanced	86
Academic Writing in Japanese	Thu.3	2	GAIA	NISHIJIMA Yoriko	Advanced-High	87
Independent Research Project II	Fri.5	2	GAIA	NAGAIKE Kazumi	English	88
Preparatory Course in Japanese for Pre-Postgraduate Students	—	—	GAIA	Instructors of GAIA	Japanese&English	77
Japanese for Medical Students: Conversation	Mon.1・2	—	GAIA	Instructors of GAIA	Japanese&English (Novice-Intermediate)	—

### 2. Global Courses

SUBJECT	Day and Time	CREDITS	FACULTY	LECTURER	Level (Language)	PAGE
Japanese Presentation Skill	Tue.4	2	GAIA	NISHIJIMA Yoriko	Japanese	102
Japanese Linguistics I	Thu.2	2	GAIA	SAKAI Mieko	Japanese	103
Business Japanese Seminar 1	Mon.3	2	GAIA (Part-time)	FUJITA Akemi	Japanese	104
Business Japanese Seminar 2	Tue.2	2	GAIA (Part-time)	FUJITA Akemi	Japanese	105
Intercultural Communication	Mon.3	2	GAIA	NAGAIKE Kazumi	English	106
Manga Studies	Wed.3	2	GAIA	NAGAIKE Kazumi	English	107
Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies	Fri.4	2	GAIA	NAGAIKE NANRI	English&Japanese	108
Introduction to Japanese History, Culture and Society	Wed.4	2	GAIA	NAGAIKE Kazumi	English	109
Japanese Grammar and Discourse	Fri.3	2	GAIA	NANRI Keizo	English&Japanese	110
Social Networks and Introduction of Oita to the World II	Tue 3	2	GAIA	NANRI Keizo	Japanese&English	111
Sustainability and Glocal Development in Oita	Thu.4	2	GAIA	BURKART Kaori	English&Japanese	112
The Politics and Economics of Globalization	Thu.3	2	Economics	DAY Stephen	English	113
Contrastive Analysis of Semantic Structures in English and Japanese within the framework of Cognitive Linguistics	Thu.4	2	Education	HASHIMOTO Mikio	English	114
The World of Chemistry	Tue.5	2	Science and Technology	INOUE Takanori	English	115
Globalization of Japan's Economy	Fri.2	2	Economics	SHIBATA Shigeki	English	116
Japanese Management and Sustainable Development	Fri.3	2	Economics	IKARI Kunio	English	117

※ GAIA : Global Education and Intercultural Advancement Center

## COURSE SCHEDULE (Fall Semester, October 2023 - February 2024)

	MON	TUE	WED	THU	FRI
1 (9:00-10:30)	Japanese for Medical Students:Conversation (GAIA)	Japanese 2 Grammar (NANRI)	Japanese 1 Conversation (BURKART)	Japanese 3 Reading I (OTSUBO)	Japanese 4 Reading I (NISHIJIMA)
	Japanese 2 Reading (FUJITA)	Japanese 4 Speaking (SAKAI)	Japanese 5 Reading / Writing I (SAKAI)		
	Japanese 4 Grammar I (OTSUBO)				
2 (10:40-12:10)	Japanese for Medical Students:Conversation (GAIA)	Japanese 1 Grammar (BURKART)	Japanese 2 Conversation (NANRI)	Japanese 1 Integrated Activities (BURKART)	Japanese 2 Integrated Activities (NANRI)
	Japanese 3 Writing I (FUJITA)	Japanese 3 Grammar (SAKAI)	Japanese 3 Conversation (SAKAI)	Japanese 4 Writing I (NISHIJIMA)	Japanese 5 Grammar I (NISHIJIMA)
	Japanese 5 Speaking (OTSUBO)	Japanese 4 Contextual Japanese I (OTSUBO)		Japanese Linguistics I (SAKAI)	Globalization of Japan's Economy (SHIBATA)
		Business Japanese Seminar 2 (FUJITA)			
3 (13:10-14:40)	Intercultural Communication (NAGAIKE)	Social Networks and Introduction of Oita to the World II (NANRI)	Manga Studies (NAGAIKE)	Academic Writing in Japanese (NISHIJIMA)	Japanese Grammar and Discourse (NANRI)
	Business Japanese Seminar 1 (FUJITA)			The Politics and Economics of Globalization (DAY)	Japanese Management and Sustainable Development (IKARI)
4 (14:50-16:20)	Japanese 1 Reading (NAGAIKE)	Japanese Presentation Skill (NISHIJIMA)	Introduction to Japanese History, Culture and Society (NAGAIKE)	Contrastive Analysis of Semantic Structures in English and Japanese within the framework of Cognitive Linguistics (HASHIMOTO)	Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies (NAGAIKE & NANRI)
		Jinghan University 3+1 Program 1		Sustainability and Glocal Development in Oita (BURKART)	
5 (16:30-18:00)		The World of Chemistry (INOUE)			Independent Research Project II (NAGAIKE)

1. 日本語・日本事情科目

(留学生向け科目)

授業科目名	日本語 1 文法		
担当教員	ブルカート香織	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	前期：火曜 1 限 後期：火曜 2 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 3 番 097-554-6171 kburkart@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	日本語基本文法及び言語機能の習得		
具体的な 到達目標	1. ひらがな、カタカナの習得 2. 自己紹介、依頼、好き・嫌い、理由、欲求等の言語機能を使うのに必要な文法の習得		
授業の内容	教科書に従って、文法、言語機能を導入 第 1 週：オリエンテーション（ひらがな導入・簡単な挨拶の練習） 第 2 週：第 1 課の語彙と文法（カタカナ導入） 第 3 週：第 2 課の語彙と文法 第 4 週：第 3 課の語彙と文法 第 5 週：第 4 課の語彙と文法 第 6 週：第 5 課の語彙と文法 第 7 週：第 6 課の語彙と文法 第 8 週：中間テスト 第 9 週：第 7 課の語彙と文法 第 10 週：第 8 課の語彙と文法 第 11 週：第 9 課の語彙と文法 第 12 週：第 10 課の語彙と文法 第 13 週：第 11 課の語彙と文法 第 14 週：第 12 課の語彙と文法 第 15 週：全課の復習  【学生がより深く学べるための工夫】 語彙と文法の講義ではゲームやアクティビティを用いて基礎を学び、ワークブックでの練習や創作的宿題を通して基本の習得を図る。講義で用いられた配布物や板書は Moodle に掲載。小テストで学生の理解度を確認しながら進行する。		
時間外学習	各課が終了したところで、ワークブックで復習。それ以外に与えられる新出語彙や文法を用いた宿題も完了させる。小テストに備えた勉強は各自の責任です。予習復習に 3 時間程度の学習時間が必要。		
教科書	初級日本語（げんき）Ⅰ 第 3 版（ジャパンタイムズ社）ISBN: 978-4789017305		
参考書	1. 日本語基礎文法辞典（The Japan Times） 2. 日英辞典（研究社）		
成績評価の方法 及び評価割合	1. 小テスト・宿題（30%） 2. 中間テスト（30%） 3. 期末テスト（40%）＊出席率に注意		
備考・注意事項	出席率 70% 以下（講義 4 回欠席）の場合は期末テストが受けられない。全講義に出席することが基礎日本語を習得するためには必須。		

授業科目名	日本語 1 会話		
担当教員	ブルカート香織	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	前期：水曜 2 限 後期：水曜 1 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 3 番 097-554-6171 kburkart@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	日本語の初歩的な会話能力の習得		
具体的な 到達目標	1. 限られた状況で適切な挨拶と簡単な会話ができる。 2. 自己紹介、依頼、好き・嫌い、理由、欲求等を限られた語彙で表現できる。		
授業の内容	教科書に従って、文法、言語機能も取り入れる。 第 1 週：オリエンテーション・あいさつ表現を使った口頭練習 第 2 週：第 1 課の会話練習 第 3 週：第 2 課の会話練習 第 4 週：第 3 課の会話練習 第 5 週：第 4 課の会話練習 第 6 週：第 5 課の会話練習 第 7 週：第 6 課の会話練習 第 8 週：中間テスト（文法、語彙、会話を含む。） 第 9 週：第 7 課の会話練習 第 10 週：第 8 課の会話練習 第 11 週：第 9 課の会話練習 第 12 週：第 10 課の会話練習 第 13 週：第 11 課の会話練習 第 14 週：第 12 課の会話練習 第 15 週：全課の復習  【学生がより深く学べるための工夫】 講義時間内には real-life situation を基盤とした口頭練習を積み重ね、基礎会話力を培う。ワークブックの聴解練習や実践会話を通した宿題で基本の習得を図る。講義で用いられた配布物や板書は Moodle に掲載する。		
時間外学習	各課が終了したところで、ワークブックで復習。それ以外に与えられる実践会話練習の宿題も完了させる。小テストに備えた勉強は各自の責任です。予習や復習に 3 時間程度の学習時間が必要。		
教科書	初級日本語（げんき）Ⅰ 第 3 版（ジャパントイムズ社）ISBN: 978-4789017305		
参考書	1. 日本語基礎文法辞典（The Japan Times） 2. 日英辞典（研究社）		
成績評価の方法 及び評価割合	1. 小テスト・宿題（30%） 2. 中間テスト（30%） 3. 期末テスト（40%）＊出席率に注意		
備考・注意事項	出席率 70% 以下（講義 4 回欠席）の場合は期末テストが受けられない。全講義に出席することが基礎日本語を習得するためには必須。		



授業科目名	日本語 1 総合		
担当教員	ブルカート香織	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	前期・後期：木曜 2 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 3 番 097-554-6171 kburkart@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	日本語基礎文法・言語機能の導入後、日常生活で総合的に活用することができるようになる。		
具体的な 到達目標	基礎的な言語機能、限られた語彙や文法表現を用いて、日常場面で自己紹介、依頼、好き・嫌い、理由、欲求等を表現することができる。		
授業の内容	<p>日本語 1 で学習した文法・言語機能を活用し、様々なタスク活動練習を行う。</p> <p>第 1 週：オリエンテーション（ひらがな練習・かんたんな挨拶の習得）</p> <p>第 2 週：第 1 課の文法会話等を含んだタスク練習（カタカナ練習を含む。）</p> <p>第 3 週：第 2 課の文法会話等を含んだタスク練習</p> <p>第 4 週：第 3 課の文法会話等を含んだタスク練習</p> <p>第 5 週：第 4 課の文法会話等を含んだタスク練習</p> <p>第 6 週：第 5 課の文法会話等を含んだタスク練習</p> <p>第 7 週：第 6 課の文法会話等を含んだタスク練習</p> <p>第 8 週：中間テスト（文法、語彙、会話を含む。）</p> <p>第 9 週：第 7 課の文法会話等を含んだタスク練習</p> <p>第 10 週：第 8 課の文法会話等を含んだタスク練習</p> <p>第 11 週：第 9 課の文法会話等を含んだタスク練習</p> <p>第 12 週：第 10 課の文法会話等を含んだタスク練習</p> <p>第 13 週：第 11 課の文法会話等を含んだタスク練習</p> <p>第 14 週：第 12 課の文法会話等を含んだタスク練習</p> <p>第 15 週：全課の復習</p> <p>【学生がより深く学べるための工夫】</p> <p>日本語 1 で学習した文法・言語機能を活用し、様々なタスク活動練習を行う。語彙、文法、会話練習を総括的に復習し基礎日本語の習得を図る。講義で用いられた配布物や板書は Moodle に掲載する。</p>		
時間外学習	各課が終了したところで、ワークブック等で復習。それ以外に与えられる宿題も次週までに完了させる。小テストに備えた勉強は各自の責任です。予習や復習に 3 時間程度の学習時間が必要。		
教科書	初級日本語（げんき）Ⅰ 第 3 版（ジャパントイムズ社）ISBN: 978-4789017305		
参考書	1. 日本語基礎文法辞典（The Japan Times） 2. 日英辞典（研究社）		
成績評価の方法 及び評価割合	1. 小テスト・宿題（30%） 2. 中間テスト（30%） 3. 期末テスト（40%）*出席率に注意		
備考・注意事項	出席率 70% 以下（講義 4 回欠席）の場合は期末テストが受けられない。全講義に出席することが基礎日本語を習得するためには必須。		

授業科目名	日本語 1 読解		
担当教員	長池一美	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	月曜 4 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 3-4 番 097-554-7953      nagaike@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	ひらがなとカタカナを習得させ、毎週学習する新出漢字（計 145）の習得とそれを使った基礎的文章の読解力をつけることがねらいである。		
具体的な 到達目標	1. ひらがなとカタカナの読み書きの習熟。 2. 毎週学習する漢字と熟語が読め書けること。 3. 簡単な和文（伝言、手紙、物語等）が読め、また短文が書けること。		
授業の内容	<p>原則として日本語 1 の教科書「読み書き編」に従って毎週 1 課ずつ進む。  第 1 週：第 1 課はひらがなの読み書きができるように集中的練習を行う。  第 2 週：第 2 課はカタカナの読み書きができるように集中的練習を行う。  第 3 週：第 2 課の漢字の読み書き練習とそれを使った文章の読解練習。  第 4 週：第 3 課の漢字の読み書き練習とそれを使った文章の読解練習。  第 5 週：第 4 課の漢字の読み書き練習とそれを使った文章の読解練習。  第 6 週：第 5 課の漢字の読み書き練習とそれを使った文章の読解練習。  第 7 週：第 6 課の漢字の読み書き練習とそれを使った文章の読解練習。  第 8 週：第 7 課の漢字の読み書き練習とそれを使った文章の読解練習。  第 9 週：第 3 課から 8 課までの漢字の復習と既習漢字を使った文章の読解練習。  第 10 週：第 8 課の漢字の読み書き練習とそれを使った文章の読解練習。  第 11 週：第 9 課の漢字の読み書き練習とそれを使った文章の読解練習。  第 12 週：第 10 課の漢字の読み書き練習とそれを使った文章の読解練習。  第 13 週：第 11 課の漢字の読み書き練習とそれを使った文章の読解練習。  第 14 週：第 12 課の漢字の読み書き練習とそれを使った文章の読解練習。  第 15 週：全課の漢字の復習と既習漢字を使った文章の読解練習。</p> <p>【学生がより深く学べるための工夫】  学生に自身の力を知らせる為、既習漢字の練習を宿題とし毎週テストも行う。</p>		
時間外学習	毎週の新出漢字の習得には時間外の練習が不可欠なので、毎日読み書きの練習をすること。		
教科書	初級日本語（げんき）Ⅰ 第 3 版（ジャパン・タイムズ社）（初版の教科書は使用できないので、必ず第 3 版の教科書を購入して下さい。）		
参考書	日英辞典（研究社）		
成績評価の方法 及び評価割合	小テスト（毎週）40%・宿題（毎週）20% 期末テスト40% 但し、出席率70%以下の場合は期末テストが受けられない。		
備考・注意事項	漢字の習得には毎週授業に出て必ずその週に学習した漢字を覚えることが必須である。		

授業科目名	日本語 2 文法		
担当教員	南里 敬三	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	前期 火曜 2 限 後期 火曜 1 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 5 番 097-554-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	日常の体験を、時系列的に順を追って説明できるようになるとともに、若干の主観的表現を学び、過去、現在の出来事にコメントが出来るようになる。また、聞き手との社会関係を配慮した表現が選択できるようになる。		
具体的な 到達目標	一文中での二つの出来事の前後関係の明示方法、意志形を使った予定の報告の仕方、受け身、使役表現を使った出来事の説明の説明方法、敬語を使った丁寧な話し方を習得し、初級レベルの文法習得を完了する。		
授業の内容	<p>第 1－2 週：テ形、普通体、「～んです」表現の復習  第 2 週：可能形を使って自分が出来ることを説明する  第 3 週：授受表現を使ってプレゼントのやりもらい経験を話す  第 4 週：連体修飾節を使ってモノについての詳しい説明を行う  第 5－6 週：授受表現を使って行為のやりもらい経験を話す  第 6－7 週：人から聞いた話を、伝聞表現を使ってレポートする。「たら」「前に」「てから」などを使って二つの出来事の前後関係を広告する。  第 8－9 週：復習  第 10 週：他動詞と自動詞の違いを知り、構文の正確性を高める  第 11 週：尊敬語を学ぶことを通して日本語では話し手と聞き手の社会関係がコード化されていることを学ぶ。「はず」を使って確信できる事柄の説明をする。  第 12 週：謙譲語 1、謙譲語 2 を学び、へりくだった表現ができるようになる  第 13 週：間接受け身文を使って不可抗力の出来事について話す  第 14－15 週：使役表現を使って、出来事の引き起こしについて言及する</p> <p>【学生がより深く学べるための工夫】  授業の基本は「文法説明・パターン練習・会話練習」。学生の理解度は宿題でチェック。基礎が理解できているかどうかをチェックするために毎週宿題のプリントが受講者に配布される。文法の習得は会話練習を行いその定着が図られる。</p>		
時間外学習	予習・復習それぞれに 2 時間の学習時間が必要。		
教科書	げんき II (ジャパントイズ出版)		
参考書	日本語文法辞典 (初級編)、日本語文法辞典 (中級編) (ジャパントイズ出版)		
成績評価の方法 及び評価割合	語彙聞き取りクイズ (毎週: 10%)、エッセイ 1、エッセイ 2 (各 5%)、中間テスト (15%)、大分散策 (5%)、会話テスト 1、会話テスト 2 (それぞれ 10%、15%)、期末テスト (25%)、宿題 (10%)		
備考・注意事項	70% 以上の出席がないと期末試験は受けられない。この科目は日本語 2 会話、日本語 2 総合と一緒に受講しなければならない。		

授業科目名	日本語 2 会話		
担当教員	南里 敬三	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	前期 水曜 1 限 後期 水曜 2 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 5 番 097-554-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	日常の体験を、時系列的に順を追って説明できるようになるとともに、若干の主観的表現を学び、過去、現在の出来事にコメントが出来るようになる。また、聞き手との社会関係を配慮した表現が選択できるようになる。		
具体的な 到達目標	自分のスケジュールの説明、不可抗力で発生した出来事の報告、誰かに何かをしてあげた、又は、してもらったことの報告などを取り交えて会話が対話形式で最低8分間できるようになる。また、その際、敬語の基本的使用ができるようになる。		
授業の内容	<p>第1－2週：テ形、普通体、「～んです」表現の復習  第2週：可能形を使って自分ができていることを説明する  第3週：授受表現を使ってプレゼントのやりもらい経験を話す  第4週：連体修飾節を使ってモノについての詳しい説明を行う  第5－6週：授受表現を使って行為のやりもらい経験を話す  第6－7週：人から聞いた話を、伝聞表現を使ってレポートする。「たら」「前に」「てから」などを使って二つの出来事の前後関係を広告する。  第8－9週：復習  第10週：他動詞と自動詞の違いを知り、構文の正確性を高める  第11週：尊敬語を学ぶことを通して日本語では話し手と聞き手の社会関係がコード化されていることを学ぶ。「はず」を使って確信できる事柄の説明をする。  第12週：謙譲語1、謙譲語2を学び、へりくだった表現ができるようになる  第13週：間接受け身文を使って不可抗力の出来事について話す  第14－15週：使役表現を使って、出来事の引き起こしについて言及する</p> <p>【学生がより深く学べるための工夫】  授業の基本は「文法説明・パターン練習・会話練習」。学生の理解度は宿題でチェック。基礎が理解できているかどうかをチェックするために毎週宿題のプリントが受講者に配布される。文法の習得は会話練習を行いその定着が図られる。</p>		
時間外学習	予習・復習それぞれに2時間の学習時間が必要。		
教科書	げんき II（ジャパントイムズ出版）		
参考書	日本語文法辞典（初級編）、日本語文法辞典（中級編）（ジャパントイムズ出版）		
成績評価の方法 及び評価割合	語彙聞き取りクイズ（毎週：10%）、エッセイ1、エッセイ2（各5%）、中間テスト（15%）、大分散策（5%）、会話テスト1、会話テスト2（それぞれ10%、15%）、期末テスト（25%）、宿題（10%）		
備考・注意事項	70%以上の出席がないと期末試験は受けられない。この科目は日本語2文法、日本語2総合と一緒に受講しなければならない。		

授業科目名	日本語 2 総合		
担当教員	南里 敬三	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	前期・後期：金曜 2 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 5 番 097-554-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	日常の体験を、時系列的に順を追って説明できるようになるとともに、若干の主観的表現を学び、過去、現在の出来事にコメントが出来るようになる。また、聞き手との社会関係を配慮した表現が選択できるようになる。		
具体的な 到達目標	自分のスケジュール、不可抗力で発生した出来事、誰かに何かをしてあげた、又は、してもらったことなどのトピックをテーマにした会話文が読めて理解できるようになる。自分の将来の計画について660 字程度の作文が辞書なしで書けるようになる。		
授業の内容	<p>第 1－2 週：テ形、普通体、「～んです」表現の復習  第 2 週：可能形を使って自分ができていることを説明する  第 3 週：授受表現を使ってプレゼントのやりもらい経験を話す  第 4 週：連体修飾節を使ってモノについての詳しい説明を行う  第 5－6 週：授受表現を使って行為のやりもらい経験を話す  第 6－7 週：人から聞いた話を、伝聞表現を使ってレポートする。「たら」「前に」「てから」などを使って二つの出来事の前後関係を広告する。  第 8－9 週：復習  第 10 週：他動詞と自動詞の違いを知り、構文の正確性を高める  第 11 週：尊敬語を学ぶことを通して日本語では話し手と聞き手の社会関係がコード化されていることを学ぶ。「はず」を使って確信できる事柄の説明をする。  第 12 週：謙譲語 1、謙譲語 2 を学び、へりくだった表現ができるようになる  第 13 週：間接受け身文を使って不可抗力の出来事について話す  第 14－15 週：使役表現を使って、出来事の引き起こしについて言及する</p> <p>【学生がより深く学べるための工夫】  授業の基本は「文法説明・パターン練習・会話練習」。学生の理解度は宿題でチェック。基礎が理解できているかどうかをチェックするために毎週宿題のプリントが受講者に配布される。文法の習得は会話練習を行いその定着が図られる。</p>		
時間外学習	予習・復習それぞれに 2 時間の学習時間が必要。		
教科書	げんき II（ジャパントイムズ出版）		
参考書	日本語文法辞典（初級編）、日本語文法辞典（中級編）（ジャパントイムズ出版）		
成績評価の方法 及び評価割合	語彙聞き取りクイズ（毎週：10%）、エッセイ 1、エッセイ 2（各5%）、中間テスト（15%）、大分散策（5%）、会話テスト 1、会話テスト 2（それぞれ10%、15%）、期末テスト（25%）、宿題（10%）		
備考・注意事項	70%以上の出席がないと期末試験は受けられない。この科目は日本語 2 会話、日本語 2 会話と一緒に受講しなければならない。		



授業科目名	日本語 2 読解		
担当教員	大坪 美奈子	所属部局	国際教育推進センター (非)
単 位	2	学期 曜日・時限	前期：月曜 1 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp		
授業のねらい	初級前半修了程度の学習者の読解力の向上のための新たな語彙、表現、漢字の習得		
具体的な 到達目標	約 300 の基本漢字の書き方と読み方 ・ 基本漢字から派生する語彙の習得 ・ 短い文章の読解 ・ 身近な出来事についての作文		
授業の内容	1. オリエンテーション&初級の復習 (1) 2. 初級の復習 (2) 3. 日本のおもしろい経験 (1) 4. 日本のおもしろい経験 (2) 5. 悩みの相談 6. 私が好きな所 7. まんが「ドラえもん」 8. 中間テスト 9. オノ・ヨーコ 10. 大学生活 11. 手紙とメール 12. 猫の皿 13. 厄年 14. 友美さんの日記 15. これはどんな顔？ 16. 期末試験 【学生がより深く学べるための工夫】 この授業では前回の授業で習った漢字のテストを行う。 また、新しく習得した語彙、表現、漢字を使用した読解、作文、会話の練習を行う。		
時間外学習	課題や自主学習に週 4 時間取り組む必要がある。 予習・復習は必須。予習をしている前提で授業を進める。		
教科書	『初級日本語 げんきⅡ 第3版』(The Japan Times)		
参考書	『新漢英辞典』(研究社) 『日本語基本文法辞典』 (The Japan Times)		
成績評価の方法 及び評価割合	授業への積極的な参加 (10%)、宿題 (20%)、小テスト (10%)、 中間・期末テスト (60%)		
備考・注意事項	出席率が 70%を割る場合は、期末テストが受けられない。 本授業計画は受講者の理解度・習熟度に応じて、変更される可能性がある。		



授業科目名	日本語 3 文法		
担当教員	坂井 美恵子	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	前期： 木曜 2 限 後期： 火曜 2 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 7 番      097-554-7516      msakai@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	このコースは初級レベルを修了した学習者を対象にしており、初級レベルで学習した基本的な文法を、話題や場面に応じて適切に運用できるようになること、また、日常会話を支障なく行うために必要となる文型や語彙を習得することを目的とする。		
具体的な 到達目標	1. 日常生活の様々な場面において必要とされる文型や語彙を学ぶ。 2. 話題や場面に応じて必要となる文法や文型を自ら選び出し、適切に運用できるようになる。 3. 日常会話が支障なく行えるよう、正確に話せるようになる。 4. さまざまな場面の会話を聞き取り、内容把握ができるようになる。		
授業の内容	以下のトピックについて流暢に話ができるよう練習を行う。そのときに必要となる文型、語彙、表現を学ぶ。 1. 友人や家族の紹介 2. 子供のころの思い出 3. 性格 4. 状況の説明 5. 自国の紹介 6. 自国を旅行する友だちへのアドバイス 7. 旅行の計画 8. 生活の変化 9. 国民性の比較 10. 日本の生活習慣や印象 11. 将来の希望や夢 12. 30年後の世界 13. 食と健康 14. ストレス解消法 15. 若者言葉  【学生がより深く学べるための工夫】 コミュニケーション能力の向上のため、毎回ペアワークやロールプレイ、聴解練習を取り入れる。		
時間外学習	聴解練習、各課の予習・復習など毎週 2 時間程度の時間外学習を課す。		
教科書	『J Bridge to Intermediate Japanese』（凡人社）		
参考書	『日本語文法辞典[中級編]』（The Japan Times）		
成績評価の方法 及び評価割合	レッスンテスト （30%）、 期末テスト （30%）、 単語テスト（15%）、 宿題・態度など （25%） 出席率が 70%以下の場合は、期末テストを受ける資格がなくなる。		
備考・注意事項	日本語 2 修了、もしくはプレースメントテストにおいて同等のレベル修了と判定されることを履修の条件とする。 日本語 3 文法と日本語 3 会話は同時に受講しなければならない。		

授業科目名	日本語 3 会話		
担当教員	坂井 美恵子	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	前期・後期：水曜 2 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 7 番                      097-554-7516                      msakai@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	このコースは初級レベルを修了した学習者を対象にしており、初級レベルで学習した基本的な文法を、話題や場面に応じて適切に運用できるようになること、また、日常会話を支障なく行うために必要となる文型や語彙を習得することを目的とする。		
具体的な 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常生活の様々な場面において必要とされる文型や語彙を学ぶ。</li> <li>2. 話題や場面に応じて必要となる文法や文型を自ら選び出し、適切に運用できるようになる。</li> <li>3. 日常会話が支障なく行えるよう、正確に話せるようになる。</li> <li>4. さまざまな場面の会話を聞き取り、内容把握ができるようになる。</li> </ol>		
授業の内容	<p>以下のトピックについて流暢に話ができるよう練習を行う。そのときに必要となる文型、語彙、表現を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 友人や家族の紹介</li> <li>2. 子供のころの思い出</li> <li>3. 性格</li> <li>4. 状況の説明</li> <li>5. 自国の紹介</li> <li>6. 自国を旅行する友だちへのアドバイス</li> <li>7. 旅行の計画</li> <li>8. 生活の変化</li> <li>9. 国民性の比較</li> <li>10. 日本の生活習慣や印象</li> <li>11. 将来の希望や夢</li> <li>12. 30年後の世界</li> <li>13. 食と健康</li> <li>14. ストレス解消法</li> <li>15. 若者言葉</li> </ol> <p>【学生がより深く学べるための工夫】 コミュニケーション能力の向上のため、毎回ペアワークやロールプレイ、聴解練習を取り入れる。</p>		
時間外学習	聴解練習、各課の予習・復習など毎週 2 時間程度の時間外学習を課す。		
教科書	『J Bridge to Intermediate Japanese』（凡人社）		
参考書	『日本語文法辞典[中級編]』（The Japan Times）		
成績評価の方法 及び評価割合	<p>レッスンテスト（30%）、 期末テスト（30%）、 単語テスト（15%）、 宿題・態度など（25%） 出席率が 70% 以下の場合は、期末テストを受ける資格がなくなる。</p>		
備考・注意事項	<p>日本語 2 修了、もしくはプレースメントテストにおいて同等のレベル修了と判定されることを履修の条件とする。 日本語 3 文法と日本語 3 会話は同時に受講しなければならない。</p>		

授業科目名	日本語 3 読解Ⅱ		
担当教員	大坪 美奈子	所属部局	国際教育推進センター (非)
単 位	2	学期 曜日・時限	前期：火曜 1 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp		
授業のねらい	身近な日本についての初中級レベルの短い文章を読み、理解できるようになること		
具体的な 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章の構成を理解する。</li> <li>・ 文章の中から必要な情報をすばやく探す。</li> <li>・ 接続詞や副詞の適切な使い方を学ぶ。</li> <li>・ 日本の生活や文化について学ぶ。</li> </ul>		
授業の内容	1. ガイダンス 2. 読み物① 3. 読み物② 4. 読み物③ 5. 読み物④ 6. 読み物⑤ 7. 読み物⑥ 8. 中間試験 9. 読み物⑦ 10. 読み物⑧ 11. 読み物⑨ 12. 読み物⑩ 13. 読み物⑪ 14. 読み物⑫ 15. 復習 16. 期末試験 【学生がより深く学べるための工夫】 ペアやグループで内容について話し合う時間を設ける。		
時間外学習	復習や小テストの準備などの時間外学習を必要とする。		
教科書	毎回、教材を配布する。		
参考書	参考書は指定しない		
成績評価の方法 及び評価割合	授業への取組み・態度、小テスト等 (30%)、中間試験 (30%)、期末試験(40%) 出席率が70%を割った場合は期末テストを受ける資格がない。		
備考・注意事項	この授業は初級レベルを修了した学生向けで、プレイスメントテストでレベル3以上と判定された学生が対象である。授業は日本語で行う。		

授業科目名	日本語 3 作文 II		
担当教員	大坪 美奈子	所属部局	国際教育推進センター (非)
単 位	2	学期 曜日・時限	前期：木曜 4 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp		
授業のねらい	初中級レベルの文法、表現、語彙を使用し、身近なトピックについて 600～700 字程度の作文が書けるようになる。		
具体的な 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段落を意識した作文が書けるようになる。</li> <li>・文の構成を理解し接続詞や副詞を効果的に使った文章を書く。</li> <li>・原稿用紙の使用の仕方を学ぶ。</li> </ul>		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 許可を求める</li> <li>3. 感謝を表す</li> <li>4. 誘い、依頼を断る</li> <li>5. 商品を宣伝する</li> <li>6. 自己 PR する</li> <li>7. 復習 8. 中間試験</li> <li>9. イベント情報を伝える</li> <li>10. 感情を表現する</li> <li>11. アドバイスする①</li> <li>12. アドバイスする②</li> <li>13. 将来を予測する</li> <li>14. 過去と現在を比較する</li> <li>15. 復習</li> <li>16. 期末試験</li> </ol> <p>【学生がより深く学べるための工夫】 各授業でペアワークや短い発表をする。</p>		
時間外学習	授業後の復習 発表の練習		
教科書	毎時間教師がハンドアウトを配布する		
参考書	授業で提示する		
成績評価の方法 及び評価割合	授業態度・宿題 (10%)、課題 (20%)、発表 (15%)、試験 (55%)		
備考・注意事項	この授業は初級レベルを修了した学生向けで、プレイスメントテストでレベル3以上と判定された学生が対象である。ひらがな、カタカナ、基本漢字 300 字を習得していることが必要である。授業は日本語で行う。 出席率が 70% 以下の場合は期末 試験を受けられない。		

授業科目名	多読で学ぶ日本語		
担当教員	坂井 美恵子	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	(前期) 月曜 4 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟3階7番                      097-554-7516                      msakai@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	多読とは、辞書を使わないで読めるやさしい本を、たくさん、楽しく、速く読むことで、効果的な外国語学習法です。この授業では、やさしく短い読み物を読むことから始め、少しずつ長さや日本語のレベルを上げていくことで、日本語で書かれた本をより速く、より多く読めるようになるだけでなく、話す力、書く力も伸ばすことを目指しています。		
具体的な 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語で書かれた本や多読用図書を、楽しみながら多く読む</li> <li>・本を読む習慣を身に付け、日本語で読むことに対する抵抗をなくす</li> <li>・日本語を速く読む力、読解力、語彙力を身に付ける</li> <li>・話す力と書く力を含む日本語能力を向上させる</li> </ul>		
授業の内容	<p>教員が用意する多読用図書や、図書館にある本の中から各自で好きなものを選び、それぞれ読み進めていきます。授業中と授業外で、できるだけたくさん本を読みます。毎週、読んだ本のページ数、内容と感想、読み方について気付いたことを記録し、提出します。また、毎回、小グループで読んだ本について紹介し合います。その他、物語を一つ書きます。また、最後に、読んだ本の中からおすすめの本を一冊選んでブックトレイラーを作成し、クラスで発表します。</p> <p>第1週 オリエンテーション（多読図書の紹介、読み方の紹介）  第2週 多読①  第3週 グループで本の紹介、多読②  第4週 グループで本の紹介、多読③  第5週 グループで本の紹介、多読④  第6週 グループで本の紹介、多読⑤  第7週 グループで本の紹介、多読⑥  第8週 物語を書く  第9週 グループで本の紹介、多読⑦  第10週 グループで本の紹介、多読⑧  第11週 グループで本の紹介、多読⑨  第12週 グループで本の紹介、多読⑩  第13週 発表の準備（ブックトレイラー作成）  第14週 おすすめの本の発表  第15週 おすすめの本の発表</p> <p>【学生がより深く学べるための工夫】  一冊読むごとに読書記録を付けるとともに、読んだ本について発表することにより、理解を深める。</p>		
時間外学習	多読を行う		
教科書	『レベル別日本語多読ライブラリー』『日本語多読ブックス』などの多読用図書は教員が用意する。		
参考書	『多読で学ぶ英語』（2006, リチャード・デイ他）		
成績評価の方法 及び評価割合	本の冊数（20%）、読書記録表の内容（20%）、グループ発表（10%）、物語を書く（15%）、ブックトレイラーの発表（25%）、授業態度（10%）		
備考・注意事項	プレイメントテストでレベル3～6と判定された学生を対象とする		

授業科目名	日本語 4 文法 II		
担当教員	大坪 美奈子	所属部局	国際教育推進センター (非)
単 位	2	学期 曜日・時限	前期：火曜 2 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp		
授業のねらい	1 年を通じて文法 I と文法 II を履修することで、中級レベル文法の理解を深め、正しく使えるようにする。		
具体的な 到達目標	名詞修飾や副詞・接続詞などを理解し、適切に使えるようになることを目指す。		
授業の内容	<p>日本語 4 文法 I と同じ教科書を使い、この授業では 7 課から 16 課までを学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 複文構造</li> <li>3. 名詞修飾</li> <li>4. 複文を作る言葉 1</li> <li>5. 複文を作る言葉 2</li> <li>6. 複文を作る言葉 2、3</li> <li>7. 複文を作る言葉 3</li> <li>8. 中間試験</li> <li>9. 否定の言い方</li> <li>10. わたしからの発信 1</li> <li>11. わたしからの発信 1、2</li> <li>12. わたしからの発信 2</li> <li>13. 決まった使い方の副詞①</li> <li>14. 決まった使い方の副詞②／接続の言葉①</li> <li>15. 接続の言葉②</li> <li>16. 期末試験</li> </ol> <p>【学生がより深く学べるための工夫】 習った文法を使って、その場で実際に例文を作ってみる時間を設ける。</p>		
時間外学習	宿題・復習など毎週 2 時間程度の時間外学習を必要とする。		
教科書	『中級日本語文法要点整理ポイント 20』スリーエーネットワーク社		
参考書	『日本語基本文法辞典』『日本語文法辞典(中級編)』ジャパントイムズ		
成績評価の方法 及び評価割合	授業への取組み・態度等 (30%)、中間試験 (30%)、期末試験(40%) 出席率が 70% を割った場合は、期末テストを受ける資格がない。		
備考・注意事項	この授業は日本語中級レベルの学習者で、プレイスメントテストでレベル 4 と判定された者を対象とする。少なくとも漢字 500 字以上の知識が必要である。授業は日本語でおこなう。		



授業科目名	日本語 4 スピーキング		
担当教員	坂井 美恵子	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	前期： 木曜 1 限 後期： 火曜 1 限
担当教員研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 7 番                      097-554-7516                      msakai@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	中級後半レベルの学習者を対象に、大学生活をおくる上で必要となる日常の様々な場面に対応できるスピーキング能力と聴解力の向上を目指す。また、自分たちが暮らしている大分県の情報を集め、町に出て取材をすることにより、大分県の特色や魅力を探り、日本について理解を深める。		
具体的な 到達目標	1. クラスメートや日本人との日本語によるコミュニケーションを通じ、適切な表現を使用し、一般的な話題について正確かつ活発に会話ができる。 2. 総合的な日本語の運用能力を高め、ある程度まとまった量の話ができる。 3. フォーマルな場面とインフォーマルな場面での表現の使い分けを習得する。 4. 自然なスピードで話される様々な場面の会話を聞き取り、内容を説明できる。		
授業の内容	<p>前半は以下の各々の場面で必要とされる表現や語彙を学び、ロールプレイによるインターアクティブな会話練習や聴解練習を行う。また、ある程度まとまった内容を話すための口頭発表も行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 貸してもらう</li> <li>3. 勧誘する・断る</li> <li>4. 許可を求める・与える</li> <li>5. 予定を変更する</li> <li>6. 使い方を説明する</li> <li>7. 口頭発表</li> <li>8. 口頭発表</li> <li>9. 中間試験</li> </ol> <p>後半はグループ活動を行う。まず、各グループでテーマを決め、日本人にインタビュー調査を行い、詳しい情報や予備知識を得る。その上で、テーマとした場所を実際に訪問し、調査対象を取材し、提言を考える。調査結果をビデオにまとめてクラスで発表し、提言について話し合う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>10. お気に入りの大分（1）会話練習・テーマ決め</li> <li>11. お気に入りの大分（2）インタビュー調査</li> <li>12. お気に入りの大分（3）調査結果のまとめと分析</li> <li>13. お気に入りの大分（4）取材と撮影</li> <li>14. お気に入りの大分（5）発表準備と字幕付け</li> <li>15. お気に入りの大分（6）発表・提言について話し合い</li> <li>16. 期末口頭試験</li> </ol> <p>【学生がより深く学べるための工夫】 発表では個別にエラーの修正やフィードバックを行い、各学生が自分の弱点に気づき、自ら修正できる能力を身につけることを目指す。</p>		
時間外学習	聴解練習、日本人へのインタビュー調査、実地調査準備、発表の準備など毎週 2 時間程度の時間外学習を課す。		
教科書	『新版 聞いて覚える話し方 日本語生中継 中～上級』くろしお出版		
参考書	『にほんご会話上手！』ask 出版		
成績評価の方法 及び評価割合	宿題（10%）、単語クイズ（10%）、中間試験（30%）、期末試験（15%）、口頭発表（10%）、プロジェクト（15%）、クラス参加・態度など（10%）		
備考・注意事項	日本語 3 修了、またはプレースメントテストにおいて同等のレベル修了と判定されることを履修の条件とする。 出席率が 70% 以下の場合は、最終プロジェクトの参加は認められない。		

授業科目名	日本語 4 読解Ⅱ		
担当教員	西島 順子 <sup>よりこ</sup>	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	前期 金曜 2 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 3 - 6 番    097-554-7667    y-nishijima@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	この授業のねらいは、論説文や小説、エッセイ、俳句など、さまざまなジャンルの文章を読みながら、中上級レベルの語彙や表現を習得し、読解力を身に付けることである。これらの読解を通して、日本の社会や文化への理解を深めるだけでなく、それぞれのテーマについて自ら考える力を養う。		
具体的な 到達目標	1. 多様なジャンルのまとまった文章を読むことができる。 2. 文章を読んで、未知の情報や筆者の考えを正確に理解することができる。 3. 文章を読んで得た知識を身近なこととしてとらえ、考えを深めることができる。		
授業の内容	1. オリエンテーション／論説文① 2. エッセイ① 3. 論説文② 4. エッセイ② 5. エッセイ③ 6. 論説文③-1 7. 論説文③-2 8. 中間試験 9. 詩 10. 小説① 11. 論説文④-1 12. 論説文④-2 13. 小説② 14. エッセイ④ 15. 短歌・俳句 16. 期末試験  【学生がより深く学ぶための工夫】 海外でも人気がある作家（村上春樹、吉本ばなな、大江健三郎など）の作品を読む。内容理解だけではなく、本文で提起されている問題やテーマについて、話したり、調べたりすることで、自身の問題として考え、自分なりの見方を持つ。		
時間外学習	毎週、予習と課題を行う。 単語クイズのための復習をする。		
教科書	教材配布		
参考書	西原純子他、『中上級学習者向け日本語教材 日本文化を読む』アルク、2012		
成績評価の方法 及び評価割合	中間試験（30%）、期末試験（30%）、課題（20%）、単語クイズ（20%）		
備考・注意事項	このコースを受講できるかどうかは、プレイスメントテストの結果による。中級レベルの日本語学習者を対象とし、漢字 500 字、語彙 3000 語程度の知識があることを前提としている。 出席率が 70%に満たない場合は、期末テストを受ける資格はない。		

授業科目名	日本語 4 作文Ⅱ		
担当教員	西島 <small>よりこ</small> 順子	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	前期 水曜 1 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 3 - 6 番    097-554-7667    y-nishijima@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	この授業のねらいは、さまざまなテーマに関わる語彙や表現を習得しながら、わかりやすく、詳細に文章が書けるようになることである。また、論理的に書くことを学び、アカデミック・ライティングの基礎を築く。		
具体的な 到達目標	1. テーマに関連した語彙や表現を習得し、わかりやすい文章が書ける。 2. やや複雑なことでも、意見や情報を伝えることができる。 3. 800 字以上の論理的なレポートが書けるようになる。		
授業の内容	1. オリエンテーション／はじめに 2. 自己紹介 3. 旅行（書き言葉で書く） 4. 異文化理解 5. 子供の遊び 6. 建築物 7. 仕事 8. ピアリーディング① 9. 論理的に書く 10. 引用する 11. グラフを読む＆書く 12. 社会問題 13. 適切な文を書く 14. アカデミックなレポートの基礎知識 15. ピアリーディング②／総括  【学生がより深く学ぶための工夫】 学生が書きたくなるようなテーマを選んでいる。ディスカッションし、楽しみながら書くことで、ライティングへの苦手意識を克服する。また、ピアリーディングを行うことで、クラスメートが互いに文章技術を学び、レベルアップを図る。		
時間外学習	原則として、毎週課題を提出する。		
教科書	教材配布		
参考書	藤尾喜代子、『大学で学ぶための日本語ライティング』ジャパントイムズ、2006 杉浦千里、『書くことを楽しむ 中級作文』凡人社、2020 伊集院郁子『日本語を学ぶ人のためのアカデミック・ライティング講座』ASK、2020		
成績評価の方法 及び評価割合	中間レポート（30%）、期末レポート（30%）、各課題（40%）		
備考・注意事項	このコースを受講できるかどうかは、プレイスメントテストの結果による。中級レベルの日本語学習者を対象とし、漢字 500 字、語彙 3000 語程度の知識があることを前提としている。 出席率が 70%に満たない場合は、期末レポートを提出する資格はない。		

授業科目名	日本語 4 応用 II		
担当教員	大坪 美奈子	所属部局	国際教育推進センター (非)
単 位	2	学期 曜日・時限	前期：木曜 2 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp		
授業のねらい	この授業は中級レベル日本語学習で習得した文法、語彙、そして会話などの知識や能力を実践的な文脈に応用させることを目的としている。また様々なトピックについて日本語で議論や分析を行うことでそのテーマの理解を深めることを目指す。		
具体的な 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語で簡単なディスカッションが行えるようになる。</li> <li>・日本語で自己表現が行えるようになる。</li> <li>・日本の文化や社会についての理解を深める。</li> </ul>		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. メディアから学ぶ日本語①</li> <li>3. メディアから学ぶ日本語②</li> <li>4. メディアから学ぶ日本語③</li> <li>5. メディアから学ぶ日本語④</li> <li>6. メディアから学ぶ日本語⑤</li> <li>7. メディアから学ぶ日本語⑥</li> <li>8. メディアから学ぶ日本語⑦</li> <li>9. メディアから学ぶ日本語⑧</li> <li>10. プロジェクトの企画</li> <li>11. プロジェクトの企画</li> <li>12. プロジェクト発表の準備</li> <li>13. プロジェクト発表・感想文</li> <li>14. プロジェクト発表・感想文</li> <li>15. プロジェクト発表・感想文</li> <li>16. 期末試験</li> </ol> <p>【学生がより深く学べるための工夫】 メディアの日本語から言葉の使われ方・慣用表現などを学び、学習者同士の簡単なディスカッションをおこなう。</p>		
時間外学習	復習・課題など、毎週 2 時間程度の学習を必要とする。		
教科書	毎回、教材を配布する。		
参考書	参考書は指定しない		
成績評価の方法 及び評価割合	授業での積極的な討議参加 (20%)、プロジェクト (30%)、 その他課題 (20%)、期末試験 (30%)		
備考・注意事項	この授業を履修する学生は、日本語中級レベル (レベル 4 程度) の他の授業を履修済みであること、または同時に履修することを勧める。 出席率が 70% に満たない場合、期末試験を受ける資格はない。		

授業科目名	日本語 5 スピーキング		
担当教員	大坪 美奈子	所属部局	国際教育推進センター (非)
単 位	2	学期 曜日・時限	前期・後期 : 月曜 2 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp		
授業のねらい	この授業では、上級レベルの学習者に求められる能力の一つとして、まとまった内容の話ができるように、日本語会話力の向上を目指す。		
具体的な 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・複数の段落で構成されたまとまりのある話が3分間程度できるようになる。</li> <li>・詳しい描写や複雑なことの説明、できごとの説明などができるようになる。</li> <li>・失礼にならない話し方や話題に適した話し方ができるようになる。</li> <li>・異なる考えを認めながら、よい話し手・聞き手になる。</li> </ul>		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 自己紹介で好印象を与えよう</li> <li>3. きっかけを語ろう</li> <li>4. 失くした体験を話そう</li> <li>5. 町の様子を話そう</li> <li>6. 動きの順序を説明しよう①</li> <li>7. 動きの順序を説明しよう②</li> <li>8. 中間試験</li> <li>9. 趣味についてそのおもしろさを伝えよう</li> <li>10. 言いかえて説明しよう</li> <li>11. 比べて良さを伝えよう①</li> <li>12. 比べて良さを伝えよう②</li> <li>13. 最近の出来事を話そう</li> <li>14. 健康について話そう</li> <li>15. 将来の夢を語ろう</li> <li>16. 期末試験</li> </ol> <p>【学生がより深く学べるための工夫】 ペアやグループで会話する時間を設ける。 他の人の話し方を観察することで客観的に学ぶことができる。 日本語の発音や抑揚に慣れるため、授業や課題の中でシャドーイングを行う。</p>		
時間外学習	単語やフレーズの復習、宿題など毎週2時間程度の時間外学習を必要とする。		
教科書	その都度教材を配布する		
参考書	『日本語上級話者への道』スリーエーネットワーク社		
成績評価の方法 及び評価割合	授業への取組み・態度等(30%)、中間試験(30%)、期末試験(40%) 出席率が70%を割った場合は、期末テストを受ける資格がない。		
備考・注意事項	この授業は日本語上級レベルの学習者を対象とする。日本語4スピーキング修了(成績B以上)、あるいはプレイスメントテストでレベル5以上と判定されていることが必要である。 第1回目の授業で受講者を決めるため、履修希望者は必ず出席すること。		



授業科目名	日本語 5 読解・作文Ⅱ		
担当教員	坂井 美恵子	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	(前期) 水曜 1 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 7 番                      097-554-7516                      msakai@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	この授業は上級レベルの学習者を対象にし、日本語 5 読解・作文Ⅰでは扱わなかった分野の論説文を読むことにより、専門分野の論文を読むための読解力の基礎をさらに充実させることを目指す。また、日本語 5 読解・作文Ⅰとは異なった作家の短編小説を読み、現代の日本文学に親しみ、論説文とは違う分野の語彙や表現の習得を目指す。さらに、論理的な文章が書けるようになることを目指す。		
具体的な 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1200字程度の短い論説文から2000字程度の論説文へと段階的にすすみ、内容を把握し、語彙や表現を増やす。</li> <li>2. 論文を読むための基礎となる文章の論理構造について学び、大意を把握し、必要な情報を読み取る。</li> <li>3. 日本語で書かれた小説の内容を理解する。</li> <li>4. 日本人の物の見方や考え方、日本文化などに触れ、意見を述べることができる。</li> <li>5. 段落の構成について学び、文章の要約や意見文が書ける。</li> </ol>		
授業の内容	<p>I. 読解：各週、以下の構造に注目し、現在の日本社会で問題となっている話題に関する論説文を読む。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 書き言葉の特徴</li> <li>2. 段落内の構造</li> <li>3. アウトラインと複文</li> <li>4. 文の構造と論の展開方法 1</li> <li>5. 論の展開方法 2 (文末表現)</li> <li>6. 要約</li> <li>7. 中間試験</li> </ol> <p>II. 作文：各週、以下の文章の組み立て方や表現を習得し、作文を書く。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 作文の基本 (文体と表現) と原稿用紙の使い方</li> <li>9. 状況説明と意見の述べ方</li> <li>10. 対比と比較のしかた</li> <li>11. 文章の要約のしかた</li> </ol> <p>III. 小説：各週、現代の短編小説を読み、内容を理解し、言葉や表現について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>12-15. 小説</li> <li>16. 期末試験</li> </ol> <p>【学生がより深く学べるための工夫】 作文はピアリーディングによるフィードバックを行い、学生同士で学び合いができるようにする。ピアと教師両者によるフィードバックを参考にして書き直し、再提出する。</p>		
時間外学習	本文の予習・復習、作文等毎週 2 時間程度時間外学習を課す。		
教科書	『改訂版 大学・大学院留学生の日本語 3 論文読解編』アルク その他ハンドアウトを配布する。		
参考書	『改訂版 大学・大学院留学生の日本語 4 論文作成編』アルク		
成績評価の方法 及び評価割合	中間試験 (30%)、期末試験 (30%)、作文 (20%)、宿題 (10%)、 クラス参加・態度など (10%)		
備考・注意事項	受講可能かどうかはプレイスメントテストの結果による。受講者は日本語 5 読解・作文Ⅰを受講している必要はないが、日本語能力試験 N 1 程度の日本語能力があることが望ましい。出席率が70%以下の場合は期末試験を受ける資格がない。		



授業科目名	日本語 5 文法Ⅱ		
担当教員	西島 <small>よりこ</small> 順子	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	前期 金曜 1 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 3 - 6 番    097-554-7667    y-nishijima@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	日常会話の多様な表現、あるいは大学の講義を理解するために必要とされる表現を身に付けるため、中・上級表現文型と語彙の使い方や意味を正確に理解し、適切に運用する力をつける。		
具体的な 到達目標	1. 上級レベル（N1）の日本語文法と語彙を習得する。 2. 類似表現の意味や使い方の違いを理解できる。 3. 類似表現の違いを理解したうえで、それらを運用できる。		
授業の内容	1. オリエンテーション／比較 2. 状況 3. 例示 4. 感情 5. 基準 6. 立場 7. 結末 8. 中間試験 9. 可能・難易 10. 意志 11. 判断 12. 否定 13. 反復 14. その他 15. 総括 16. 期末試験  【学生がより深く学ぶための工夫】 学習した文型を使って短文を作り、学生が互いに添削できるように板書する。誤用があれば、クラス全員で考える。それによって、日本語に対する鋭い言語感覚を身に付ける。		
時間外学習	予習と復習を行う。 毎週の課題を提出する。		
教科書	教材配布		
参考書	友松悦子、『どんな時どう使う 日本語表現文型辞典』アルク、2010 大阪 YMCA、『くらべてわかる 日本語表現文型辞典』ジェイ・リサ-チ出版、2008 アスク出版編集部、『生きた例文で学ぶ 日本語表現文型辞典』アスク出版、2008		
成績評価の方法 及び評価割合	中間試験（40%）、期末試験（40%）、課題（20%）		
備考・注意事項	この授業は上級レベルの学習者を対象とし、日本語能力試験 N 2 と同等レベルの文法の知識があることを前提としている。このコースを受講できるかどうかは、プレイメントテストの結果による。 出席率が 70% に満たない場合は、期末試験を受ける資格はない。		

授業科目名	日本研究ⅠⅠ		
担当教員	南里 敬三、GAIA 教員	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	前期 金曜 5 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 5 番 097-554-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	このコースは、日本語日本文化研修生を対象としており、（日本語で）論文を書き上げることを目的とする。		
具体的な 到達目標	仮説の微調整とデータの収集の微調整のやり方を習得し論文を書きあげる技術を身につける。論文の長さは1 万字前後。		
授業の内容	<p>第1 週 - 第5 週：仮説の絞り込み。 【学生がより深く学べるための工夫】 抽象的仮説から具体的表現を使用した仮説へと移行していく。その一方でデータ収集も始める。仮説が具体化していくのは通常5 月の初めから中旬にかけて。ステップ・バイ・ステップで論文指導をしていく。また、指導教員、論文支援チューター、日研生と三人がチームを組んで論文作成に当たるので安心して論文が書けるだろう。</p> <p>第6 週 - 第10 週：仮説の微調整とデータ分析。 【学生がより深く学べるための工夫】 集めたデータの中には実際に仮説の検証に必要なものとそうでないものがある。いらないデータがなんであるのか、それは仮説がしっかりたてられているかによる。自分の立てた仮説をしっかり理解してデータ分析を行う。データ分析の記述については既にテンプレートがあるのでそれに沿ってデータ分析の箇所を書いていく。</p> <p>第11 週 - 第15 週：論文を完成させる。 【学生がより深く学べるための工夫】 アウトラインが出来上がり、それに沿って論文に文字通り肉付けしていく作業が中心となるが、仮説の採取調節とそれに基づいて論文の「はじめに」の部分などがこの段階で完成し、論文全体の完成となる。すべてステップ・バイ・ステップで進んでいくので安心して論文指導が受けられるだろう。</p>		
時間外学習	3 時間の予習と 1 時間の復習が必要である。		
教科書	なし。		
参考書	学生の研究分野・テーマごとに必要な参考文献リストを配布する。		
成績評価の方法 及び評価割合	論文（100%）		
備考・注意事項	論文の内容は、日研生プログラムの開始時の日研生の日本語力にあわせて設定する。		

授業科目名	大学院入学前予備教育日本語初級集中		
担当教員	GAIA 教員	所属部局	国際教育推進センター
単 位	未定	学期 曜日・時限	未定
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階		
授業のねらい	このコースは、国費留学生を対象とした初級集中日本語コースで、話す、聞く、書く、読む、の四技能を学びます。文法説明は英語で行われるために、簡単な英語力が必要となります。		
具体的な 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎的な日常会話ができるようになる</li> <li>・ ひらがな、カタカナ、基本漢字の読み書きができるようになる</li> <li>・ 短い文章が読め、書けるようになる</li> </ul>		
授業の内容	<p>以下の場面で必要となる文法、表現、語彙を学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 挨拶</li> <li>2. 自己紹介</li> <li>3. 数・時間を表す</li> <li>4. 買い物</li> <li>5. 予定を話す</li> <li>6. 約束をする</li> <li>7. 誘う</li> <li>8. 場所を説明する</li> <li>9. 過去のことを話す</li> <li>10. 好き嫌いを表す</li> <li>11. 理由を話す</li> <li>12. 依頼する</li> <li>13. 許可する</li> <li>14. 禁止する</li> <li>15. 家族紹介</li> </ol> <p>【学生がより深く学べるための工夫】</p> <p>学生は授業で扱う文法について予め文法解説を読み、基礎知識を得た上で、音声教材を利用して口頭練習を行ってから授業に参加する。授業内では実践に近い状況を設定し、教師対学生、学生対学生による会話練習を行う。</p>		
時間外学習	各課の予習・復習など毎週 2 時間程度の時間外学習を課す。		
教科書	『初級日本語げんき I』 (The Japan Times) 『初級日本語げんき I ワークブック』 (The Japan Times)		
参考書	『日本語文法辞典』 (The Japan Times)		
成績評価の方法 及び評価割合	小テスト・宿題 (30%)、 会話テスト (30%)、 期末テスト (40%)		
備考・注意事項	大学院入学前予備教育の国費留学生を対象とする。		

授業科目名	日本語 2 読解		
担当教員	藤田 明美	所属部局	国際教育推進センター (非)
単 位	2	学期 曜日・時限	後期：月曜 1 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	akemi1027f@gmail.com		
授業のねらい	初級前半修了程度の学習者の読解力の向上のための新たな語彙、表現、漢字の習得		
具体的な 到達目標	約 300 の基本漢字の書き方と読み方 ・ 基本漢字から派生する語彙の習得 ・ 短い文章の読解 ・ 身近な出来事についての作文		
授業の内容	1. オリエンテーション&初級の復習 (1) 2. 初級の復習 (2) 3. 日本のおもしろい経験 (1) 4. 日本のおもしろい経験 (2) 5. 悩みの相談 6. 私が好きな所 7. まんが「ドラえもん」 8. 中間試験 9. オノ・ヨーコ 10. 大学生活 11. 手紙とメール 12. 猫の皿 13. 厄年 14. 友美さんの日記 15. これはどんな顔？ 16. 期末試験  【学生がより深く学べるための工夫】 この授業では前回の授業で習った漢字のテストを行う。 また、新しく習得した語彙、表現、漢字を使用した読解、作文、会話の練習を行う。		
時間外学習	課題や自主学習に週 4 時間取り組む必要がある。 予習・復習は必須。予習をしている前提で授業を進める。		
教科書	『初級日本語 げんきⅡ 第3版』(The Japan Times)		
参考書	『新漢英字典』(研究社) 『日本語基本文法辞典』 (The Japan Times)		
成績評価の方法 及び評価割合	授業への積極的な参加 (10%)、宿題 (20%)、小テスト (10%)、 中間・期末テスト (60%)		
備考・注意事項	出席率が 70%を割る場合は、期末テストが受けられない。 本授業計画は受講者の理解度・習熟度に応じて、変更される可能性がある。		

授業科目名	日本語 3 読解 I		
担当教員	大坪 美奈子	所属部局	国際教育推進センター (非)
単 位	2	学期 曜日・時限	後期：木曜 1 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp		
授業のねらい	言葉を覚えながら、初中級レベルの文章が理解できるようになることを目指す。		
具体的な 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文章の構成を理解する。</li> <li>・ 文章の中から必要な情報をすばやく探す。</li> <li>・ 接続詞や副詞の適切な使い方を学ぶ。</li> <li>・ 日本の生活や文化について学ぶ。</li> </ul>		
授業の内容	1. ガイダンス 2. 読み物① 3. 読み物② 4. 読み物③ 5. 読み物④ 6. 読み物⑤ 7. 読み物⑥ 8. 中間試験 9. 読み物⑦ 10. 読み物⑧ 11. 読み物⑨ 12. 読み物⑩ 13. 読み物⑪ 14. 読み物⑫ 15. 復習 16. 期末試験 【学生がより深く学べるための工夫】 ペアやグループで内容について話し合う時間を設ける。		
時間外学習	復習や小テストの準備などの時間外学習を必要とする。		
教科書	その都度教材を配布する		
参考書	参考書は指定しない		
成績評価の方法 及び評価割合	授業への取り組み・態度、小テスト等 (30%)、中間試験 (30%)、期末試験(40%) 出席率が70%を割った場合は期末テストを受ける資格がない。		
備考・注意事項	この授業は初級レベルを修了した学生向けで、プレイメントテストでレベル3以上と判定された学生が対象である。授業は日本語で行う。		

授業科目名	日本語 3 作文 I		
担当教員	藤田 明美	所属部局	国際教育推進センター (非)
単 位	2	学期 曜日・時限	前期： 月曜 2 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	akemi1027f@gmail.com		
授業のねらい	初中級レベルの文法、表現、語彙を使用し、身近なトピックについて 600～700 字程度の作文が書けるようになる。		
具体的な 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 段落を意識した作文が書けるようになる。</li> <li>・ 文の構成を理解し接続詞や副詞を効果的に使った文章を書く。</li> <li>・ 原稿用紙の使用の仕方を学ぶ。</li> </ul>		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 自己紹介</li> <li>3. みんなに友だちを紹介する</li> <li>4. 依頼する</li> <li>5. 物事を描写する</li> <li>6. ニュースを伝える</li> <li>7. 復習</li> <li>8. 中間試験</li> <li>9. 意見を述べる</li> <li>10. 将来を予測する</li> <li>11. 考えを主張する</li> <li>12. 日本人のイメージ</li> <li>13. インタビューの準備</li> <li>14. インタビューの結果とまとめ</li> <li>15. 発表</li> <li>16. 期末試験</li> </ol> <p>【学生がより深く学べるための工夫】 各授業でペアワークや短い発表をする</p>		
時間外学習	授業後の復習 発表の練習		
教科書	毎時間教師がハンドアウトを配布する		
参考書	授業で提示する		
成績評価の方法 及び評価割合	授業態度・宿題 (10%)、課題 (20%)、発表 (15%)、試験 (55%)		
備考・注意事項	この授業は初級レベルを修了した学生向けで、プレイスメントテストでレベル 3 以上と判定された学生が対象である。ひらがな、カタカナ、基本漢字 300 字を習得していることが必要である。授業は日本語で行う。 出席率が 70% 以下の場合は期末 試験を受けられない。		



授業科目名	日本語 4 文法 I		
担当教員	大坪 美奈子	所属部局	国際教育推進センター (非)
単 位	2	学期 曜日・時限	後期：月曜 1 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp		
授業のねらい	1 年を通じて文法 I と文法 II を履修することで、中級レベル文法の理解を深め、正しく使えるようにする。		
具体的な 到達目標	気持ちを表す助詞や、硬い文章、丁寧な表現などを理解し、適切に使えるようになることを目指す。		
授業の内容	<p>日本語 4 文法 II と同じ教科書を使い、この授業では 1 ～ 6 課と 17 ～ 20 課を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. いろいろな働きをする助詞</li> <li>3. 話題の取り立て</li> <li>4. 助詞の働きをする言葉 1</li> <li>5. 助詞の働きをする言葉 1、2</li> <li>6. 助詞の働きをする言葉 2</li> <li>7. 助詞の働きをする言葉 3</li> <li>8. 中間試験</li> <li>9. 名詞化の方法①</li> <li>10. 名詞化の方法②／語彙を広げる①</li> <li>11. 語彙を広げる②／硬い文章①</li> <li>12. 硬い文章②／ていねいな言い方①</li> <li>13. ていねいな言い方②</li> <li>14. 会話・文章のまとめ①</li> <li>15. 会話・文章のまとめ②</li> <li>16. 期末試験</li> </ol> <p>【学生がより深く学べるための工夫】 習った文法を使って、その場で実際に例文を作ってみる時間を設ける。</p>		
時間外学習	宿題・復習など毎週 2 時間程度の時間外学習を必要とする。		
教科書	『中級日本語文法要点整理ポイント 20』スリーエーネットワーク社		
参考書	『日本語基本文法辞典』『日本語文法辞典(中級編)』ジャパントイムズ		
成績評価の方法 及び評価割合	授業への取り組み・態度等 (30%)、中間試験 (30%)、期末試験 (40%) 出席率が 70% を割った場合は期末テストを受ける資格がない。		
備考・注意事項	この授業は日本語中級レベルの学習者で、プレイメントテストでレベル 4 と判定された者を対象とする。少なくとも漢字 500 字以上の知識が必要である。授業は日本語でおこなう。		

授業科目名	日本語 4 読解 I		
担当教員	西島 <small>よりこ</small> 順子	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	後期 金曜 1 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 3 - 6 番    097-554-7667    y-nishijima@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	この授業のねらいは、さまざまなテーマのエッセイや新聞記事、データなどを読みながら、大学で必要なアカデミックな文章を読むための読解力を身に付けることである。また、読解を通して、日本社会に関する知識を得るだけでなく、社会的なテーマについて自ら考える力を身に付けることである。		
具体的な 到達目標	1. 社会的テーマに関するまとまった文章を読むことができる。 2. 文章を読んで、未知の情報やデータを正確に理解することができる。 3. 文章を読んで、得た知識を身近なこととしてとらえ、考えが深められる。		
授業の内容	1. オリエンテーション 2. 人と出会う① 3. 人と出会う② 4. 違いを考える① 5. 違いを考える② 6. 生活になじむ① 7. 生活になじむ② 8. 中間試験 9. 子どもと教育① 10. 子どもと教育② 11. 子どもと教育③ 12. 若者の感性① 13. 若者の感性② 14. 若者の感性③ 15. 総括 16. 期末試験  【学生がより深く学ぶための工夫】 1 つのテーマにつき、追加の読み物やデータで視野を広げる。また、それぞれのテーマに関して、ディスカッションすることで身近な問題としてとらえる。		
時間外学習	毎週、予習と課題を行う。 単語クイズのため、復習をする。		
教科書	教材配布		
参考書	近藤安月子、『中級日本語教科書 わたしの見つけた日本』東京大学出版、2013 近藤安月子、『中・上級日本語教科書 日本への招待』東京大学出版、2008		
成績評価の方法 及び評価割合	中間試験（30%）、期末試験（30%）、課題（20%）、単語クイズ（20%）		
備考・注意事項	このコースを受講できるかどうかは、プレイスメントテストの結果による。中級レベルの日本語学習者を対象とし、漢字 500 字、語彙 3000 語程度の知識があることを前提としている。 出席率が 70%に満たない場合は、期末テストを受ける資格はない。		

授業科目名	日本語 4 作文 I		
担当教員	西島 <sup>よりこ</sup> 順子	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	後期 木曜 2 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 3 - 6 番    097-554-7667    y-nishijima@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	この授業のねらいは、大学生活で必要な作文技術を向上させ、大学生らしいレポートや発表原稿、メールなどが書けるようになることである。そのために、状況にふさわしい表現や文型を学ぶ。また、論理的な文章の書き方を知る。		
具体的な 到達目標	1. 状況（メール・レポート・発表原稿）に応じて文章を書くことができる。 2. 身近なことであれば、やや複雑なことでも説明できる。 3. 800 字以上の論理的なレポートが書けるようになる。		
授業の内容	1. オリエンテーション／自己紹介文 2. 故郷紹介 3. メールの書き方①：形式的なメール、基本的表現 4. メールの書き方②：状況に応じたメール 5. お気に入りを勧める 6. 助言する：大分での留学 7. ピアラーディング① 8. 書き言葉で書く 9. 違いを説明する 10. 出来事を伝える 11. 由来や意味を説明する 12. 意見を述べる 13. 論理的なつながりを考える 接続詞と指示詞 14. レポートの基本的知識 15. ピアラーディング②／総括  【学生がより深く学ぶための工夫】 学習したその日から使える実用的な表現を多く学ぶ。場面や条件を設定して、具体的な文章を毎週書くことで、実践的な練習を重ねる。また、ピアラーディングを行うことで、クラスメートが互いに文章技術を学び、レベルアップを図る。		
時間外学習	原則として、毎週課題を提出する。		
教科書	教材配布		
参考書	石黒圭、『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク、2009 友松悦子、『小論文への 1 2 のステップ』スリーエーネットワーク、2008		
成績評価の方法 及び評価割合	中間レポート（30%）、期末レポート（30%）、各課題（40%）		
備考・注意事項	このコースを受講できるかどうかは、プレイスメントテストの結果による。中級レベルの日本語学習者を対象とし、漢字 500 字、語彙 3000 語程度の知識があることを前提としている。 出席率が 70%に満たない場合は、期末レポートを提出する資格はない。		

授業科目名	日本語 4 応用 I		
担当教員	大坪 美奈子	所属部局	国際教育推進センター (非)
単 位	2	学期 曜日・時限	後期：火曜 2 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp		
授業のねらい	この授業は中級レベル日本語学習で習得した文法、語彙、そして会話などの知識や能力を実践的な文脈に応用させることを目的としている。また様々なトピックについて日本語で議論や分析を行うことでそのテーマの理解を深めることを目指す。		
具体的な 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語で簡単なディスカッションが行えるようになる。</li> <li>・日本語で自己表現が行えるようになる。</li> <li>・日本の文化や社会についての理解を深める。</li> </ul>		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. メディアから学ぶ日本語①</li> <li>3. メディアから学ぶ日本語②</li> <li>4. メディアから学ぶ日本語③</li> <li>5. メディアから学ぶ日本語④</li> <li>6. メディアから学ぶ日本語⑤</li> <li>7. メディアから学ぶ日本語⑥</li> <li>8. メディアから学ぶ日本語⑦</li> <li>9. メディアから学ぶ日本語⑧</li> <li>10. プロジェクトの企画</li> <li>11. プロジェクトの企画</li> <li>12. プロジェクト発表の準備</li> <li>13. プロジェクト発表・感想文</li> <li>14. プロジェクト発表・感想文</li> <li>15. プロジェクト発表・感想文</li> <li>16. 期末試験</li> </ol> <p>【学生がより深く学べるための工夫】 メディアの日本語から言葉の使われ方・慣用表現などを学び、学習者同士の簡単なディスカッションをおこなう。</p>		
時間外学習	復習・課題など、毎週 2 時間程度の学習を必要とする。		
教科書	毎回、教材を配布する。		
参考書	参考書は指定しない		
成績評価の方法 及び評価割合	授業での積極的な討議参加 (20%)、プロジェクト (30%)、その他課題 (20%)、期末試験 (30%)		
備考・注意事項	この授業を履修する学生は、日本語中級レベル (レベル 4 程度) の他の授業を履修済みであること、または同時に履修することを勧める。 出席率が 70% に満たない場合、期末試験を受ける資格はない。		

授業科目名	日本語 5 読解・作文 I		
担当教員	坂井 美恵子	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	(後期) 水曜 1 限
研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 7 番                      097-554-7516                      msakai@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	1. 上級レベルの学習者を対象に、レポートや学術論文などを読むために必要な文法知識や文章構造に関する知識を学びながら、論文を独力で読めるようになるための基礎的読解力を養成する。 2. 短編小説を読み、現代の日本文学に親しむことと、論説文とは異なった分野の語彙や表現の習得を目指す。 3. 専門的な文章を書くために必要な作文の基礎知識も学ぶ。		
具体的な到達目標	1. 1200字程度の短い論説文から、2000字程度の論説文へと段階的に進み、内容を理解するとともに、論文を読むために必要な文法知識や語彙、表現を増やす。 2. 文章の論理構造について学び、大意を把握したり、必要な情報を素早く読み取る。 3. 日本語で書かれた小説を読み、内容を説明できる。 4. 日本人のものの見方や考え方、日本文化に触れ、意見を述べることができる。 5. 段落の構成について学び、説明文が書ける。		
授業の内容	I. 読解：各週、以下の文章の論理構造に注目し、現在の日本社会で問題となっている話題に関する論説文を読む。 1. 書き言葉の特徴 2. トピックとメインアイデア、助詞相当語 3. 中心文と支持文、指示表現 4. 引用、接続表現と予測 5. 論の方向を示す表現、事実と筆者の考え 6. 段落構成 7. 中間試験 II. 作文：各週、以下の文章の組み立て方や表現を習得し、作文を書く。 8. 作文の基本と原稿用紙の使い方 9. 書き言葉の使い方 10. 課題の提示のしかた 11. 定義と分類のしかた III. 小説：各週、現代の短編小説を読み、内容を理解し、言葉や表現について学ぶ。 12-15. 小説 16. 期末試験  【学生がより深く学べるための工夫】 作文はピアリーディングによるフィードバックを行い、学生同士で学び合いができるようにする。ピアと教師両者によるフィードバックを参考にして書き直し、再提出する。		
時間外学習	本文の予習・復習、作文等毎週 2 時間程度時間外学習を課す。		
教科書	『改訂版 大学・大学院留学生の日本語 3 論文読解編』アルク その他ハンドアウトを配布する。		
参考書	『改訂版 大学・大学院留学生の日本語 4 論文作成編』アルク		
成績評価の方法 及び評価割合	中間試験 (30%)、期末試験 (30%)、作文 (20%)、宿題 (10%)、 クラス参加・態度など (10%)		
備考・注意事項	受講可能かどうかはプレイスメントテストの結果による。また、受講者は日本語能力試験 N 1 程度の日本語能力があることが望ましい。出席率が 70% 以下の場合は期末試験を受ける資格がない。		

授業科目名	日本語 5 文法 I		
担当教員	西島 <small>よりこ</small> 順子	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	後期 金曜 2 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 3-6 番      097-554-7667      y-nishijima@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	日常会話の多様な表現、あるいは大学の講義を理解するために必要とされる表現を身に付けるため、中・上級表現文型と語彙の使い方や意味を正確に理解し、適切に運用する力をつける。		
具体的な 到達目標	1. 上級レベル（N1）の日本語文法と語彙を習得する。 2. 類似表現の意味や使い方の違いを理解できる。 3. 類似表現の違いを理解したうえで、それらを運用できる。		
授業の内容	1. オリエンテーション／同時 2. 起点・終点 3. 付帯状況 4. 時間的前後 5. 順接 6. 条件 7. 接続 8. 中間試験 9. 当然 10. 強制 11. 心情 12. 様子 13. 程度 14. その他 15. 総括 16. 期末試験  【学生がより深く学ぶための工夫】 学習した文型を使って短文を作り、学生が互いに添削できるように板書する。誤用があれば、クラス全員で考える。それによって、日本語に対する鋭い言語感覚を身に付ける。		
時間外学習	予習と復習を行う。 毎週の課題を提出する。		
教科書	教材配布		
参考書	友松悦子、『どんな時どう使う 日本語表現文型辞典』アルク、2010 大阪 YMCA、『くらべてわかる 日本語表現文型辞典』ジェイ・リサーチ出版、2008 アスク出版編集部、『生きた例文で学ぶ 日本語表現文型辞典』アスク出版、2008		
成績評価の方法 及び評価割合	中間試験（40%）、期末試験（40%）、課題（20%）		
備考・注意事項	この授業は上級レベルの学習者を対象とし、日本語能力試験 N 2 と同等レベルの文法の知識があることを前提としている。このコースを受講できるかどうかは、プレイメントテストの結果による。 出席率が 70% に満たない場合は、期末試験を受ける資格はない。		



授業科目名	レポート・論文作成		
担当教員	西島 <small>よりこ</small> 順子	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	後期 木曜 3限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟3階3 - 6番 097-554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	この授業の目標は大学生として適切なレポートや論文が書けるようになることである。そのためにレポートや論文の特徴を知り、適切な語彙や文体を学ぶ。また、テーマの選び方や文章の構成にも目を向け、興味深く、説得力のあるレポートを書く。		
具体的な 到達目標	1. 話し言葉と書き言葉の語彙や文体の違いを認識し、使い分けることができる。 2. レポートを書くために必要な表現文型を使用できるようになる。 3. 序論・本論・結論の構成で5000字以上のレポートを書くことができる。		
授業の内容	1. オリエンテーション／レポート・論文を書く前に 2. 文章の種類と構成 3. レポート・論文の基本（硬い文章表現） 4. 賛否型レポート 5. 引用のルールと方法 6. データの提示と分析① 7. データの提示と分析② 8. レポート論文の構成 9. 序論の書き方 10. 本論の書き方① 説明モード 11. 本論の書き方② 論証モード 12. 結論の書き方 13. 研究計画書の書き方 14. 文章の明確さ 15. 文章の結束性  【学生がより深く学ぶための工夫】 教員は、提出された課題について、最初、誤用や問題のある個所を指摘するとともに、学生自身に誤用分析および添削をさせてもう一度提出するよう促す。再提出された課題は添削しコメントを加えて返却する。		
時間外学習	予習を行う。また、毎月課題があるので、授業で学んだことを復習し、レポートを作成する。		
教科書	教材配布		
参考書	田中真理、『Good Writing へのパスポート』くろしお出版、2014 二通信子、『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会、2009 浜田麻里、『論文ワークブック』くろしお出版、1997		
成績評価の方法 及び評価割合	各課題レポート（各20%×3回）、期末レポート（40%）		
備考・注意事項	超級レベルの日本語学習者を対象に、大学の演習で必要とされるレポートを書く技術の向上を目指す。受講者数は15名までとする。このコースを受講できるのは、プレイスメントテストの結果が5レベル以上の者に限る。 出席率が70%に満たない場合は、期末レポートを提出する資格はない。		

授業科目名	日本研究 I		
担当教員	南里 敬三、GAIA 教員	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	後期 金曜 5 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 5 番 097-554-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	このコースは、日本語日本文化研修生を対象としており、（日本語で）論文を書くにあたっての下準備を行うことにある。		
具体的な 到達目標	論文を作成する上にあって最も重要な仮説の設定と仮説の検証に当たってどのようなデータを収集すべきなのかという2 点において明確な計画を立てることにある。		
授業の内容	<p>第1週 - 第5週：研究分野の絞り込み。</p> <p>【学生がより深く学べるための工夫】</p> <p>日研究生が本当に研究したい分野とは何なのか、ディスカッションしながら絞り込んでいく。日研究生自身が選んだトピックは最初は漠然としていているので、そのトピックを選んでどのようなことが論文に書けるのか、データは実際に集まるのか、等をテーマに論文書きのプロセスをシミュレーションしながらディスカッションをしていく。</p> <p>第6週 - 第12週：論文の構造も視野に入れた研究テーマの絞り込み。</p> <p>【学生がより深く学べるための工夫】</p> <p>研究分野が絞りこめてきたら今度は研究テーマを明確化していく。そのプロセスで一番大切なのは仮説の設定である。論文書きで最も大変なのはこの仮説の設定であるが、これも、シミュレーションをしながらおこなう。仮説を立ては少量のデータを集め分析を行い、仮説が実際に証明されそうであるかを考えてみる。そうやって仮説の修正とデータ収集の修正を行いながら、どんな仮説を立ててどのようなデータを集めれば学問的貢献が行えるのかを徹底してディスカッションする。</p> <p>第13 週 - 第15 週：アウトライン作成。</p> <p>【学生がより深く学べるための工夫】</p> <p>これまでのディスカッションを踏まえ、論文のアウトラインを作成する。（これに基づいて次の学期で論文を書いていく。）</p>		
時間外学習	3 時間の予習と 1 時間の復習が必要である。		
教科書	なし。		
参考書	学生の研究分野・テーマごとに必要な参考文献リストを配布する。		
成績評価の方法 及び評価割合	論文のアウトラインの提出（50%）、アウトラインの口頭説明（50%）。		
備考・注意事項			

## 2. グローバル科目

(留学生・日本人学生向け科目)

(使用言語：日本語／日本語と英語／英語)

授業科目名	日本語文法分析		
担当教員	西島 <small>よりこ</small> 順子	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	前期 火曜 2 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 3 - 6 番    097-554-7667    y-nishijima@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	日常接している日本語をさまざまな観点から観察し、問いを立て、検討する。その作業を通じて、日本語を言語として深く理解すると同時に、日本語に限らず言語一般の特徴を分析する力を養う。		
具体的な 到達目標	1. 言語学の基本的な考え方を学び、語や文の分析に応用できる。 2. 日本語と他の言語を比べ、共通点と相違点が説明できる。 3. 外国語としての日本語を効果的に教える方法を提案する。		
授業の内容	1. オリエンテーション：日本語文法分析とは？ 2. 言語学から日本語を分析する① 言語の特徴 3. 言語学から日本語を分析する② 言語の機能 4. 世界における日本語の位置づけ 5. 日本語の文法的特徴① 基本文型/助詞/自・他動詞 6. 日本語の文法的特徴② 受け身/授受表現/敬語 7. 日本語の文法的特徴③ 述語構成 8. 日本語教授法① 教材分析 9. 日本語教授法② 教案作成 10. 日本語模擬授業① 11. 日本語模擬授業② 12. 語用論から見る日本語① 13. 語用論から見る日本語② 14. 認知言語学から見る日本語① 15. 認知言語学から見る日本語② 16. 期末試験  <b>【学生がより深く学ぶための工夫】</b> 日本人学生と留学生がグループとなり、日本語を言語学のさまざまな観点から分析する。その結果を発表したり、日本語を教える模擬授業を体験したりすることで、自ら言語を客観的に分析する力を養う。		
時間外学習	毎週出される課題を行う。 グループ発表や模擬授業の準備をする。		
教科書	教材配布		
参考書	原沢伊都夫、『日本語教師のための入門言語学—演習と解説』スリーエーネットワーク、2016／伊坂淳一、『新ここからはじまる日本語学』ひつじ書房、2016／荒川洋平、『日本語教育のスタートライン』スリーエーネットワーク、200／荒川洋平、『日本語教師のための応用認知言語学』凡人社、2016		
成績評価の方法 及び評価割合	期末試験（50%）、模擬授業（30%）、課題（10%）クラス参加・態度（10%）		
備考・注意事項	出席率が 70%に満たない場合は、期末テストを受ける資格はない。 留学生は日本語能力試験 N2 以上の文法知識があることを前提とする。		

授業科目名	ビジネスジャパニーズ演習 3		
担当教員	大坪 美奈子	所属部局	国際教育推進センター (非)
単 位	2	学期 曜日・時限	前期：月曜 3 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp		
授業のねらい	このコースは江漢大学「3+1」プログラムの留学生を対象とし、主に経済に関するニュースを聞き取り、新聞記事を読み解く能力の習得を目指すものである。さらに、それらの情報を用いて意見を述べる能力の習得も目指す。		
具体的な 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経済に関するニュース、新聞記事の内容を理解することができるようになる。</li> <li>・ ニュース、新聞記事の内容を整理し、要点をまとめることができるようになる。</li> <li>・ ニュース、新聞記事の内容を正確に分かりやすく伝え、さらに議論することができるようになる。</li> </ul>		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コースの概要説明</li> <li>2. 情報選択の重要性</li> <li>3. 新聞記事を読む</li> <li>4. 新聞記事の要約</li> <li>5. 新聞記事の批評</li> <li>6. ニュースを聞く</li> <li>7. ニュースの要約</li> <li>8. ニュースの批評</li> <li>9-13. チームで情報を選び、意見を述べる</li> <li>14. 発表</li> <li>15. まとめ、振り返り</li> </ol> <p>【学生がより深く学ぶための工夫】 インターネットニュースなどから適切な情報を選択し、調査する。 チームによるディスカッション及びディベートの実施。 発表を録画し、ループリックを用いた自己評価、フィードバックを行う。</p>		
時間外学習	日本の様々な社会・経済問題に関心を持ち、ニュース、新聞等に触れる習慣を身に付けること。		
教科書	経済問題を扱ったニュースなどの動画、新聞記事、ハンドアウト		
参考書	日本語辞書など（その他授業で提示）		
成績評価の方法 及び評価割合	授業態度・宿題（15%）、聴解（10%）、読解作文（15%）発表（15%）、 期末試験（45%）		
備考・注意事項	本コースは上記以外の留学生も受講可能とする。		

授業科目名	ビジネスジャパニーズ演習 4		
担当教員	大坪 美奈子	所属部局	国際教育推進センター（非）
単 位	2	学期 曜日・時限	前期：木曜 3 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp		
授業のねらい	このコースは江漢大学「3+1」プログラムの留学生を対象とし、企業分析を通して、ビジネス場面に必要な会話能力やライティング能力の習得を目指すものである。		
具体的な 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 企業について客観的に分析し、丁寧に伝えることができる。</li> <li>・ 様々なリソースを用いて必要な情報を集め、まとめることができる。</li> <li>・ ビジネス場面におけるマナー、会話、ライティングスキルを身に付ける。</li> </ul>		
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. コースの概要説明</li> <li>2. 3. 産業・職種・企業について</li> <li>4. 調査対象（企業）の選択</li> <li>5. チームによる企画書の作成</li> <li>6. 情報収集</li> <li>7. 敬語とマナー</li> <li>8. ビジネスメールを書く</li> <li>9. メール交渉</li> <li>10. 情報のまとめと報告書の作成</li> <li>11. 中間報告</li> <li>12. 発表の準備、発表の仕方</li> <li>13. 情報整理</li> <li>14. プレゼンテーション</li> <li>15. まとめ、振り返り</li> </ol> <p>【学生がより深く学ぶための工夫】 チームによる企業調査、交渉、企業訪問とインタビューの実施。 チームでの報告書作成に加え、個人レポートも作成する。</p>		
時間外学習	日本の社会や企業に関心を持ち、情報を集める。 また、改まった場面でのコミュニケーションスキルを身に付け、積極的に実践する。		
教科書	ハンドアウト		
参考書	日本語辞書など（その他授業で提示）		
成績評価の方法 及び評価割合	授業態度（10%）、課題（20%）、プレゼンテーション（25%）、期末試験（45%）		
備考・注意事項	本コースは上記以外の留学生も受講可能とする。		



授業科目名	狂言で大分を学ぶ		
担当教員	南里敬三,西島順子	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	前期 火曜 4 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 5 番 097-554-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp 教養教育棟 3 階 6 番 097-554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	日本の伝統芸能である狂言の基本をマスターし、大分地域を題材とするシナリオを作成しそれを実際に能の舞台で演じることで、伝統的日本と現代の大分を深く理解できる人材を育てる。		
具体的な 到達目標	狂言の歴史が語れるようになる。狂言の発声・動作の基礎を理解し、実際に能楽堂の舞台で演じることで日本の伝統芸能を体験する。大分地域の特定の文化・社会的特徴に精通し、リサーチに基づいた狂言のシナリオが書けるようになる。		
授業の内容	第1週：オリエンテーションと狂言の歴史・プロット 第2週：狂言の基本動作 第3-6週：狂言のプロット 第6週：狂言ワークショップ（能楽堂） 第7-12週：シナリオ作成 第13-15週：シナリオ修正・演技指導 第16週：演技審査（能楽堂）  【学生がより深く学べるための工夫】 座学で知識を得るだけでなく、プロの狂言師の指導を受けつつ実演するという機会を与える。オリジナルのシナリオ作成のために大分に関する情報を積極的に探索させる。		
時間外学習	狂言の発声・基本動作・演技については週2～4時間の練習時間が必要。シナリオ作成のための取材、及び、シナリオ作成は週3時間程度課外活動が必要。		
教科書	授業中にプリントを配布する。		
参考書	授業中に参考図書のリストを配布する。		
成績評価の方法 及び評価割合	レポート：狂言とは（10%）、プロットアウトライン（5%）、シナリオ提出1（5%）、シナリオ提出2（5%）、シナリオ提出3（5%）、シナリオ提出4〔最終版〕（10%）、中間演技発表（10%）、最終演技（50%）〔最終演技内わけ：台詞の暗記20%、演技15%、シナリオ15%〕。		
備考・注意事項	70%以上の出席がない場合は不合格とし第15週の演技審査は受けられない。正規生の参加は10名を上限とし、受講者全員の制限を20名とする。授業でのパフォーマンスを毎回2%とする。また参加者全員5月の狂言ワークショップの参加を必須とする。		

授業科目名	Sustainability and Glocal Development in Oita 2 サステナビリティ大分2		
担当教員	ブルカート香織	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	前期：木4限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3階 3番 097-541-6171 kburkart@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	このクラスの主な目的は、主に人間社会に関連する身近なテーマを通じて、世界や大分の環境や人間社会の持続可能な発展について考える。持続可能な未来を創造するために不可欠な知識を身近なテーマから積み上げ、学生自身の価値観をと向き合う。グローバルな視点で、持続可能な発展を支援する姿勢を育み、自ら考え行動する Critical Thinking Skills を培う。		
具体的な 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>より深い知識を構築するための独自の研究・調査を行う。</li> <li>地方都市が抱える問題がいかに国際的問題でありうるかを知る。</li> <li>異なる文化と多様な考え方に触れ、自己の考えを振り返ってまとめる。</li> </ul>		
授業の内容	第1週: オリエンテーション（プロジェクトやクラスアクティビティの説明） 第2週: お気に入りの100円ショップは？ 第3週: つくる責任 つかう責任 第4週: 食品ロスと飢餓は隣り合わせ 第5週: すべての人に健康と福祉を 第6週: 大分市環境展 見学 または 特別講義 ゲストスピーカー 第7週: ドキュメンタリー映画視聴 第8週: グループ ディスカッション 第9週: ケータイが引き起こす戦争 第10週: 世界の格差 第11週: 貧困 第12週: 平等って何？ 第13週: 期末プレゼンテーション 1 第14週: 期末プレゼンテーション 2 第15週: まとめディスカッション（プレゼンテーション予備または研修見学） 【学生がより深く学べるための工夫】 学生は、講義時間内外で計画されたラーニングアクティビティ（ロールプレイ、ディスカッション、クイズゲーム、時事ニュースのチェック）を通して Critical Thinking Skills を実践する。学外への研修・見学へ行く場合、スケジュールが前後する場合がある。期末試験は実施せず、プレゼンテーションとレポートのみ。		
時間外学習	2回オンラインディスカッションを設ける。インタビュー、フィールドワークや研修・見学に参加するなどの時間外学習も重要な一部とみなす。		
教科書	教材・資料は担当教員が配布する。		
参考書	参考資料は随時クラスのウェブサイト Moodle に掲載する。		
成績評価の方法 及び評価割合	オンラインディスカッション 20% プレゼンテーション 40% 期末レポート 40%		
備考・注意事項	このクラスは本学正規学生と留学生とが一緒に学ぶための融合クラスで、講義はほとんど英語で行われる。 <u>授業中のディスカッションやオンラインディスカッションも英語を共通語とするが、期末レポートは英語もしくは日本語のいずれかの言語で作成しても良い。</u>		

授業科目名	歩いて楽しい街：大分と別府		
担当教員	南里 敬三	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	前期 金曜 3限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 5 番 097-554-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	大分市並びに別府市を人が集まる都市にする方法をデザイン思考の手法を用いて考察する。考察の対象はJR大分駅周辺、JR別府駅前の別府市街地、及び、鉄輪地区。		
具体的な 到達目標	このコースは、留学生とのディスカッションを通じて、大分市と別府市の現状を考察し、デザイン思考を用いて、面白い街作りの提案をする事を目的とする。ディスカッションを通じては次のようなことを学んでいく。(1) デザイン思考を用いてのイノベティブな提案方法、(2) 大分市街地の構造、(3) 別府市駅前・鉄輪地区の特徴、(4) バブル経済崩壊後の観光産業の変化。		
授業の内容	第1回：オリエンテーション、デザイン思考1 第2回：デザイン思考2 第3回：大分市立美術館を考えてみる 第4回：大友宗麟を活用する 第5回：研修旅行準備 第6回：研修旅行1（大分市内を予定） 第7回：プレゼン1 第8回：観光産業の変化と湯治場文化 第9回：鉄輪を知る 第10回：鉄輪を知る 第11回：研修旅行2（鉄輪を予定） 第12回：プロジェクト立案 第15回：プレゼン2  【学生がより深く学べるための工夫】 授業はグループディスカッションの形をとる。各グループには議長と書記がおり、この両者がグループのまとめ役となり、グループ全員が授業内容を理解しているかを確認する。また、毎週の課題提出を通して受講者の理解度のモニタリングを行い、理解が弱い箇所があれば復習を行い受講者の理解を確実なものにしていく。		
時間外学習	それぞれの授業のトピックに関する事前調査（15h）。大分駅周辺、大分市内の商店、及び、そこで販売されている商品の調査（10h）。大分市美術館、大分県立美術館、南蛮ブongo交流館に関する調査（10h）。授業でのディスカッションのまとめ（5h）。プレゼン準備（10h）。		
教科書	プリントを授業で配布する。		
参考書	授業中に参考文献のリストは配布される。		
成績評価の方法 及び評価割合	発表1（25%）、発表2（40%）、課題（7回×5%）		
備考・注意事項	このコースは日本語と英語で行われる。単位取得には70%以上の授業参加が必要。授業は日本語と英語で行われる。2回の研修旅行の参加は必須。研修旅行1回は授業2回分。		



授業科目名	異文化コミュニケーション		
担当教員	長池一美	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期・曜日・時限	前期：火（3限） 後期：月（3限）
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 3-4 番 097-554-7953    nagaike@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	グローバル化の時代において異文化コミュニケーションの知識や実践力を身に付けることが必要です。この授業では、異文化間コミュニケーションの基本的な知識と理論を学びます。前半では日本と日本人を軸にしたトピックについて学び、後半では世界に目を向け、グローバリゼーション、多文化主義などの問題について学びます。		
具体的な 到達目標	1. 日本の社会と文化の特徴を理解する：学生は日本の社会・文化構造に関する基本的な概念を説明することができる。 2. 異文化間コミュニケーションに関する理論的視点の習得：学生は異文化間コミュニケーションの主要な理論を説明できる。 3. 多文化主義の必要性を理解する：学生はより広い多文化の文脈の中で社会状況を分析することができる。		
授業の内容	1) コースの概要について 2) 異文化間コミュニケーションとは何か 3-5) 日本社会の分析と日本人の心理分析（本音と建前、内と外、義理、集団意識、贈答、先輩と後輩、甘えなど） 6) ジェスチャーと非言語コミュニケーション 7) オリエンタリズムとテクノオリエンタリズム（ハリウッド映画の分析など） 8) ナショナリズムと想像の共同体 9) 多文化主義（例：アイヌ民族の問題） 10) コミュニケーションとマスメディア（例：日本のマスメディアにおける外国人のステレオタイプ） 11) カルチャーショック 12-13) アジアの中の日本（例：靖国神社の問題） 14-15) グループプロジェクト 【学生がより深く学べるための工夫】 この授業はレクチャー、（グループ）ディスカッション、プロジェクト準備・発表を中心として構成される。		
時間外学習	指定された文献を事前に熟読し、主題や論点について、要約を行っておくこと。課題や自主研究に週 4 時間取り組む必要がある。		
教科書	特に指定しない。		
参考書	第一回授業で配布。		
成績評価の方法 及び評価割合	授業への積極的な参加 20% プロジェクト 30% 期末試験 50%		
備考	<u>この授業の使用言語は主に英語ですが、日本語での説明があります。プロジェクト発表の言語は英語ですが、期末試験の言語は英語か日本語が選べます。</u>		



授業科目名	Japanese Popular Culture Studies		
担当教員	長池一美	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期・曜日・時限	前期：水（4 限）
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 3-4 番 097-554-7953    nagaike@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	「ポピュラー」という単語はしばしば「Low=ロウ」（質の低い）というように解釈されたが、ポピュラー・カルチャーは社会・文化を分析する上で欠かすことのできない研究分野として注目されてきている。このコースでは日本のポピュラー・カルチャー（例 アニメ、アイドル、ラノベ、映画、2.5 次元等）がどのように現代日本社会の特徴と問題を扱っているかについて考察する。そのうえで、日本社会、ならびに海外における日本のポピュラー・カルチャーの受容について議論する。この授業では各時代やジャンルを代表的する作品の分析を行う。		
具体的な 到達目標	1. ポピュラー・カルチャーを通して日本社会の在り方に精通する。 2. 日本のポピュラー・カルチャーのグローバル化を通して文化を比較する視点を養う。 3. ポピュラー・カルチャー研究を通して基本的な理論の枠組みに精通する。		
授業の内容	1) コースの概要について（ポピュラー・カルチャーとは？） 2) 浮世絵（前近代のポピュラー・カルチャー） 3-5) アニメ 6-7) ポップミュージックとアイドル 8) ライトノベル 9-11) 映画 12) 声優 13) 2.5 次元 14) 復習 【学生がより深く学べるための工夫】 この授業はレクチャー、（グループ）ディスカッション、プロジェクト準備・発表を中心として構成される。		
時間外学習	指定された文献を事前に熟読し、主題や論点について、要約を行っておくこと。課題や自主研究に週 4 時間取り組む必要がある。		
教科書	特に指定しない。		
参考書	第一回授業で配布。		
成績評価の方法 及び評価割合	授業への積極的な参加    20% プロジェクト    30% 期末試験    50%		
備考	<u>この授業の使用言語は主に英語ですが、日本語での説明があります。プロジェクト発表の言語は英語ですが、期末試験の言語は英語か日本語が選べます。</u>		



授業科目名	Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies		
担当教員	長池一美・南里敬三	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期・曜日・時限	前：水（3限） 後：金（4限）
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3階 3-4 番 097-554-7953      nagaike@oita-u.ac.jp 教養教育棟 3階 3-3 番 097-554-7635      keizo-nanri@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	日本のファッションは各時代のブームと共にそれを象徴する美意識を生み出してきた。ファッション雑誌の構成も時代のファッションブームや美意識に比例するかのように様々な方程式を生み出している。この授業では特に女性向けのファッション雑誌のレイアウト、記事内容（コンテンツ）、読者などを分析し、表現されている日本独自の美学について学ぶ。また、日本社会、ならびに海外における日本のファッション文化の受容について議論し、グローバルな視野を身に付ける。		
具体的な 到達目標	1. 日本のファッション文化を通して日本社会の在り方に精通する。 2. 日本のファッション文化を海外の文化と比較することにより、グローバルな視点を養う。 3. プロジェクトを通して、身に付けた知識をアウトプットする方法を学ぶ。		
授業の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「かわいい」の歴史</li> <li>● 「異装文化」の歴史</li> <li>● ジャズエイジの女性ファッション（1920年代 to 1945年）</li> <li>● ブルージーンズと学園紛争（1945年5-1970年代）</li> <li>● 男性キレイめファッションの誕生（1945年-1960年代）とプレゼンテーション</li> <li>● 男性ファッションと日本の高度経済成長（1960年代-1980年）</li> <li>● 女性キレイめファッションの誕生（1945年-1980年）</li> <li>● シブカジファッションとバブル経済（1970年-1992年）とプレゼンテーション</li> <li>● ニュートラからコンサバまで（1980年-2006年）</li> <li>● ギャルファッションとキャバ嬢ファッション（1992-2012）</li> <li>● 女性キレイめファッションの発生から終焉まで（1970-2021）</li> <li>● コスプレ文化</li> <li>● クィアファッション文化（女装・男装）</li> </ul> <b>【学生がより深く学べるための工夫】</b> この授業はレクチャー、（グループ）ディスカッション、プロジェクト準備・発表を中心として構成される。		
時間外学習	指定された文献を事前に熟読し、主題や論点について、要約を行っておくこと。課題や自主研究に週4時間取り組む必要がある。		
教科書	特に指定しない。		
参考書	第一回授業で配布。		
成績評価の方法 及び評価割合	授業への積極的な参加 20% プロジェクト 50% 期末試験 30%		
備考	<u>この授業の使用言語は主に英語ですが、日本語での説明があります。プロジェクト発表の言語は英語ですが、期末試験の言語は英語か日本語が選べます。</u>		

授業科目名	Introduction to Japanese History, Culture and Society		
担当教員	長池一美	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期・曜日・時限	前期：月（3 限） 後期：水（4 限）
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 3-4 番 097-554-7953 <a href="mailto:nagaike@oita-u.ac.jp">nagaike@oita-u.ac.jp</a>		
授業のねらい	この授業では日本の歴史、社会、文化の基本的な事項を学ぶ。		
具体的な 到達目標	1. 日本の歴史に精通する。 2. 日本文化の特性を理解する（特に前近代）。 3. 現代日本の社会の特性を理解する。 4. 日本の伝統文化の体験（例 茶道）から日本について学ぶ。		
授業の内容	1) コースの概要について 2~5) 歴史 6~7) パフォーマンスアート（能 文楽 歌舞伎 宝塚） 8) 家族と家制度 9~10) 日本の伝統文化体験 11~12) 企業と労働 13) 宗教と道 14) 古典文学と美学 15) 復習  【学生がより深く学べるための工夫】 この授業はレクチャー、(グループ) ディスカッションを中心として構成される。授業の理解度を図るためにトピックごとの小試験が課せられる。		
時間外学習	指定された文献を事前に熟読し、主題や論点について、要約を行っておくこと。課題や自主研究に週 4 時間取り組む必要がある。		
教科書	特に指定しない。		
参考書	第一回授業で配布。		
成績評価の方法 及び評価割合	授業への積極的な参加 30% 小試験 30% 期末試験 40%		
備考	<u>この授業の使用言語は主に英語ですが、日本語での説明があります。小試験、期末試験の言語は英語か日本語が選べます。</u>		

授業科目名	日本語表現技術		
担当教員	西島 順子 <sup>よりこ</sup>	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	後期 火曜 4 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 3 - 6 番    097-554-7667    y-nishijima@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	この授業のねらいは、積極的に議論に参加できるようになることや、伝えたいことを的確に伝えられるようになることである。内容を精査して、論理的に話す技術も身に付ける。また留学生と日本人学生が共にディスカッションや発表準備をすることで、相互理解を促進する。		
具体的な 到達目標	1. 目的に応じてパワーポイント等を活用しフォーマルなスピーチができる。 2. 論理的で説得力のある話ができるようになる。 3. 多様な背景を持つ人と協力し合い、建設的なディスカッションができる。		
授業の内容	1. オリエンテーション／効果的な自己紹介 2. ディスカッション① ディスカッションの手法 3. ディスカッション② 4. プレゼンテーションの手法 5. プレゼンテーションの準備① 6. プレゼンテーションの準備② 7. 発表① 8. 発表② 9. 論理的に話す① 論理的で説得力のある話し方 10. 論理的に話す② 論点を外さず議論する 11. 対立討論（ミニディベート）の手法 12. 対立討論の準備① 13. 対立討論の準備② 14. 試合① 15. 試合②  【学生がより深く学ぶための工夫】 どのような活動においても、質問や意見を出し合い積極的にディスカッションをする。また、学生は自己評価や相互評価をするだけではなく、振り返りの時間に、グループ内で良かった点と改善すべき点を話し合い、内省する。教員は学生に話し方の改善点をフィードバックする。		
時間外学習	原則として毎週課題をする。 発表のために授業外でグループ活動を行う。十分な準備時間を確保する。		
教科書	教材配布		
参考書	中澤務、『知のナビゲーター』くろしお出版、2007 東海大学留学生教育センター、『口頭発表と討論の技術』東海大学出版会、1995 木南法子『論理的で正しい日本語を使うための技術とトレーニング』ベレ出版、2013		
成績評価の方法 及び評価割合	グループディスカッション（20%）、プレゼンテーション（30%）、対立討論（30%）、課題提出（10%）、期末レポート（10%）		
備考・注意事項	積極的に課題に取り組む学生を対象とする。発表時間を確保するため、受講者数は30名を上限とする。 出席率が70%に満たない場合は最終課題の参加資格はない。 留学生は中級以上の日本語学習者を対象とする。中級レベルの学習者は、漢字500字、語彙3000程度の知識があることを前提とする。		

授業科目名	日本語学Ⅰ		
担当教員	坂井 美恵子	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	(後期) 木曜 2 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 7 番      097-554-7516      msakai@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	日本語の音声、語彙、文法、方言などの各分野について、基本的なしくみを理解し、自ら分析できる力を養い、日本語に対する知識と興味を深めることを目的とする。日本語超級レベルの留学生と、日本語を客観的に学びたい日本人学生を対象とした授業である。		
具体的な 到達目標	1. 日本語の音声、語彙、文法、方言などについて、詳しく観察を進め、規則や特徴について考えられるようになる。 2. 興味のある分野について、自ら調査し、結果について考察できるようになる。		
授業の内容	1 概略 「日本語学」とはどんなもの？ 2 世界の言語と日本語 日本語は特殊な言語？ 3 文法 「ラ抜き言葉」は間違った日本語？ 4 音声 なぜ「な`」はないか。 5 音声 「大型」は「オオガタ」。では「大風」は「オオガゼ」じゃない？ 6 アクセント 「このハシを渡るべからず」 7 語彙 「マツジュン」はなぜ「マツジュ」と呼ばれない？ 8 方言 「一回生」って何？ 9 中間試験 10 語彙 「哲学」と「ナイター」の共通点？ 11 位相 「わしは博士じゃ」 12 文法化 「好きになっちゃった」に込められた気持ち 13 グループ発表の準備 14 グループ発表 15 グループ発表とまとめ  【学生がより深く学べるための工夫】 ・各テーマに関連した読み物を配布し、内容についてグループで教え合い、意見交換を行うようにする。 ・各テーマに関連した学習者自身の見解や体験について書く宿題を課し、グループでシェアし、優れたものは全体に紹介する。 ・学習者自身で事例を集め、言語規則や特徴を見つけられるような課題を扱う。		
時間外学習	・授業では留学生と日本人学生とのグループディスカッションを行うため、予習と毎週出される課題に取り組むことが前提となる。 ・興味のある分野について、自ら調査した結果をレポートにまとめ、発表する。		
教科書	ハンドアウトを配布する。		
参考書	庵功雄（2012）『新しい日本語学入門 ことばのしくみを考える』スリーエーネットワーク 黒田龍之介（2011）『ことばは変わる』白水社		
成績評価の方法 及び評価割合	中間試験（30%）、グループプロジェクト（40%）、課題と発表（20%）、クラス参加、態度など（10%）		
備考・注意事項	日本語能力試験N1合格レベル以上の留学生と、日本人学生を対象とした授業である。日本語に興味があり、積極的に課題に取り組む学生が受講できる。受講者数は40名を上限とする。		

授業科目名	ビジネスジャパニーズ演習 1		
担当教員	藤田 明美	所属部局	国際教育推進センター（非常勤）
単 位	2	学期 曜日・時限	後期 月曜 3 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	akemi1027f@gmail.com		
授業のねらい	このコースは、江漢大学「3+1」プログラムの留学生を対象とし、主に経済に関する新聞記事を読み解く能力の習得を目指すものである。さらに、それらの情報を用いて意見を述べる能力の習得も目指す。		
具体的な 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 経済に関する新聞記事の内容を理解することができるようになる。</li> <li>・ 新聞記事の内容を整理し、要点をまとめることができるようになる。</li> <li>・ 新聞記事の内容を正確に分かりやすく伝え、情報と意見を区別しながら文章化することができるようになる。</li> </ul>		
授業の内容	1.コースの概要説明 2-4.新聞記事を読む練習Ⅰ 内容理解と要約 5-6.新聞記事を読む練習Ⅱ 情報の整理、アウトラインの作成 7.情報検索 8.引用と参考文献 9-10.新聞記事を読む練習Ⅲ 意見を述べる 11-14.発表 15.まとめ、振り返り  【学生がより深く学べるための工夫】 インターネットニュースなどから適切な情報を選択し、調査する。 チームによるディスカッション及びディベートの実施。 発表を録画し、ルーブリックを用いた自己評価、フィードバックを行う。		
時間外学習	日本の様々な社会・経済問題に関心を持ち、新聞等に触れる習慣を身に付けること。		
教科書	経済問題を扱った新聞記事、ハンドアウト		
参考書	日本語辞書など（その他授業で提示）		
成績評価の方法 及び評価割合	授業態度・宿題（15%）、聴解（10%）、読解作文（15%）発表（15%）、期末試験（45%）		
備考・注意事項	本コースは上記以外の留学生も受講可能とする。		

授業科目名	ビジネスジャパニーズ演習 2		
担当教員	藤田 明美	所属部局	国際教育推進センター（非常勤）
単 位	2	学期 曜日・時限	後期 火曜 2 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	akemi1027f@gmail.com		
授業のねらい	このコースは、江漢大学「3+1」プログラムの留学生を対象とし、自己分析を通して、ビジネス場面に必要な会話能力やライティング能力の習得を目指すものである。		
具体的な 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己について客観的に分析し、丁寧に伝えることができるようになる。</li> <li>・ビジネス場面における会話能力を中心に、ライティング能力、マナーなども身に付ける。</li> <li>・日本人の就職事情や仕事に関する考え方などを知る。</li> </ul>		
授業の内容	1. コースの概要説明 2. 日本の就職事情 3. 日本人の仕事観 4-7. 調査の準備 テーマの選択、調査方法（インタビュー/アンケート）、発表の仕方 8-9. 発表の準備 10. 発表 11. 自己分析 12. 履歴書・エントリーシートの作成 13. 面接の準備、敬語の練習 14. 模擬面接 15. まとめ、振り返り  【学生がより深く学べるための工夫】 チームによる調査（アンケート或いはインタビュー）の実施。 模擬面接では相互評価を行う。 チームでの報告書作成に加え、個人レポートも作成する。		
時間外学習	自己の性格や歴史について振り返り、自己アピール力を身に付ける。また、日本の大学生の就職活動や仕事への考え方などにも関心を持つ。さらに、改まった場面でのコミュニケーションスキルを身に付け、積極的に実践する。		
教科書	ハンドアウト		
参考書	日本語辞書など（その他授業で提示）		
成績評価の方法 及び評価割合	授業態度（10%）、課題（20%）、プレゼンテーション（25%）、期末レポート（45%）		
備考・注意事項	本コースは上記以外の留学生も受講可能とする。		



授業科目名	Manga Studies		
担当教員	長池一美	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期・曜日・時限	後期：水（3限）
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 3-4 番 097-554-7953    nagaike@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	マンガ、アニメなどいわゆる日本のポピュラー・カルチャーに触れることによって、日本へ興味を持った留学生は多い。「ポピュラー」という単語はしばしば「Low=ロウ」(質の低い)というように解釈されたが、ポピュラー・カルチャーは社会・文化を分析する上で欠かすことのできない研究分野として注目されてきている。このコースでは日本のポピュラー・カルチャー（特にマンガ）がどのように現代日本社会の特徴と問題を扱っているかについて考察する。そのうえで、日本社会、ならびに海外における日本のポピュラー・カルチャーの受容について議論する。		
具体的な 到達目標	1. ポピュラー・カルチャーを通して日本社会の在り方に精通する。 2. マンガのグローバル化を通して文化を比較する視点を養う。 3. マンガ研究を通して基本的な理論の枠組みに精通する。		
授業の内容	1) コースの概要について、ポピュラー・カルチャーとは？ 2) ソフトパワー研究    3)-5)マンガの「描き方」分析 6) 少年マンガ研究    7) 少女マンガ研究 8) レディース・コミックス研究    9) BL 研究 10) マンガとデータベース消費論    11) マンガと規制問題 12) マンガと人種問題    13) ゆりマンガ研究 14) マンガとグローバリゼーション 15) 復習  【学生がより深く学べるための工夫】 この授業はレクチャー、(グループ) ディスカッション、プロジェクト準備・発表を中心として構成される。		
時間外学習	指定された文献を事前に熟読し、主題や論点について、要約を行っておくこと。課題や自主研究に週 4 時間取り組む必要がある。		
教科書	特に指定しない。		
参考書	第一回授業で配布。		
成績評価の方法 及び評価割合	授業への積極的な参加    20% プロジェクト    30% 期末試験    50%		
備考	<u>この授業の使用言語は主に英語ですが、日本語での説明があります。プロジェクト発表の言語は英語ですが、期末試験の言語は英語か日本語が選べます。</u>		

授業科目名	日本文法とディスコース		
担当教員	南里 敬三	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	後期 金曜 3 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 5 番 097-554-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	英語を話す初級日本語学習者が学ぶ文構成に必要な格助詞（を、に、と、へ、で）の用法を理解する。主題提示を行う「は」の機能を理解する。日本語の動詞群の構成法を理解する。日本語のテキスト（文章）構成の原理をスキーマの視点から理解する。		
具体的な 到達目標	英語を母語とする初級日本語学習者に格助詞の使い方の説明ができるようになる。長い動詞群の構成（例えば「たべされられてしまっているのかもしれない」）がどうしてそのような構成になっているのが説明できるようになる。「は」の基本的機能が理解でき、「は」を巡る文章構成の指導ができるようになる。		
授業の内容	<p>第1回：オリエンテーション  第2回：日本語品詞  第3-7回：日本語における経験機能：格助詞と構文 1  第8回：プレゼンテーション1  第9回：日本語における経験機能：格助詞と構文 2  第10-12回：対人機能と動詞群の構造  第13-14回：「は」の機能と文章構造、文化  第15回：プレゼンテーション2</p> <p>【学生がより深く学べるための工夫】  授業はグループディスカッションの形をとる。授業では日本の国語の授業では問題にされることのないテーマを考え、分析力を身につけていく。それがひいては留学生への文法説明能力の養成に繋がっていく。コース参加者は品詞の性質から徐々に日本語の文構造を学んでいき、最終的には文化とは何かという問題へと導かれていく。</p>		
時間外学習	予習1 時間、復習2 時間が必要。		
教科書	プリントを授業で配布する。		
参考書	授業中に参考文献のリストを配布する。		
成績評価の方法 及び評価割合	小さい課題（5点×10回）、プレゼンテーション1（20点）、プレゼンテーション2（30点）		
備考・注意事項	この科目は本学正規生が留学生と一緒に学ぶ授業である。 <u>グループディスカッションへの参加は必須</u> 。授業は日本語と英語で行われる。		

授業科目名	ソーシャルネットワークと大分からの発信 II		
担当教員	南里 敬三	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	後期 火曜 3 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 5 番 097-554-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	この科目は国東の魅力をブログとホームページを通じて発信し、インターネット上における効果的な情報発信力を身に付けることを目的とするが、それと同時にグループワークができる人材養成も念頭にいた科目でもある。		
具体的な 到達目標	このコースではディスカッションを通じては次のようなことを学んでいく。 (1) 安全なインターネット生活を送るための基礎知識、(2) 六郷満山文化の基礎知識、(3) ブログの始め方、(4) Wixホームページの使い方。このコースを終えるころにはインターネット上では情報拡散についての最低限度の知識が身につくことになる。2回の研修旅行では過疎地が置かれている現状にも着目してもらい、そこでの気づきは、最終報告書として提出してもらう。		
授業の内容	第1回：オリエンテーション、仲間を見つける、授業まとめ1 第2回：インターネットの基礎知識、授業まとめ2 第3回：ブログを始める、授業まとめ3 第4回：六郷満山文化とは、授業まとめ4 第5回：研修旅行準備、ブログ記事内容についてのディスカッション 第6回：研修旅行1（国東市国見地域を予定） 第7回：ブログ発表（プレゼン1） 第8回：Wix でホームページを始めてみる。授業のまとめ5 第9回：記事の構想、授業まとめ6 第10回：研修旅行準備、授業まとめ7 第11回：研修旅行2（国東市武蔵地域を予定） 第12回：ホームページの構成、グループディスカッション 第13回：ホームページ発表（プレゼン2）  【学生がより深く学べるための工夫】 授業はグループディスカッションの形をとる。各グループには議長と書記がおり、この両者がグループのまとめ役となり、グループ全員が授業内容を理解しているかを確認する授業内容のまとめは翌週に宿題として提出。各グループは自分たちが調査したとことからをブログ及びホームページで発表。この発表を通して調査した事柄をクラス全体で共有する。		
時間外学習	予習3時間、復習3時間が必要。参考文献は授業で使用しているブログに掲載する。研修旅行1回は2回分の授業に相当。		
教科書	プリントを授業で配布する。		
参考書	ブログに掲載する。		
成績評価の方法 及び評価割合	課題（10 点）、フィールドワーク（研修旅行）（第一回10点、第二回10点）、ブログ作成・発表（20点）、ホームページ作成・発表（25点）。最終報告書（25点）。ブログとホームページ作成はグループワーク。70%以上の出席がない場合は不合格とし、フィールドワークと最終報告書の点数を合計点から除外する。		
備考・注意事項	授業は日本語と英語で行われる。2回の研修旅行の参加は必須。研修旅行1回は授業2回分。		

授業科目名	Sustainability and Glocal Development in Oita サステナビリティ大分		
担当教員	ブルカート香織	所属部局	国際教育推進センター
単 位	2	学期 曜日・時限	後期：木曜 4 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教養教育棟 3 階 3 番 097-541-6171 kburkart@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	このクラスの主な目的は、主に環境問題に関連する身近なテーマを通じて、世界や大分の環境や人間社会の持続可能な発展について考える。持続可能な未来を創造するために不可欠な知識を身近なテーマから積み上げ、学生自身の価値観をと向き合う。グローバルな視点で、持続可能な発展を支援する姿勢を育み、自ら考え行動する Critical Thinking Skills を培う。		
具体的な 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>より深い知識を構築するための独自のけんきゅう・調査を行う。</li> <li>地方都市が抱える問題がいかに国際的問題でありうるかを知る。</li> <li>異なる文化と多様な考え方に触れ、自己の考えを振り返ってまとめる。</li> </ul>		
授業の内容	第 1 週: オリエンテーション（プロジェクトやクラスアクティビティの説明） 第 2 週: 自然界のサステナビリティ SDGs#17 とは 第 3 週: サステナビリティ 発展と環境破壊 第 4 週: ポテトチップスと象の運命 第 5 週: 陸のゆたかさ 海のゆたかさ 第 6 週: 天ぷらうどんは日本食じゃない！？ 第 7 週: 特別講義 ゲストスピーカー 大分市環境対策課 映画視聴 第 8 週: ドキュメンタリー映画視聴 第 9 週: グループディスカッション 第 10 週: ブルーベリーが引き起こす地球温暖化？！ 第 11 週: 便利なコンビニの不都合な真実 第 12 週: ハンバーガーに食べられる？！ 第 13 週: プレゼンテーション 1/2 第 14 週: プレゼンテーション 2/2 第 15 週: まとめディスカッション（プレゼンテーション予備または研修見学） 【学生がより深く学べるための工夫】 学生は、講義時間内外で計画されたラーニングアクティビティ（ロールプレイ、ディスカッション、クイズゲーム、時事ニュースのチェック）を通して Critical Thinking Skills を実践する。学外への研修・見学へ行く場合、スケジュールが前後する場合がある。期末試験は実施せず、プレゼンテーションとレポートのみ。		
時間外学習	2 回オンラインディスカッションを設ける。インタビュー、フィールドワークや研修・見学に参加するなどの時間外学習も重要な一部とみなす。		
教科書	教材・資料は担当教員が配布する。		
参考書	参考資料は随時クラスのウェブサイト Moodle に掲載する。		
成績評価の方法 及び評価割合	オンラインディスカッション 20% プレゼンテーション 40% 期末レポート 40%		
備考・注意事項	このクラスは本学正規学生と留学生とが一緒に学ぶための融合クラスで、講義はほとんど英語で行われる。授業中のディスカッションやオンラインディスカッションも英語を共通語とするが、 <u>期末レポートは英語もしくは日本語のいずれかの言語で作成しても良い。</u>		

授業科目名	認知言語学から見た日英対照分析		
担当教員	橋本 美喜男	所属部局	教育学部
単 位	2	学期 曜日・時限	後 木曜 4 限
担当教員の 研究室 電話・e-mail	教育学部 B 棟 5 階 097-554-7578 mikioha@oita-u.ac.jp		
授業のねらい	本コースのねらいは、認知言語学の観点から英語と日本語を比較し、日本語や英語はどんな言語なのかをより深く理解することである。		
具体的な 到達目標	英語と日本語では視点の違いにより、同じ状況に対して異なる言語形式を用いる。例えば、「ここはどこですか」は英語では “Where am I?” になる。英語には “I” が現れるが、日本語には現れない。なぜこのような違いが生じるのかを理解することで、英語と日本語の表現能力を高めたい。		
授業の内容	第 1 回 ローマ字で日本語を表記する方法 (ヘボン式) 第 2 回 基本構文とステージモデル 第 3 回 英語と日本語の統語的違い 第 4 回 因果関係 第 5 回 事態の構造と話題化 第 6 回 動詞の活用 子音語幹動詞 第 7 回 動詞の活用 母音語幹動詞と不規則動詞 第 8 回 時制と相 第 9 回 日本語の動詞の分類 第 10 回 英語の動詞の分類 第 11 回 日本語の受身文 第 12 回 英語の受動文 第 13 回 英語の使役文 第 14 回 日本語の使役文 第 15 回 話題化とまとめ  【学生がより深く学べるための工夫】 関連する課題をグループで考える時間を設ける。		
時間外学習	毎回の講義で課す課題に取り組む。		
教科書	プリントを配布する。		
参考書	特に指定しない。		
成績評価の方法 及び評価割合	毎回の授業の課題 40% 最終レポート 60%		
備考・注意事項	Moodle を使用するの、スマホもしくはパソコンが必要です。		

**1 . Japanese Language and Japanese Studies Courses for International Students**



Course Title	Japanese I: Grammar		
Lecturer	BURKART, Kaori I.	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Spring: Tuesdays 1 <sup>st</sup> Period Fall: Tuesdays 2 <sup>nd</sup> Period
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 <sup>rd</sup> Floor      Office No. 3-3    097-554-6171      kburkart@oita-u.ac.jp		
Aims	Acquisition of basic Japanese grammar and language functions.		
Learning Outcomes	At the end of the course, students will be able to <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Read and write Kana characters including both Hiragana and Katakana;</li> <li>2. Understand the basic Japanese grammar and language functions and use them when expressing requests, preferences, reasons, and wishes.</li> </ol>		
Content	Week 1: Introduction to the course—Hiragana & basic greetings Week 2: Lesson 1 Vocabulary/Grammar & Introduction to Katakana Week 3: Lesson 2 Vocabulary/Grammar Week 4: Lesson 3 Vocabulary/Grammar Week 5: Lesson 4 Vocabulary/Grammar Week 6: Lesson 5 Vocabulary/Grammar Week 7: Lesson 6 Vocabulary/Grammar Week 8: Mid-term Exam Week 9: Lesson 7 Vocabulary/Grammar Week 10: Lesson 8 Vocabulary/Grammar Week 11: Lesson 9 Vocabulary/Grammar Week 12: Lesson 10 Vocabulary/Grammar Week 13: Lesson 11 Vocabulary/Grammar Week 14: Lesson 12 Vocabulary/Grammar Week 15: Semester Review (Specific modes of teaching to enhance student learning) Learner-centered hands-on activities are employed to enhance basic Japanese language acquisition. Satisfactory completion of weekly homework and quizzes are required. Weekly lecture notes and handouts are provided on the class LMS, Moodle.		
Recommendation for Private Study	Students are expected to spend at least 3 hours of self-study time each week. It is every student's responsibility to complete all homework and to prepare for quizzes and exams.		
Textbooks	Genki I: An Introduction to Elementary Japanese (3rd ed.). The Japan Times. ISBN: 978-4789017305		
References	A dictionary of basic Japanese grammar (The Japan Times) Japanese-English Learner's Dictionary (Kenkyusha)		
Assessment Criteria	Weekly homework and quiz (30%), Mid-term exam (30%), and Final exam (40%)		
Supplementary Information	Students are required to attend more than 70% of the classes to be eligible to take the final examination.		

Course Title	Japanese I: Conversation		
Lecturer	BURKART, Kaori I.	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Spring : Wednesdays 2 <sup>nd</sup> Period Fall : Wednesdays 1 <sup>st</sup> Period
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 <sup>rd</sup> Floor      Office No. 3-3      097-541-6171      kburkart@oita-u.ac.jp		
Aims	Acquisition of basic Japanese oral communication skills		
Learning Outcomes	<p>At the end of the course, students will be able to:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Carry on basic conversations in several situations</li> <li>2. Express requests, preferences, reasons, and wishes using basic vocabulary and Japanese language functions</li> </ol>		
Content	<p>Week 1: Introduction to the course &amp; greetings  Week 2: Lesson 1 Practice speaking with new vocabulary and grammar points  Week 3: Lesson 2 Practice speaking with new vocabulary and grammar points  Week 4: Lesson 3 Practice speaking with new vocabulary and grammar points  Week 5: Lesson 4 Practice speaking with new vocabulary and grammar points  Week 6: Lesson 5 Practice speaking with new vocabulary and grammar points  Week 7: Lesson 6 Practice speaking with new vocabulary and grammar points  Week 8: Mid-term Examination  Week 9: Lesson 7 Practice speaking with new vocabulary and grammar points  Week 10: Lesson 8 Practice speaking with new vocabulary and grammar points  Week 11: Lesson 9 Practice speaking with new vocabulary and grammar points  Week 12: Lesson 10 Practice speaking with new vocabulary and grammar points  Week 13: Lesson 11 Practice speaking with new vocabulary and grammar points  Week 14: Lesson 12 Practice speaking with new vocabulary and grammar points  Week 15: Semester Review</p> <p>(Specific modes of teaching to enhance student learning)</p> <p>Learner-centered hands-on activities based on real-life situations are used to enhance oral communication skills. Satisfactory completion of weekly homework is required.</p> <p>Weekly lecture notes and handouts are provided on the class LMS, Moodle.</p>		
Recommendation for Private Study	Students are expected to spend at least 3 hours of self-study time each week. It is every student's responsibility to complete all homework and to prepare for quizzes and exams.		
Textbooks	Genki I: An Introduction to Elementary Japanese (3rd ed.). The Japan Times. ISBN: 978-4789017305		
References	A dictionary of basic Japanese grammar (The Japan Times) Japanese-English Learner's Dictionary (Kenkyusha)		
Assessment Criteria	Weekly homework and quiz (30%), Mid-term exam (30%), and Final exam (40%)		
Supplementary Information	Students are required to attend more than 70% of the classes to be eligible to take the final examination.		

Course Title	Japanese I: Integrated Activities		
Lecturer	BURKART, Kaori I.	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Spring & Fall Semesters Thursdays 2 <sup>nd</sup> Period
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 <sup>rd</sup> Floor	Office No. 3-3	097-541-6171      kburkart@oita-u.ac.jp
Aims	Acquisition of basic Japanese language skills through comprehensive learning activities		
Learning Outcomes	<p>At the end of the course, students will be able to</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Grasp basic Japanese grammar and language functions</li> <li>2. Express requests, preferences, reasons, and wishes by using vocabulary typical in daily life</li> </ol>		
Content	<p>Week 1: Introduction to the course (greetings and kana review)</p> <p>Week 2: Lesson 1 Comprehensive learner-centered tasks and activities review practice</p> <p>Week 3: Lesson 2 Comprehensive review practice of Lesson 2</p> <p>Week 4: Lesson 3 Comprehensive review practice of Lesson 3</p> <p>Week 5: Lesson 4 Comprehensive review practice of Lesson 4</p> <p>Week 6: Lesson 5 Comprehensive review practice of Lesson 5</p> <p>Week 7: Lesson 6 Comprehensive review practice of Lesson 6</p> <p>Week 8: Mid-term Examination</p> <p>Week 9: Lesson 7 Comprehensive review practice of Lesson 7</p> <p>Week 10: Lesson 8 Comprehensive review practice of Lesson 8</p> <p>Week 11: Lesson 9 Comprehensive review practice of Lesson 9</p> <p>Week 12: Lesson 10 Comprehensive review practice of Lesson 10</p> <p>Week 13: Lesson 11 Comprehensive review practice of Lesson 11</p> <p>Week 14: Lesson 12 Comprehensive review practice of Lesson 12</p> <p>Week 15: Semester Review</p> <p>(Specific modes of teaching to enhance student learning)</p> <p>Learner-centered learning activities based on real-life situations are used to enhance overall language skills. Satisfactory completion of weekly homework is required. Weekly lecture notes and handouts are provided on the LMS, Moodle.</p>		
Recommendation for Private Study	Students are expected to spend at least 3 hours of self-study time each week. It is every student's responsibility to complete all homework and to prepare for quizzes and exams.		
Textbooks	Genki I: An Introduction to Elementary Japanese (3rd ed.). The Japan Times. ISBN: 978-4789017305		
References	A dictionary of basic Japanese grammar (The Japan Times) Japanese-English Learner's Dictionary (Kenkyusha)		
Assessment Criteria	Weekly homework and quiz (30%), Mid-term exam (30%), and Final exam (40%)		
Supplementary Information	Students are required to attend more than 70% of the classes to be eligible to take the final examination.		

Course Title	Japanese 1 Reading		
Lecturer	NAGAIKE, Kazumi	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Mondays, 4 <sup>th</sup> period
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg., 3rd Floor Office No. 3-4 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp		
Aims	It aims at helping learners read and write the complete range of basic kanji characters.		
Learning Outcomes	Students will acquire Hiragana, Katakana and 145 Kanji. They will be able to write and comprehend short paragraphs consisting of the weekly assigned-kanji.		
Content	<p>Week 1: Introduction of Hiragana (practice).  Week 2: Introduction of Katakana (practice) and Lesson 1 (vocabulary/Grammar).  Week 3: Lesson 2 (vocabulary/Grammar).  Week 4: Lesson 3 (vocabulary/Grammar).  Week 5: Lesson 4 (vocabulary/Grammar).  Week 6: Lesson 5 (vocabulary/Grammar).  Week 7: Lesson 6 (vocabulary/Grammar).  Week 8: Lesson 7 (vocabulary/Grammar).  Week 9: Lesson 8 (vocabulary/Grammar).  Week 10: Revision of Lessons 1-8 (vocabulary/Grammar).  Week 11: Lesson 9 (vocabulary/Grammar).  Week 12: Lesson 10 (vocabulary/Grammar).  Week 13: Lesson 11 (vocabulary/Grammar).  Week 14: Lesson 12 (vocabulary/Grammar).  Week 15: Revision of all lessons (vocabulary/Grammar).</p> <p>(Specific modes of teaching to enhance students' learning)  Weekly assignments and tests are given to assist students to acquire Kanji.</p>		
Recommendation for Private Study	Revision of the weekly-introduced Kanji is very important. Practice reading and writing the Kanji daily until you feel confident.		
Textbooks	<i>An Introduction to Elementary Japanese (Genki I)</i> ; <b>Third Edition</b> ; The Japan Times. (The <b>Second</b> Edition of the Book should <b>not</b> be acceptable.)		
References	<i>A dictionary of basic Japanese grammar</i> , The Japan Times. <i>Japanese-English Learner's Dictionary</i> , Kenkyusha.		
Assessment Criteria	Weekly Tests 40%; Weekly Assignments 20%; Final Examination 40%. It is a requirement that a student should attend more than 70 % of the class time to be eligible for the final examination.		
Supplementary Information	Attendance of ALL classes is essential for a successful course outcome.		

Course Title	Japanese 2 Grammar		
Lecturer	NANRI, Keizo	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semester 1, Tuesdays 2 <sup>st</sup> Period Semester 2, Tuesdays 1 <sup>nd</sup> Period
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3rd Floor Office No. 5 097-554-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp		
Aims	By the end of the semester, students are expected to be able to report past events in chronologically well-organised texts in short forms, to make comments on events by employing basic modal expressions, and to pay respect addressees by employing <i>keigo</i>		
Learning Outcomes	Specifically, students are expected to be able to accurately explain the temporal relation between events, to present future plans and expectations by employing volitional forms and the like, to report events caused by someone, and to properly speak to someone based on the social relationship between him/her and his/her addressee.		
Content	<p>Weeks 1-2: Review of <i>te</i>-forms, short forms, (Students' understanding of the content of the class is monitored by weekly quizzes and assignments as well as the instructor's observation of students' performance in the class.)</p> <p>Week 2: With potential forms, tell us about what you can do and cannot do.</p> <p>Week 3: With expressions of giving-receiving, tell us about your experience of exchanging presents with friends and family members.</p> <p>Week 4: Give extra information to things you are talking about with embedded clauses.</p> <p>Weeks 5-6: With giving-receiving verbs, tell us what other people have done for you and what you have done for them.</p> <p>Weeks 6-7: With hear-say expressions, report what you've heard. With <i>tara</i>, <i>maeni</i>, <i>tekara</i>, give us accurate accounts of past events.</p> <p>Weeks 8-9: Review.</p> <p>Week 10: Brush up your grammatical accuracy by understanding the difference between transitive and intransitive verbs.</p> <p>Weeks 11-12: Learn <i>keigo</i> (i.e., honorific, extra-modest expressions, and humble expressions) so that you can speak to your addressee properly, according to the social relation between you and your address.</p> <p>Week 13: Tell us about your awful experience by using indirect passive expressions.</p> <p>Week 14-15: Report events caused by someone.</p> <p>(Specific modes of teaching to enhance students' learning)</p> <p>The class is conducted in such a way that grammatical explanation is followed by patte</p>		
Recommendation for Private Study	Students are expected to spend two hours for preparation for the class and another two hours for reviewing after the class		
Textbooks	<i>Genki II : An Integrated Course in Elementary Japanese</i> , The Japan Tim		
References	<i>A Dictionary of Basic Japanese Grammar</i> , The Japan Times <i>A Dictionary of Intermediate Japanese Grammar</i> , The Japan Times		
Assessment Criteria	Vocabulary and Listening Quizzes 10%, Essays 1 & 2 10%, Mid-Term Reading & Writing Exam 15%, Conversation Tests1 (10%) & 2 (20%), Final Exam 25%. An Exploration of Oita 10%.		
Supplementary Information	Students are required to attend more than 70% of the classes to be eligible to sit for the final examination. This subject is requisite with Japanese 2 Conversation and Japanese 2 Integrated Activities.		

Course Title	Japanese 2 Conversation		
Lecturer	NANRI, Keizo	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semester 1, Wednesdays 1 <sup>st</sup> Period Semester 2, Wednesdays 2 <sup>nd</sup> Period
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3rd Floor Office No. 5 097-554-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp		
Aims	By the end of the semester, students are expected to be able to report past events in chronologically well-organised texts in short forms, to make comments on events by employing basic modal expressions, and to pay respect addressees by employing <i>keigo</i> .		
Learning Outcomes	Specifically, students are expected to be able to spontaneously continue to talk for at least 8 minutes in a dialogic situation on one or more of the following topics: weekly schedule, distressing experience, gift-giving and receiving occasions, and my personality and performance. They will also be able to use <i>keigo</i> .		
Content	<p>Weeks 1-2: Review of <i>te</i>-forms, short forms, (Students' understanding of the content of the class is monitored by weekly quizzes and assignments as well as the instructor's observation of students' performance in the class.)</p> <p>Week 2: With potential forms, tell us about what you can do and cannot do.</p> <p>Week 3: With expressions of giving-receiving, tell us about your experience of exchanging presents with friends and family members.</p> <p>Week 4: Give extra information to things you are talking about with embedded clauses.</p> <p>Weeks 5-6: With giving-receiving verbs, tell us what other people have done for you and what you have done for them.</p> <p>Weeks 6-7: With hear-say expressions, report what you've heard. With <i>tara</i>, <i>maeni</i>, <i>tekara</i>, give us accurate accounts of past events.</p> <p>Weeks 8-9: Review.</p> <p>Week 10: Brush up your grammatical accuracy by understanding the difference between transitive and intransitive verbs.</p> <p>Weeks 11-12: Learn <i>keigo</i> (i.e., honorific, extra-modest expressions, and humble expressions) so that you can speak to your addressee properly, according to the social relation between you and your address.</p> <p>Week 13: Tell us about your awful experience by using indirect passive expressions.</p> <p>Week 14-15: Report events caused by someone.</p> <p>(Specific modes of teaching to enhance students' learning)</p> <p>The class is conducted in such a way that grammatical explanation is followed by pattern practice and then by a product-oriented activity to consolidate the linguistic knowledge</p>		
Recommendation for Private Study	Students are expected to spend two hours for preparation for the class and another two hours for reviewing after the class.		
Textbooks	<i>Genki II : An Integrated Course in Elementary Japanese</i> , The Japan Times		
References	<i>A Dictionary of Basic Japanese Grammar</i> , The Japan Times <i>A Dictionary of Intermediate Japanese Grammar</i> , The Japan Times		
Assessment Criteria	Vocabulary and Listening Quizzes 10%, Essays 1 & 2 10%, Mid-Term Reading & Writing Exam 15%, Conversation Tests1 (10%) & 2 (20%), Final Exam 25%. An Exploration of Oita 10%.		
Supplementary Information	Students are required to attend more than 70% of the classes to be eligible to sit for the final examination. This subject is requisite with Japanese 2 Grammar and Japanese 2 Integrated Activities.		



Course Title	Japanese 2 Integrated Activities		
Lecturer	NANRI, Keizo	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semester 1, Fridays 2 <sup>nd</sup> Period Semester 2, Fridays 2 <sup>nd</sup> Period
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3rd Floor Office No. 5 097-554-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp		
Aims	By the end of the semester, students are expected to be able to report past events in chronologically well-organised texts in short forms, to make comments on events by employing basic modal expressions, and to pay respect addressees by employing <i>keigo</i> .		
Learning Outcomes	Specifically, students are expected to be able to read and understand conversation texts whose topics are: weekly schedule, distressing experience, gift-giving and receiving occasions, and my personality and performance. They will also be able to write an essay on 'me in 10 year's times' that is 600-ji long in Japanese without using dictionaries.		
Content	<p>Weeks 1-2: Review of <i>te</i>-forms, short forms, (Students' understanding of the content of the class is monitored by weekly quizzes and assignments as well as the instructor's observation of students' performance in the class.)</p> <p>Week 2: With potential forms, tell us about what you can do and cannot do.</p> <p>Week 3: With expressions of giving-receiving, tell us about your experience of exchanging presents with friends and family members.</p> <p>Week 4: Give extra information to things you are talking about with embedded clauses.</p> <p>Weeks 5-6: With giving-receiving verbs, tell us what other people have done for you and what you have done for them.</p> <p>Weeks 6-7: With hear-say expressions, report what you've heard. With <i>tara</i>, <i>maeni</i>, <i>tekara</i>, give us accurate accounts of past events.</p> <p>Weeks 8-9: Review.</p> <p>Week 10: Brush up your grammatical accuracy by understanding the difference between transitive and intransitive verbs.</p> <p>Weeks 11-12: Learn <i>keigo</i> (i.e., honorific, extra-modest expressions, and humble expressions) so that you can speak to your addressee properly, according to the social relation between you and your address.</p> <p>Week 13: Tell us about your awful experience by using indirect passive expressions.</p> <p>Week 14-15: Report events caused by someone.</p> <p>(Specific modes of teaching to enhance students' learning)</p> <p>The class is conducted in such a way that grammatical explanation is followed by pattern practice and then by a product-oriented activity to consolidate the linguistic knowledge</p>		
Recommendation for Private Study	Students are expected to spend two hours for preparation for the class and another two hours for reviewing after the class.		
Textbooks	<i>Genki II : An Integrated Course in Elementary Japanese</i> , The Japan Times		
References	<i>A Dictionary of Basic Japanese Grammar</i> , The Japan Times <i>A Dictionary of Intermediate Japanese Grammar</i> , The Japan Times		
Assessment Criteria	Vocabulary and Listening Quizzes 10%, Essays 1 & 2 10%, Mid-Term Reading & Writing Exam 15%, Conversation Tests1 (10%) & 2 (20%), Final Exam 25%. An Exploration of Oita 10%.		
Supplementary Information	Students are required to attend more than 70% of the classes to be eligible to sit for the final examination. This subject is requisite with Japanese 2 Conversation and Japanese 2 Grammar.		

Course Title	Japanese 2 Reading		
Lecturer	OTSUBO, Minako	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Spring: Mondays 1st period
Lecturer's Office	mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp		
Aims	This course aims to enable students who have completed the second-level unit of elementary Japanese to acquire new words, expressions, and kanji written characters.		
Learning Outcomes	<ul style="list-style-type: none"> <li>• To read and write the basic 300 Kanji</li> <li>• To learn words utilizing the basic Kanji</li> <li>• To read short essays (in the textbook)</li> <li>• To write paragraphs</li> </ul>		
Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation &amp; Review (1)</li> <li>2. Review (2)</li> <li>3. Interesting Experiences in Japan (1)</li> <li>4. Interesting Experiences in Japan (2)</li> <li>5. Personal Advice Column</li> <li>6. My Favorite Place</li> <li>7. The Manga Doraemon</li> <li>8. Mid-term Exam</li> <li>9. Yoko Ono</li> <li>10. College Life</li> <li>11. Letters and E-mails</li> <li>12. A Cat's Plate</li> <li>13. Unlucky Ages</li> <li>14. Tomomi's Diary</li> <li>15. What Does This Face Mean?</li> <li>16. Final Exam</li> </ol> <p>(Specific modes of teaching to enhance students' learning) Students are required to take a Kanji quiz each week. This will enhance students' ability to use their newly acquired written and oral vocabulary</p>		
Recommendation for Private Study	At least four hours of private study per week, for preparation and review, will be required. Students are expected to come to class fully (at least adequately) prepared.		
Textbooks	Genki II : An Integrated Course in Elementary Japanese, The Japan Times		
References	New Japanese-English Character Dictionary, Kenkyusha A Dictionary of Basic Japanese Grammar, The Japan Times		
Assessment Criteria	Participation (10%), Homework (20%), Quiz (10%), Mid-term and Final Exams (60%). Students must attend more than 70% of the class meetings to be eligible to take the final examination.		
Supplementary Information	Attendance of ALL classes is essential for a successful course outcome. This course syllabus is subject to change.		

Course Title	Japanese 3 Grammar		
Lecturer	SAKAI, Mieko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Spring: Thursdays 2 <sup>nd</sup> period Fall: Tuesdays 2 <sup>nd</sup> period
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 <sup>rd</sup> floor Office No.3-7 097-554-7516 msakai@oita-u.ac.jp		
Aims	The first semester of Intermediate Spoken Japanese course. The course aims to review and reinforce previous knowledge of Japanese and systematically develop the patterns of expression and vocabulary needed in various situations common in daily life.		
Learning Outcomes	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Students learn the patterns of expression and vocabulary needed in various situations of daily life.</li> <li>2. Students enable to apply the grammar and the sentence patterns they learned appropriately in reality.</li> <li>3. Students enable to speak accurately in order to carry out daily conversation.</li> <li>4. Students enable to improve their listening comprehension and grasp the contents on various topics.</li> </ol>		
Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introducing friends and family</li> <li>2. Memories of a childhood</li> <li>3. Character</li> <li>4. Description of circumstance</li> <li>5. Introducing home country</li> <li>6. Providing advice</li> <li>7. Travel</li> <li>8. Life-change</li> <li>9. Comparison of national character</li> <li>10. Impression of Japan</li> <li>11. Future Plan</li> <li>12. 30 years later</li> <li>13. Food and health</li> <li>14. Stress release</li> <li>15. Words of young people</li> </ol> <p>【Specific modes of teaching to enhance students' learning】</p> <p>Various activities such as pair work, role play, and so on are designed for students to acquire communicative competence in Japanese.</p>		
Recommendation for Private Study	Students are expected to study about 2 hours per week on homework, practice listening and speaking, and memorize and review of vocabulary and grammatical patterns.		
Textbooks	<i>J Bridge to Intermediate Japanese</i> , Bonjinsha		
References	Recommended: <i>A Dictionary of Intermediate Japanese Grammar</i> , The Japan Times		
Assessment Criteria	<p>Lesson tests 30%, final exam 30%, vocabulary quizzes 15%, homework, class performance, and etc. 25%.</p> <p>It is required that a student attend more than 70% of the class time to be eligible to sit the final examination.</p>		
Supplementary Information	Japanese 2 is a prerequisite for enrollment. Other students must pass a placement test in order to enroll. Japanese 3 Grammar and Conversation are co-requisites.		

Course Title	Japanese 3 Conversation		
Lecturer	SAKAI, Mieko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Spring & Fall: Wednesdays 2 <sup>nd</sup> period
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 <sup>rd</sup> floor Office No.3-7 097-554-7516 msakai@oita-u.ac.jp		
Aims	The first semester of Intermediate Spoken Japanese course. The course aims to review and reinforce previous knowledge of Japanese and systematically develop the patterns of expression and vocabulary needed in various situations common in daily life.		
Learning Outcomes	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Students learn the patterns of expression and vocabulary needed in various situations of daily life.</li> <li>2. Students enable to apply the grammar and the sentence patterns they learned appropriately in reality.</li> <li>3. Students enable to speak accurately in order to carry out daily conversation.</li> <li>4. Students enable to improve their listening comprehension and grasp the contents on various topics.</li> </ol>		
Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introducing friends and family</li> <li>2. Memories of a childhood</li> <li>3. Character</li> <li>4. Description of circumstance</li> <li>5. Introducing home country</li> <li>6. Providing advice</li> <li>7. Travel</li> <li>8. Life-change</li> <li>9. Comparison of national character</li> <li>10. Impression of Japan</li> <li>11. Future Plan</li> <li>12. 30 years later</li> <li>13. Food and health</li> <li>14. Stress release</li> <li>15. Words of young people</li> </ol> <p>【Specific modes of teaching to enhance students' learning】</p> <p>Various activities such as pair work, role play, and so on are designed for students to acquire communicative competence in Japanese.</p>		
Recommendation for Private Study	Students are expected to study about 2 hours per week on homework, practice listening and speaking, and memorize and review of vocabulary and grammatical patterns.		
Textbooks	<i>J Bridge to Intermediate Japanese</i> , Bonjinsha		
References	Recommended: <i>A Dictionary of Intermediate Japanese Grammar</i> , The Japan Times		
Assessment Criteria	<p>Lesson tests 30%, final exam 30%, vocabulary quizzes 15%, homework, class performance, and etc. 25%.</p> <p>It is required that a student attend more than 70% of the class time to be eligible to sit the final examination.</p>		
Supplementary Information	Japanese 2 is a prerequisite for enrollment. Other students must pass a placement test in order to enroll. Japanese 3 Grammar and Conversation are co-requisites.		

Course Title	Japanese 3 Reading II		
Lecturer	OTSUBO, Minako	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Spring : Tuesdays 1 <sup>st</sup> period
Lecturer's Office	mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp		
Aims	Read short sentences at the first intermediate level about Japan and understand them.		
Learning Outcomes	1. Understand the structure of sentences. 2. Search for necessary information in sentences quickly. 3. Learn the proper usages of conjunctions and adverbs. 4. Learn about Japanese life and culture.		
Content	1 . Guidance 2 . Living in Japan 1 3 . Living in Japan 2 4 . Living in Japan 3 5 . Living in Japan 4 6 . Living in Japan 5 7 . Living in Japan 6 8 . Mid-term Exam 9 . Understanding Japan 1 10. Understanding Japan 2 11. Understanding Japan 3 12. Understanding Japan 4 13. Understanding Japan 5 14. Understanding Japan 6 15. Review 16. Final Exam (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Time for pair-work or group-work will be allotted in class.		
Recommendation for Private Study	Students are expected to review after every class.		
Textbooks	Handouts will be distributed every time.		
References	References will be given as needed.		
Assessment Criteria	Participation, Quizz ( 30%) , Mid-term exam ( 30%), Final exam( 40%) Students required to attend more than 70% of the classes to be eligible to take the final examination.		
Supplementary Information	This course is for pre-intermediate level students who have successfully completed elementary level courses or students whose proficiency level in Japanese is 3 according to the result of the CIER placement test. The class will be conducted in Japanese.		

Course Title	Japanese 3 Writing II		
Lecturer	OTSUBO, Minako	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Spring: Thursdays 4 <sup>th</sup> period
Lecturer's Office	mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp		
Aims	This course is designed to develop writing skills by writing 600~700 word-letter essays on familiar topics using first intermediate level vocabularies, expressions, and grammars.		
Learning Outcomes	1.Be able to write Japanese compositions using clear, developed paragraphs. 2.Understand sentence construction and write sentences that uses conjunctions and adverbs effectively. 3. Understand how to use traditional Japanese manuscript paper properly.		
Content	1. Guidance 2. Ask a person's permission 3. Express one's gratitude 4. Refuse a request 5. Advertise a commodity 6. Self-introduction 7. Review 8. Mid-term Exam 9. Convey an event information 10. Express an emotion 11. Give someone advice① 12. Give someone advice② 13. Foresee the future 14. Comparison of Past and Present 15. Review 16. Final Exam (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Time for pair-work and short presentation will be allotted in class.		
Recommendation for Private Study	Review after every class. Preparation for presentation.		
Textbooks	Handouts will be distributed every class.		
References	References will be given as needed.		
Assessment Criteria	Participation & Homework (10%), Tasks (20%), Presentation (15%), Exams (55%)		
Supplementary Information	This course is for pre-intermediate level students who have successfully completed elementary level courses or students whose proficiency level in Japanese is 3 according to the result of the CIER placement test. The class will be conducted in Japanese. It is required that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible to take the final examination.		



Course Title	Extensive Reading in Japanese		
Lecturer	SAKAI, Mieko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Spring: Mondays 4 <sup>th</sup> Period
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 <sup>rd</sup> floor Office No.3-7 097-554-7516 msakai@oita-u.ac.jp		
Aims	This course offers students at intermediate and advanced levels an opportunity to enhance their reading skills as well as developing the pleasure of reading utilizing extensive reading with short stories written for learners of Japanese and authentic materials written for native speakers.		
Learning Outcomes	In this course, the emphasis is put on acquiring the skill to enjoy the contents without translation. Gradually shifting to the materials of higher levels, students will find themselves absorbing the contents without translating each words or sentences into their native language. Through this course, students will develop general language competence, knowledge of vocabulary, prediction skills, as well as writing and speaking skills.		
Content	<p>Students are guided to read as many pages as possible without using dictionaries while the instructor carefully monitors their reading behavior and gives advice and suggestions to improve their reading skills.</p> <p>Week 1 Introduction and orientation  Week 2 extensive reading  Week 3 oral book report and extensive reading  Week 4 oral book report and extensive reading  Week 5 oral book report and extensive reading  Week 6 oral book report and extensive reading  Week 7 oral book report and extensive reading  Week 8 writing a story  Week 9 oral book report and extensive reading  Week 10 oral book report and extensive reading  Week 11 oral book report and extensive reading  Week 12 oral book report and extensive reading  Week 13 preparation for the presentation of book trailer  Week 14 presentation  Week 15 presentation</p> <p>【Specific modes of teaching to enhance students' learning】  Each students give an oral book report in their small group every week followed by the question and answer session.</p>		
Recommendation for Private Study	Students are expected to read books.		
Textbooks	Materials including <i>Nihongo Tadoku Books</i> and <i>Japanese Graded Readers</i> to be provided in class.		
References	“Extensive Reading” ( <a href="http://extensivereading.net/">http://extensivereading.net/</a> )		
Assessment Criteria	Number of books (20%), Reading log (20%), Oral book reports (10%), Writing a story (15%), Presentation (25%), Participation and class performance (10%)		
Supplementary Information	Students must pass level 3 or higher in the placement test to be admitted to this course.		

Course Title	Japanese 4 Grammar II		
Lecturer	OTSUBO, Minako	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Spring : Tuesdays 2 <sup>nd</sup> period
Lecturer's Office	mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp		
Aims	This course is designed to improve intermediate-level grammatical knowledge further.		
Learning Outcomes	Understand the meaning and usage of intermediate-level grammar points and expressions and use them accurately.		
Content	<p>The textbook is the same as that is used in Japanese 4 Grammar I .  Lessons7 through 16 will be covered in this course.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Guidance, Diagnostic test, etc.</li> <li>2. Structure of complex sentences 1</li> <li>3. Noun modification</li> <li>4. Expressions that form complex sentences 1</li> <li>5. Expressions that form complex sentences 2</li> <li>6. Expressions that form complex sentences 2, 3</li> <li>7. Expressions that form complex sentences 3</li> <li>8. Mid-term Exam</li> <li>9. Expressions to deny something</li> <li>10. Conveying subjective information 1</li> <li>11. Conveying subjective information 1, 2</li> <li>12. Conveying subjective information 2</li> <li>13. Adverbs that are used like idioms</li> <li>14. Adverbs that are used like idioms / Conjunctions</li> <li>15. Conjunctions</li> <li>16. Final Exam</li> </ol> <p>(Specific modes of teaching to enhance students' learning)  Time for making example sentences will be allotted in class.</p>		
Recommendation for Private Study	Students are expected to study at least 2 hours per week on homework and reviewing after the class.		
Textbooks	"Chuukyuu Nihongo Bumpoo Yooten Seiri Pointo 20 " (3A-Network)		
References	References will be given as needed.		
Assessment Criteria	Participation, homework ( 30% ) , Mid-term exam ( 30%), Final exam( 40%) It is required that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible to take the final examination.		
Supplementary Information	This course is for intermediate level students who have successfully completed pre-intermediate level courses or students whose proficiency level in Japanese is 4 according to the result of the CIER placement test. The class will be conducted in Japanese. Students are required to have a prior knowledge of at least 500 basic kanji.		

Course Title	Japanese 4 Speaking		
Lecturer	SAKAI, Mieko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Spring: Thursdays 1 <sup>st</sup> period Fall: Tuesdays 1 <sup>st</sup> period
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 <sup>rd</sup> floor Office No.3-7 097-554-7516 msakai@oita-u.ac.jp		
Aims	The second semester course of Intermediate Spoken Japanese. The course aims to develop the speaking and listening ability to communicate in various situations commonly encountered at the university level. In this course, students go to town with group members to gather information by interviewing local people and get a better understanding about Oita and Japan.		
Learning Outcomes	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Students acquire practical communicative competence and will enable to use appropriate expressions and speak accurately and actively on general topics.</li> <li>2. Students enable to speak in a length of a several paragraphs.</li> <li>3. Students enable to use both formal and informal styles properly.</li> <li>4. Improve students' listening comprehension.</li> </ol>		
Content	<p>The major functions or situations to be covered in the first half of this course are:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction and orientation</li> <li>2. borrowing</li> <li>3. accepting and declining an invitation</li> <li>4. asking for permission</li> <li>5. changing an appointment</li> <li>6. explaining how to use</li> <li>7-8. speech</li> <li>9. Mid-term exam</li> </ol> <p>In the latter half, students work with their group members for the final project.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>10. My favorite Oita (1) making up questionnaire on a topic students chose</li> <li>11. My favorite Oita (2) interview to Japanese students or local people</li> <li>12. My favorite Oita (3) analysis of the interview</li> <li>13. My favorite Oita (4) field research on their topic</li> <li>14. My favorite Oita (5) preparation for the presentation</li> <li>15. My favorite Oita (6) presentation</li> <li>16. Final oral Exam</li> </ol> <p>【Specific modes of teaching to enhance students' learning】</p> <p>Various activities such as pair work, role-playing, speech, group work are designed for students to acquire communicative competence in Japanese. Students get feedbacks on their errors individually to help them aware of their errors and correct them by themselves.</p>		
Recommendation for Private Study	Students are expected to study about 2 hours per week on homework, practice listening, making dialogues, preparing for speeches and a group project, and memorize and review of vocabulary and grammatical patterns.		
Textbooks	<i>Speaking Skills Learned through Listening: Japanese "Live" Intermediate &amp; advanced Level</i> , Kurosio		
References	<i>15 Communication Tips for Becoming a Good Speaker and Listener</i> , ASK Publishing		
Assessment Criteria	Midterm exam 30%, Final exam 15%, presentation 10%, vocabulary quizzes 10%, homework 10%, final project 15%, class performance, etc. 10%.		
Supplementary Information	Japanese 3 is a prerequisite. Other applicants must pass a placement test to be admitted to this course. It is required that students attend more than 70% of the class time to be eligible to join the final project.		

Course Title	Japanese 4 Reading II		
Lecturer	NISHIJIMA, Yoriko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semester: Spring Day of the Week: Fridays Period:2
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg, 3 <sup>rd</sup> Floor Office No.3-6 097-554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp		
Aims	Students will acquire intermediate-advanced level vocabulary and expressions while reading various genres such as articles, novels, essays, and haiku, and acquire reading comprehension skills. Through these readings, they will not only deepen their understanding of Japanese society and culture, but also gain the ability to think for themselves on the themes.		
Learning Outcomes	1. To be able to read cohesive texts on social themes. 2. To accurately understand information and the author's thoughts. 3. To develop critical thinking skills using the acquired knowledge from the course content.		
Content	1. Orientation / Article ① 2. Essay ① 3. Article ② 4. Essay② 5. Essay③ 6. Article ③-1 7. Article ③-2 8. Mid-term exam 9. Poem 10. Novel ① 11. Article ④-1 12. Article ④-2 13. Novel ② 14. Essay④ 15. Tanka & Haiku 16. Final exam  (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Students read the works of writers who are also popular overseas (Haruki M., Banana Y., Kenzaburo O., etc.) and consider the issues and themes raised in the text as their own issues and have their own perspective through research and discussion.		
Recommendation for Private Study	Students do weekly preparations and assignments. Review new vocabulary to be quizzed on regularly.		
Textbooks	To be prepared and provided by the lecturer.		
References	<i>Chu-jo kyu gakushusha muke Nihonbunka o yomu</i> , ALC		
Assessment	Mid-term exam (30%), Final exam (30%), Assignments (20%), Word quiz (20%)		
Supplementary Information	Permission to attend this class depends on the result of a placement test. This course is aimed at intermediate level students. Students taking this course should know about 500 kanji and have a vocabulary of 3000 words. It is a requirement that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible for the final examination.		

Course Title	Japanese 4 Writing II		
Lecturer	NISHIJIMA, Yoriko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semester: Spring Day of the Week: Wednesdays Period:1
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg, 3 <sup>rd</sup> Floor Office No.3-6 097-554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp		
Aims	Students will be able to write easy-to-understand and detailed essays by learning vocabulary and expressions on various themes. They will also learn the basics of writing logically and academic writing.		
Learning Outcomes	1.To be able to write easy-to-understand essays using the vocabulary and expressions from the course themes. 2. To be able to explain somewhat complicated ideas and information. 3. To be able to write logical reports of 800 characters or more.		
Content	1. Orientation 2. Self-introduction 3. Travel (formal style) 4. Cross-cultural understanding 5. Children's play 6. Buildings 7. Jobs 8. Peer reading ① 9. Logical writing 10. Quoting 11. Expressing graphs 12. Writing about social issues 13. Writing appropriate sentences 14. Basic knowledge to write academic reports 15. Peer reading ② / Summary  (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Themes that students want to write on are selected. Students overcome their weaknesses in writing by discussing and writing while having fun. In addition, They will learn writing skills from each other and improve their level through peer reading.		
Recommendation	Students write a composition every week.		
Textbooks	To be prepared and provided by the lecturer.		
References	<i>Daigaku de manabu tameno nihongo raityingu</i> , Japan times, 2006 <i>Kakukoto o tanoshimu chukyusakubun</i> , Bonjinsha, 2020 <i>Nihongo o manabuhito no tameno Akademikku raityingu koza</i> , ASK, 2020		
Assessment	Interim report (30%), Final report (30%), Assignments (40%)		
Supplementary Information	Permission to attend this class depends on the result of a placement test. This course is aimed at intermediate level students. Students taking this course should know about 500 kanji and have a vocabulary of 3000 words. It is a requirement that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible for the final report.		

Course Title	Japanese 4 Contextual Japanese II		
Lecturer	OTSUBO, Minako	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Spring : Thursdays 2 <sup>nd</sup> period
Lecturer's Office	mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp		
Aims	This course is designed to enhance practical Japanese language skills. It places an emphasis on encouraging students to put their already acquired Japanese skills into practice by using them in various context-specific environments.		
Learning Outcomes	Students will acquire necessary skills to participate in discussions in Japanese, as well as learning how to fluently express their own opinions and analysis in Japanese.		
Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation</li> <li>2. Learning from media materials 1</li> <li>3. Learning from media materials 2</li> <li>4. Learning from media materials 3</li> <li>5. Learning from media materials 4</li> <li>6. Learning from media materials 5</li> <li>7. Learning from media materials 6</li> <li>8. Learning from media materials 7</li> <li>9. Learning from media materials 8</li> <li>10. Independent Project 1</li> <li>11. Independent Project 2</li> <li>12. Independent Project 3</li> <li>13. Independent Project 4</li> <li>14. Presentaion, comments</li> <li>15. Presentation, comments</li> <li>16. Final Exam</li> </ol> <p>(Specific modes of teaching to enhance students' learning)</p> <p>Students are required to actively participate in the discussion session in Japanese.</p>		
Recommendation for Private Study	Students are expected to study at least 2 hours per week on homework and reviewing after the class.		
Textbooks	To be prepared and provided by Lecturer.		
References	References will be given as needed.		
Assessment Criteria	Participation ( 20%)、 Project ( 30%)、 Assignments ( 20%) Examination ( 30%)		
Supplementary Information	It is recommended that students who wish to enroll in this course have taken or simultaneously take other level 4 Japanese courses. Students must attend more than 70% of the class meeting to be eligible to take the final examination.		



Course Title	Japanese 5 Speaking		
Lecturer	OTSUBO, Minako	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Spring: Mondays 2 <sup>nd</sup> period Fall: Mondays 2 <sup>nd</sup> period
Lecturer's Office	mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp		
Aims	This course is for advanced learners. It is designed to improve speaking skills.		
Learning Outcomes	<p>Students will be able to do the following :</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. To deliver a 3-minute speech composed of many paragraphs.</li> <li>2. To describe and explain complicated matters. etc.</li> <li>3. To speak appropriately in a polite manner.</li> <li>4. To accept different thoughts and opinions, etc.</li> </ol>		
Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Guidance</li> <li>2. Introducing yourself effectively</li> <li>3. How I started to do ~</li> <li>4. Talking about your experience of losing something</li> <li>5. Talking about your home town</li> <li>6. Explaining the sequence of movement 1</li> <li>7. Explaining the sequence of movement 2</li> <li>8. Mid-term Exam</li> <li>9. Talking about the interesting aspects of your hobby, sports, and the like</li> <li>10. Paraphrasing</li> <li>11. Comparing and contrasting 1</li> <li>12. Comparing and contrasting 2</li> <li>13. Talking about recent incidents</li> <li>14. Talking about health problems</li> <li>15. Talking about your dream</li> <li>16. Final Exam</li> </ol> <p>(Specific modes of teaching to enhance students' learning) Time for shadowing, pair or group-work, and peer-teaching will be allotted in class.</p>		
Recommendation for Private Study	Students are expected to study at least 2 hours per week on homework and reviewing after the class.		
Textbooks	Nihongo jookyuu washa e no michi, 3A-Network		
References	References will be given as needed.		
Assessment Criteria	<p>Participation, homework ( 30% ) , Mid-term exam ( 30%), Final exam( 40%) It is required that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible to take the final examination.</p>		
Supplementary Information	This course is for students whose proficiency level in Japanese is 5 according to the result of the CIER placement test or students who have successfully completed Japanese 4 Speaking Course (Grade B or above).		

Course Title	Japanese 5 Reading / Writing II		
Lecturer	SAKAI, Mieko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Spring: Wednesdays 1 <sup>st</sup> Period
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 <sup>rd</sup> floor Office No.3-7 097-554-7516 msakai@oita-u.ac.jp		
Aims	This course aims to introduce academic papers and modern Japanese literature in the original, and which are different from the texts provided in Japanese 5 Reading/Writing I, in order to develop a higher level of reading competency. Students will learn the basic skills of academic writing as well.		
Learning Outcomes	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Students read academic reports and papers ranging from 1200 words to 2000 words in length step by step, and learn vocabulary and expressions used in academic fields.</li> <li>2. Students learn the structures and expressions of academic papers, and enable to grasp the content and get the necessary information quickly.</li> <li>3. Students read modern Japanese literature and enable to explain the content.</li> <li>4. Students get insight into Japanese society and how Japanese think.</li> <li>5. Students learn the structures of paragraphs, and enable to write summaries and opinions.</li> </ol>		
Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>I. Reading: read a variety of literary texts, general reports and technical material in academic fields. Structures each week include the followings: <ol style="list-style-type: none"> <li>1. written language</li> <li>2. structures of a paragraph</li> <li>3. outline and complex sentences</li> <li>4. theory evolution and sentence structure 1</li> <li>5. theory evolution and sentence structure 2</li> <li>6. summary</li> <li>7. Mid-term</li> </ol> </li> <li>II. Writing: structures each week include the followings: <ol style="list-style-type: none"> <li>8. learn fundamental way of writing papers</li> <li>9. learn how to describe situation and express opinions</li> <li>10. learn how to compare and contradict</li> <li>11. learn how to write cohesive summaries</li> </ol> </li> <li>III. Read short novels in the original, and learn vocabulary and expressions. <ol style="list-style-type: none"> <li>12-15. Fiction reading</li> </ol> </li> </ol> <p>【Specific modes of teaching to enhance students' learning】</p> <p>Feedbacks of compositions will be given by both a peer and an instructor in order to help students to rewrite compositions.</p>		
Recommendation for Private Study	Students are expected to study about 2 hours per week on such as checking the meaning of words, reading texts, and writing and rewriting compositions.		
Textbooks	<i>Japanese for International College / Graduate Students 3: Reading Essays</i> , ALC		
References	<i>Japanese for International College / Graduate Students 4: Writing Essays</i> , ALC		
Assessment Criteria	Mid-term exam 30%, Final exam 30%, composition 20%, homework 10%, class performance, etc. 10%.		
Supplementary Information	<p>In order to take this course, students are expected to be at JLPT N1 level. Japanese 5 Reading/Writing I is not a prerequisite.</p> <p>It is required that students attend more than 70% of the class time to be eligible to take the final examination.</p>		

Course Title	Japanese 5 Grammar II		
Lecturer	NISHIJIMA, Yoriko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semester: Spring Day of the Week: Fridays      Period:1
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg, 3rd Floor Office No.3-6    097-554-7667    y-nishijima@oita-u.ac.jp		
Aims	Students accurately understand and properly use intermediate and advanced grammar patterns and vocabularies in order to acquire various expressions in daily conversation and in university lectures.		
Learning Outcomes	1. To learn advanced level (N1 of JLPT) Japanese grammar and vocabulary. 2. To understand the meaning and usage of similar expressions. 3. To use those similar expressions accurately and precisely.		
Content	1. Orientation / Comparison 2. Status 3. Illustrative 4. Emotions 5. Criteria 6. Position 7. End 8. Mid-term exam 9. Possibility / Difficult and Easy 10. Will 11. Judgment 12. Denial 13. Iteration 14. Others 15. Summary 16. Final exam  (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Students make short sentences using the learned sentence patterns and write them on the board so that they can correct each other. If there is any misuse, they will think about it in the class. By doing so, they will acquire a sharp sense of language in Japanese.		
Recommendation	Students prepare, review and submit weekly assignments.		
Textbooks	To be prepared and provided by the lecturer.		
References	<i>Donna toki tsukau Nihongo hyogen bunkei jiten</i> , ALC <i>Kurabete waku Nihongo hyogen bunkei jiten</i> , J-research <i>Ikita reibun de manabu Nihongo hyougen bunkeijiten</i> , ASK		
Assessment	Mid-term exam (40%), Final exam (40%), Assignments (20%)		
Supplementary Information	Permission to attend this class depends on the result of a placement. This course is aimed at upper level students. Knowledge of Japanese grammar equivalent to that tested at N2 of JLPT is a prerequisite.  It is a requirement that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible for the final examination.		

Course Title	Independent Research Project I		
Lecturer	NAGAIKE, Kazumi	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Spring: Fridays, 5 <sup>th</sup> period
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3rd floor Office No. 3-4 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp		
Aims	This course will provide students with necessary research skills and experience in the field in which students have been engaged.		
Learning Outcomes	Students will gain further knowledge and understanding of the area that they have chosen for the research project.		
Content	<p>Interested students should have a clear idea of the topic on which they intend to conduct research; they should have some basic knowledge (or skills) of the area they plan to investigate in their research project. Students are expected to complete a research project by the end of the semester.</p> <p>The procedure is as follows:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Choose a topic for the project (the choice should be made by the end of the first week of the semester);</li> <li>2. Make a project plan with your supervisor;</li> <li>3. Engage in the research under the guidance of your supervisor;</li> <li>4. Submit a final report for assessment at the conclusion of the project.</li> </ol> <p>(Specific modes of teaching to enhance students' learning)</p> <p>Weekly assignments and tests are given in order to assist students to acquire grammar. A supervisor is able to monitor his student's progress.</p>		
Recommendation for Private Study	Students should start the project as early as possible and they should work on it every week. Whenever they encounter a problem, seek their supervisor immediately.		
Textbooks	None.		
References	To be provided by supervisor.		
Assessment Criteria	<p>Final Report (a minimum of 2500 words and a maximum of 3000 words) 100%</p> <p>Note: Penalties will be incurred for late submission.</p>		
Supplementary Information	Important Note: Students should provide an outline of their proposal with Prof. Nagaike by the first Friday of the Semester at the latest.		

Course Title	Preparatory Course in Japanese for Pre-Postgraduate Students		
Lecturer	Instructors of GAIA	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	To be announced	Timetable	To be announced
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 <sup>rd</sup> floor		
Aims	This is a six-month beginners' Japanese course for Japanese Government (MEXT) Scholarship holders. Students study the basic Japanese to acquire listening, speaking, reading and writing skills. Basic English language ability is required. All seven classes are co-requisites.		
Learning Outcomes	<ul style="list-style-type: none"> <li>• To learn basic daily conversation skills</li> <li>• To be able to read and write hiragana, katakana, and basic kanji</li> <li>• To be able to read and write short passages</li> </ul>		
Content	<p>Grammar, expression, and vocabulary will be taught in close relationship to the associated language functions. Some of the major functions to be covered in this course are:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. greetings</li> <li>2. self-introduction</li> <li>3. counting and telling time</li> <li>4. shopping</li> <li>5. telling your schedule</li> <li>6. making a plan</li> <li>7. inviting</li> <li>8. describing location</li> <li>9. telling what you did</li> <li>10. expressing likes and dislikes</li> <li>11. telling reasons</li> <li>12. making requests</li> <li>13. giving permission</li> <li>14. prohibiting</li> <li>15. identifying people</li> </ol> <p>【Specific modes of teaching to enhance students' learning】</p> <p>Various activities such as pair work, role play, and so on are designed for students to acquire communicative competence in Japanese.</p>		
Recommendation for Private Study	Revision and preparation of each lesson.		
Textbooks	<i>Genki I: An Integrated course in Elementary Japanese</i> , The Japan Times <i>Genki I Workbook</i> , The Japan Times		
References	Recommended: <i>A Dictionary of Basic Japanese Grammar</i> , The Japan Times		
Assessment Criteria	Spoken test 30%, Weekly tests and Assignments 30%, Final Exam 40%		
Supplementary Information	This course is offered for Japanese Government (MEXT) Scholarship holders (Preparatory Course in Japanese for Pre-Postgraduate Students).		

Course Title	Japanese 2 Reading		
Lecturer	FUJITA Akemi	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Fall: Monday 1st period
Lecturer's Office	akemi1027f@gmail.com		
Aims	This course aims to enable students who have completed the second-level unit of elementary Japanese to acquire new words, expressions, and kanji written characters.		
Learning Outcomes	<ul style="list-style-type: none"> <li>• To read and write the basic 300 Kanji</li> <li>• To learn words utilizing the basic Kanji</li> <li>• To read short essays (in the textbook)</li> <li>• To write paragraphs</li> </ul>		
Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation &amp; Review (1)</li> <li>2. Review (2)</li> <li>3. Interesting Experiences in Japan (1)</li> <li>4. Interesting Experiences in Japan (2)</li> <li>5. Personal Advice Column</li> <li>6. My Favorite Place</li> <li>7. The Manga Doraemon</li> <li>8. Mid-term Exam</li> <li>9. Yoko Ono</li> <li>10. College Life</li> <li>11. Letters and E-mails</li> <li>12. A Cat's Plate</li> <li>13. Unlucky Ages</li> <li>14. Tomomi's Diary</li> <li>15. What Does This Face Mean?</li> <li>16. Final Exam</li> </ol> <p>(Specific modes of teaching to enhance students' learning)</p> <p>Students are required to take a Kanji quiz each week. This will enhance students' ability to use their newly acquired written and oral vocabulary</p>		
Recommendation for Private Study	<p>At least four hours of private study per week, for preparation and review, will be required.</p> <p>Students are expected to come to class fully (at least adequately) prepared.</p>		
Textbooks	Genki II : An Integrated Course in Elementary Japanese, The Japan Times		
References	<p>New Japanese-English Character Dictionary, Kenkyusha</p> <p>A Dictionary of Basic Japanese Grammar, The Japan Times</p>		
Assessment Criteria	<p>Participation (10%), Homework (20%), Quiz (10%), Mid-term and Final Exams (60%).</p> <p>Students must attend more than 70% of the class meetings to be eligible to take the final examination.</p>		
Supplementary Information	<p>Attendance of ALL classes is essential for a successful course outcome.</p> <p>This course syllabus is subject to change.</p>		



Course Title	Japanese 3 Reading I		
Lecturer	OTSUBO, Minako	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Fall : Thursdays 1 <sup>st</sup> period
Lecturer's Office	<a href="mailto:mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp">mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp</a>		
Aims	Read short stories at the first intermediate level about Japan and understand them.		
Learning Outcomes	1. Understand the structure of sentences. 2. Search for necessary information in sentences quickly. 3. Learn the proper usages of conjunctions and adverbs. 4. Learn about Japanese life and culture.		
Content	1. Guidance 2. story 1 3. story 2 4. story 3 5. story 4 6. story 5 7. story 6 8. Mid-term Exam 9. story 7 10. story 8 11. story 9 12. story 10 13. story 11 14. story 12 15. review 16. Final Exam (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Time for pair-work or group-work will be allotted in class.		
Recommendation for Private Study	Students are expected to review after every class and to prepare for the quiz every time.		
Textbooks	Handouts will be distributed every time.		
References	References will be given as needed.		
Assessment Criteria	Participation, Quizz ( 30% ) , Mid-term exam ( 30%), Final exam( 40%) Students required to attend more than 70% of the classes to be eligible to take the final examination.		
Supplementary Information	This course is for pre-intermediate level students who have successfully completed elementary level courses or students whose proficiency level in Japanese is 3 according to the result of the CIER placement test. The class will be conducted in Japanese.		

Course Title	Japanese 3 Writing		
Lecturer	FUJITA Akemi	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Fall: Monday 2 <sup>nd</sup> period
Lecturer's Office	akemi1027f@gmail.com		
Aims	This course is designed to develop writing skills by writing 600~700 word-letter essays on familiar topics using first intermediate level vocabularies, expressions, and grammars.		
Learning Outcomes	1.Be able to write Japanese compositions using clear, developed paragraphs. 2.Understand sentence construction and write sentences that uses conjunctions and adverbs effectively. 3. Understand how to use traditional Japanese manuscript paper properly.		
Content	1. Guidance 2. Self-introduction 3. Introduce a friend 4. Request a person to do 5. Describe things 6. Tell the news 7. Review 8. Mid-term Exam 9. Express oneself 10. Foresee the future 11. Assert oneself 12. Image of Japanese 13. Prepare for an interview 14. The results of the interview 15. Presentation 16. Final Exam (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Time for pair-work and short presentation will be allotted in class.		
Recommendation for Private Study	Review after every class. Preparation for presentation.		
Textbooks	Handouts will be distributed every class.		
References	References will be given as needed.		
Assessment Criteria	Participation & Homework (10%), Tasks (20%), Presentation (15%), Exams (55%)		
Supplementary Information	This course is for pre-intermediate level students who have successfully completed elementary level courses or students whose proficiency level in Japanese is 3 according to the result of the CIER placement test. The class will be conducted in Japanese. It is required that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible to take the final examination.		

Course Title	Japanese 4 Grammar I		
Lecturer	OTSUBO, Minako	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Fall : Mondays 1 <sup>st</sup> period
Lecturer's Office	<a href="mailto:mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp">mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp</a>		
Aims	This course is designed to improve intermediate-level grammatical knowledge further.		
Learning Outcomes	Understand the meaning and usage of intermediate-level grammar points and expressions and use them accurately.		
Content	<p>The textbook is the same as that is used in Japanese 4 Grammar II .  Lessons1 through 6 and Lessons17 through 20 will be covered in this course.</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Guidance</li> <li>2. Particles with various functions</li> <li>3. Topicalization</li> <li>4. Phrases used like grammatical particles 1</li> <li>5. Phrases used like grammatical particles 1, 2</li> <li>6. Phrases used like grammatical particles 2</li> <li>7. Phrases used like grammatical particles 3</li> <li>8. Mid-term Exam</li> <li>9. How to nominalize verbs and adjectives 1</li> <li>10. How to nominalize verbs and adjectives 2 / Expanding your vocabulary 1</li> <li>11. Expanding your vocabulary 2 / Formal sentences 1</li> <li>12. Formal sentences 2 / Polite expressions 1</li> <li>13. Polite expressions 2</li> <li>14. Cohesion in conversation and written language 1</li> <li>15. Cohesion in conversation and written language 2</li> <li>16. Final Exam</li> </ol> <p>(Specific modes of teaching to enhance students' learning)  Time for making example sentences will be allotted in class.</p>		
Recommendation for Private Study	Students are expected to study at least 2 hours per week on homework and reviewing after the class.		
Textbooks	"Chuukyuu Nihongo Bumpoo Yooten Seiri Pointo 20 " (3A-Network)		
References	"A Dictionary of Basic Japanese Grammar" (The Japan Times) "A Dictionary of Intermediate Japanese Grammar" (The Japan Times)		
Assessment Criteria	Participation, homework ( 30% ) , Mid-term exam ( 30%), Final exam( 40%) It is required that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible to take the final examination.		
Supplementary Information	This course is for intermediate level students who have successfully completed pre-intermediate level courses or students whose proficiency level in Japanese is 4 according to the result of the CIER placement test. The class will be conducted in Japanese. Students are required to have a prior knowledge of at least 500 basic kanji.		

Course Title	Japanese 4 Reading I		
Lecturer	NISHIJIMA, Yoriko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Fridays      Period:1
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg, 3rd Floor Office No.3-6 097-554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp		
Aims	Students will acquire reading comprehension to read academic texts by reading essays, newspaper articles, data, etc. on several themes. Also, through reading activities, they will not only gain knowledge about Japanese society, but also gain the ability to think for themselves on social themes.		
Learning Outcomes	1. To be able to read cohesive texts on social themes. 2. To accurately understand information and data. 3. To be able to quickly understand and comprehend the content and main points of texts. 4. To develop critical thinking skills using the acquired knowledge from the course content.		
Content	1. Orientation 2. Meeting people① 3. Meeting people ② 4. Thinking about the difference ① 5. Thinking about the difference② 6. Getting used to life① 7. Getting used to life② 8. Mid-term exam 9. Children and education ① 10. Children and education ② 11. Children and education ③ 12. Youth sensibility ① 13. Youth sensibility② 14. Youth sensibility③ 15. Summary 16. Final exam  (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Students will expand their knowledge through reading material and data. They will also discuss each theme through issues familiar to them.		
Recommendation for Private Study	Students should do weekly preparations and assignments, as well as reviews prior to word quizzes.		
Textbooks	To be prepared and provided by the lecturer.		
References	<i>Chukyu nihongo kyokasho watashi no mistuketa nihon</i> , Tokyodaigakushuppan <i>Chu-jokyu nihongo kyokasho Nihon e no shotai</i> , Tokyodaigakushuppan		
Assessment	Mid-term exam(30%), Final exam(30%), Assignments (20%), Word quiz(20%)		
Supplementary Information	Permission to attend this class depends on the result of a placement test. This course is aimed at intermediate level students. Students taking this course should know about 500 kanji and have a vocabulary of 3000 words. It is a requirement that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible for the final examination.		

Course Title	Japanese 4 Writing I		
Lecturer	NISHIJIMA, Yoriko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Thursdays Period:2
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg, 3rd Floor Office No.3-6 097-554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp		
Aims	Students will be able to write appropriate reports according to their purpose (academic reports, presentation manuscripts, emails, etc.). To that end, they learn expressions and sentence patterns that are appropriate for the situation and how to write logical sentences.		
Learning Outcomes	1.To be able to write sentences according to the situation (academic reports, presentation manuscripts, emails, etc.). 2. To be able to explain some somewhat complicated ideas and information. 3. To be able to write logical reports of 800 characters or more.		
Content	1. Orientation / Self-introduction 2. Hometown introduction 3. How to write emails ①: Formal email, basic expressions 4. How to write emails ②: Email according to the situation 5. Recommend favorites 6. Advice: Study abroad life in Oita 7. Peer reading ① 8. Formal written Japanese 9. Explaining differences 10. Reporting events 11. Explaining origins and meanings 12. Expressing an opinion 13. Thinking about logical connections: Conjunctions and demonstrative pronouns 14. Basic knowledge of writing reports 15. Peer reading ② / Summary  (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Students will learn many useful and practical expressions. They will practice writing composition on a range of scenarios every week. In addition, through peer reading they will learn writing skills alongside their classmates and improve their writing ability.		
Recommendation	Students write a composition every week.		
Textbooks	To be prepared and provided by the lecturer.		
References	<i>Ryugakusei no tameno kokogataisetsu bunshouhyougen no ruru</i> , 3A Network <i>Shoronbun eno 12 no suteppu</i> , 3A Network		
Assessment	Interim report (30%), Final report (30%), Assignments (40%)		
Supplementary Information	Permission to attend this class depends on the result of a placement test. This course is aimed at intermediate level students. Students taking this course should know about 500 kanji and have a vocabulary of 3000 words. It is a requirement that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible for the final report.		

Course Title	Japanese 4 Contextual Japanese I		
Lecturer	OTSUBO, Minako	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Fall : Tuesdays 2nd period
Lecturer's Office	<a href="mailto:mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp">mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp</a>		
Aims	This course is designed to enhance practical Japanese language skills. It places an emphasis on encouraging students to put their already acquired Japanese skills into practice by using them in various context-specific environments.		
Learning Outcomes	Students will acquire necessary skills to participate in discussions in Japanese, as well as learning how to express their own opinions and analysis in Japanese.		
Content	1. Orientation 2. Learning from media materials 1 3. Learning from media materials 2 4. Learning from media materials 3 5. Learning from media materials 4 6. Learning from media materials 5 7. Learning from media materials 6 8. Learning from media materials 7 9. Learning from media materials 8 10. Independent Project 1 11. Independent Project 2 12. Independent Project 3 13. Independent Project 4 14. Presentaion, comments 15. Presentation, comments 16. Final Exam (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Students are required to actively participate in the discussion session in Japanese.		
Recommendation for Private Study	Students are expected to study at least 2 hours per week on homework and reviewing after the class.		
Textbooks	To be prepared and provided by Lecturer.		
References	References will be given as needed.		
Assessment	Participation ( 20%)、 Project ( 30%)、 Assignments ( 20%) Examination ( 30%)		
Supplementary Information	It is recommended that students who wish to enroll in this course have taken or simultaneously take other level 4 Japanese courses. Students must attend more than 70% of the class meeting to be eligible to take the final examination.		



Course Title	Japanese 5 Reading / Writing I		
Lecturer	SAKAI, Mieko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Spring: Wednesdays 1 <sup>st</sup> period
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 <sup>rd</sup> floor Office No.3-7 097-554-7516 msakai@oita-u.ac.jp		
Aims	This course aims to introduce academic papers and modern Japanese literature, and develop a higher level of reading competency. Students will learn the basic skills of academic writing as well.		
Learning Outcomes	<ol style="list-style-type: none"> <li>Students read academic reports and papers ranging from 1200 words to 2000 words in length step by step, and learn vocabulary and expressions used in academic fields.</li> <li>Students learn the structures and expressions of academic papers, and enable to grasp the content and get the necessary information quickly.</li> <li>Students read modern Japanese literature and enable to explain the content.</li> <li>Students get insight into Japanese society and how Japanese think.</li> <li>Students learn the structures of paragraphs, and enable to write short paper.</li> </ol>		
Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>Reading: read a variety of literary texts, general reports and technical material in academic fields. Structures each week include the followings: <ol style="list-style-type: none"> <li>written language</li> <li>topic, main idea, and particles</li> <li>main sentences and subordinate sentences, demonstrative phrases</li> <li>quotation, conjunction</li> <li>facts and ideas</li> <li>paragraph construction</li> <li>Mid-term</li> </ol> </li> <li>Writing: structures each week include the followings: <ol style="list-style-type: none"> <li>learn fundamental way of writing papers</li> <li>learn how to use written language</li> <li>learn how to presenting topics</li> <li>learn how to define and classify</li> </ol> </li> <li>Read short novels in the original, and learn vocabulary and expressions. <ol style="list-style-type: none"> <li>12-15. fiction reading</li> </ol> </li> </ol> <p>【Specific modes of teaching to enhance students' learning】</p> <p>Feedbacks of compositions will be given by both a peer and an instructor in order to help students to rewrite compositions.</p>		
Recommendation for Private Study	Students are expected to study about 2 hours per week on such as checking the meaning of words, reading texts, and writing and rewriting compositions.		
Textbooks	<i>Japanese for International College / Graduate Students 3: Reading Essays</i> , ALC		
References	<i>Japanese for International College / Graduate Students 4: Writing Essays</i> , ALC		
Assessment Criteria	Mid-term exam 30%, Final exam 30%, composition 20%, homework 10%, class performance, etc. 10%.		
Supplementary Information	In order to take this course, students are expected to be at JLPT N1 level. It is required that students attend more than 70% of the class time to be eligible to take the final examination.		

Course Title	Japanese 5 Grammar I		
Lecturer	NISHIJIMA, Yoriko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Fridays Period:2
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg, 3 <sup>rd</sup> Floor Office No.3-6 097-554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp		
Aims	Students accurately understand and properly use intermediate and advanced grammar patterns and vocabulary in order to acquire various expressions in daily conversation and in university lectures.		
Learning Outcomes	1. To learn advanced level (N1 of JLPT) Japanese grammar and vocabulary. 2. To understand the meaning and usage of similar expressions. 3. To use those similar expressions accurately and precisely.		
Content	1. Orientation / Simultaneous 2. Start & end point 3. Incidental situation 4. Before and after 5. Adjunct 6. Conditions 7. Connect 8. Mid-term exam 9. Rationality 10. Forced 11. Feelings 12. State 13. Degree 14. Others 15. Summary 16. Final exam  (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Students make short sentences using the learned sentence patterns and write them on the board so that they can correct each other. If there is any misuse, they will think about it in the class. By doing so, they will acquire a sharp sense of language in Japanese.		
Recommendation	Students prepare, review and submit weekly assignments.		
Textbooks	To be prepared and provided by the lecturer.		
References	<i>Donna toki tsukau Nihongo hyogen bunkei jiten</i> , ALC <i>Kurabete waku Nihongo hyogen bunkei jiten</i> , J-research <i>Ikita reibun de manabu Nihongo hyougen bunkeijiten</i> , ASK		
Assessment	Mid-term exam (40%), Final exam (40%), Assignments (20%)		
Supplementary Information	Permission to attend this class depends on the result of a placement. This course is aimed at upper level students. Knowledge of Japanese grammar equivalent to that tested at N2 of JLPT is a prerequisite. It is a requirement that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible for the final examination.		

Course Title	Academic Writing in Japanese		
Lecturer	NISHIJIMA, Yoriko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Thursdays      Period: 3
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg, 3rd Floor Office No.3-6    097-554-7667    y-nishijima@oita-u.ac.jp		
Aims	To be able to write academic reports and essays. To do this, students will learn the characteristics of reports and essays and, the appropriate vocabulary and writing style to be used. Also, to write an interesting and compelling report, focusing on how to choose a theme, and the proper composition of sentences.		
Learning Outcomes	1. To recognize the difference in vocabulary and writing style between spoken and written language and use them properly. 2. To be able to use the expression patterns required to write a report. 3. To write a report of 5000 characters or more, including an introduction, main theory, and conclusion.		
Content	1. Orientation / Before writing a report and treatise 2. Type and composition of sentences 3. Basics of reports and treatises (Academic and formal expression) 4. Report of pros and cons 5. Quoting rules and methods 6. Data presentation and analysis ① 7. Data presentation and analysis ② 8. Structure of report and treatise 9. How to write an introduction 10. How to write a main theory ① Explanation mode 11. How to write a main theory ② Argument mode 12. How to write a conclusion 13. How to write a research plan 14. Sentence clarity 15. Sentence cohesion  (Specific modes of teaching to enhance students' learning) The teacher will point out misuse of expression and style in submitted assignments and instruct the students on correction for resubmission.		
Recommendation	Students should write an essay using academic writing style every month.		
Textbooks	To be prepared and provided by the lecturer.		
References	<i>Good writing eno pasupoto</i> , Kuroshio <i>Repoto · Ronbun Hyogen Handbook</i> , Tokyo daigaku shuppankai    etc		
Assessment	Interim reports (20% × 3), Final report (40%)		
Supplementary Information	This course is for very advanced students. Class enrollment will be limited to 20 students. Permission to attend this class depends on the result of a placement test. It is a requirement that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible for the final report.		

Course Title	Independent Research Project II		
Lecturer	NAGAIKE, Kazumi	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Fall: Fridays, 5 <sup>th</sup> period
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3rd floor Office No. 3-4 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp		
Aims	This course will provide students with necessary research skills and experience in the field in which students have been engaged.		
Learning Outcomes	Students will gain further knowledge and understanding of the area that they have chosen for the research project.		
Content	<p>Interested students should have a clear idea of the topic on which they intend to conduct research; they should have some basic knowledge (or skills) of the area they plan to investigate in their research project. Students are expected to complete a research project by the end of the semester.</p> <p>The procedure is as follows:</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Choose a topic for the project (the choice should be made by the end of the first week of the semester);</li> <li>2. Make a project plan with your supervisor;</li> <li>3. Engage in the research under the guidance of your supervisor;</li> <li>4. Submit a final report for assessment at the conclusion of the project.</li> </ol> <p>(Specific modes of teaching to enhance students' learning)</p> <p>A supervisor is able to monitor his student's progress.</p>		
Recommendation for Private Study	Students should start the project as early as possible and they work on it every week. Whenever they encounter a problem, seek their supervisor immediately.		
Textbooks	None.		
References	To be provided by supervisor.		
Assessment Criteria	Final Report (a minimum of 2500 words and a maximum of 3000 words) 100% Note: Penalties will be incurred for late submission.		
Supplementary Information	Important Note: Students should provide an outline of their proposal with Prof. Nagaike by the first Friday of the Semester at the latest.		

**2 . Global Studies Courses for International and Japanese Students**  
**(offered in either English, Japanese, or an integration of both)**

Course Title	Analysis of Japanese Grammar		
Lecturer	NISHIJIMA, Yoriko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semester: Spring Day of the Week: Tuesdays      Period:2
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg, 3rd Floor Office No.3-6 097-554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp		
Aims	Students observe and analyze Japanese from various linguistic perspectives. Through this work, they will gain a deeper understanding of Japanese as a language and develop the ability to analyze the characteristics of languages in general, not limited to Japanese.		
Learning Outcomes	1. To learn the basic idea of linguistics and apply it to the analysis of words and sentences. 2. To compare Japanese with other languages and explain the similarities and differences. 3. To propose a method to effectively teach Japanese as a foreign language.		
Content	1. Introduction: What is "Analysis of Japanese Grammar" 2. Analyzing Japanese from linguistics ① Language characteristics 3. Analyzing Japanese from linguistics ② Language function 4. Japanese in the world 5. Japanese grammar system ① Basic sentence patterns / Particles, etc. 6. Japanese grammar system ② Benefactive expression / Honorific 7. Japanese grammar system ③ Predicate structure and function 8. Japanese language teaching method ① Teaching material analysis 9. Japanese language teaching method ② Creating a lesson plan 10. Japanese mock lessons ① 11. Japanese mock lessons ② 12. Japanese from the perspective of pragmatics ① 13. Japanese from the perspective of pragmatics ② 14. Japanese from the perspective of cognitive linguistics ① 15. Japanese from the perspective of cognitive linguistics ② 16. Final exam  (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Japanese students and international students form groups and analyze Japanese from various perspectives of linguistics. By presenting the results and experiencing a mock lesson that teaches Japanese, they will develop the ability to analyze the language objectively.		
Recommendation for Private Study	Students do weekly preparations and assignments. They prepare for group presentations and mock lessons.		
Textbooks	To be prepared and provided by the lecturer.		
References	<i>Nihongokyoshi no tameno oyoninchigengogaku</i> , Bonjinsha <i>Nishongokyoshi no tameno nyumon gengogaku -Enshu to kaisetsu</i> , 3A Network <i>Shin kokokara hajimaru nihongogaku</i> , Hitsujishobo <i>Nihongokyoiku no stato rain</i> , 3A Network		
Assessment	Final examination (50%), Mock lesson (30%), Assignments (10%), Class performance (10%)		
Supplementary Information	It is a requirement that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible for the final examination. In the case of international students, knowledge of Japanese grammar equivalent to that tested at N2 of the JLPT is a prerequisite.		



Course Title	Business Japanese Seminar 3		
Lecturer	OTSUBO, Minako	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Spring : Mondays 3 <sup>rd</sup> period
Lecturer's Office	mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp		
Aims	This course is for students from Jiangnan University "3+1" program. In the course, students will work towards developing and enhancing not only their reading skills but also describing and expressing their own opinions of newspaper articles, news and topics related mainly to economics.		
Learning Outcomes	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Choose appropriate information</li> <li>• Organize, summarize and accurately communicate the newspaper articles</li> <li>• Communicate clearly the contents of newspaper articles</li> <li>• Critique objectively on the newspaper articles</li> <li>• Utilize appropriate objectively information and express opinions</li> </ul>		
Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation and outline of course</li> <li>2. Significance of selecting media information (media literacy)</li> <li>3. Read newspaper articles</li> <li>4. Summarize newspaper articles after reading</li> <li>5. Critique on newspaper articles after readings</li> <li>6. Listen to news items</li> <li>7. Summarize news items after listening</li> <li>8. Critical listening</li> <li>9-13. Select information to describe and express opinions</li> <li>14. Presentations</li> <li>15. Feedback</li> </ol> (Specific modes of teaching to enhance students' learning) <ul style="list-style-type: none"> <li>• Obtain appropriate information from web-based news and other sources, and investigate.</li> <li>• Hold team discussions and debate.</li> <li>• Record the presentations; obtain feedback via a self-evaluation rubric.</li> </ul>		
Recommendation for Private Study	Get into the habit of watching Japanese news.		
Textbooks	Economic news and movies from websites, newspaper articles and handouts		
References	Japanese dictionaries, other. To be instructed in class.		
Assessment Criteria	Participation & Homework (15%), Listening (10%), Reading & Writing (15%), Presentation (15%), Final exam (45%)		
Supplementary Information	The course is also open to other students.		

Course Title	Business Japanese Seminar 4		
Lecturer	OTSUBO, Minako	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Spring: Thursdays 3 <sup>rd</sup> period
Lecturer's Office	mohtubo@nm.beppu-u.ac.jp		
Aims	<p>This course is for students from Jiangnan University "3+1" program.</p> <p>In the course, students will work towards developing and acquiring necessary speaking and conversational skills together with writing skills in business settings through understanding and analyzing themselves.</p>		
Learning Outcomes	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Utilize various resources in collecting information</li> <li>• Summarize information and communicate comprehensively</li> <li>• Conduct conversation in business settings</li> <li>• Formulate and write business documents (E-mail or documents)</li> </ul>		
Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Orientation and outline</li> <li>2-3. Industry, occupation and the company</li> <li>4. Decide a subject corporation for research</li> <li>5. Formulate a project plan by the team</li> <li>6-9. Collect data and conduct online or e-mail negotiations</li> <li>10-13. Summary and report writing</li> <li>14. Presentations</li> <li>15. Feedback</li> </ol> <p>(Specific modes of teaching to enhance students' learning)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• In a team, research a company, negotiate, visit the company, and conduct an interview.</li> <li>• In addition to creating a team report, also create an individual report.</li> </ul>		
Recommendation for Private Study	Get into the habit of watching Japanese news.		
Textbooks	Handouts		
References	Japanese dictionaries, other. To be instructed in class.		
Assessment Criteria	Participation (10%), Tasks (20%), Presentations (25%), Final exams (45%)		
Supplementary Information	The course is also open to other students.		

Course Title	Learning Oita Through <i>Kyogen</i>		
Lecturer	Keizo NANRI, Yoriko NISHIJIMA	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semester 1 Day of the Week: Tuesdays Period: 4 <sup>th</sup> Period
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3rd Floor Office No. 5 097-554-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp Kyoyo Bldg., 3rd Floor Office No. 6 097-554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp		
Aims	This course aims to provide students with knowledge and experience sound enough to appreciate traditional Japanese society and current Oita culture through writing a script for <i>kyogen</i> play and role-playing the scenario in the script on the <i>noh</i> stage. The course is taught in Japanese.		
Learning Outcomes	By the end of the semester, students will be able to talk about the history of <i>kyogen</i> , to draft a short <i>kyogen</i> script, will understand basic patterns of <i>kyogen</i> moves and phonation, and will become familiarized with some cultural issues in Oita.		
Content	<p>Week1: Orientation, the History and plots of <i>kyogen</i>  Week 2: Basic moves in <i>kyogen</i>  Weeks 3-6: Typical plots of <i>kyogen</i>  Week 6: Kyogen workshop @ <i>Nhogakudo</i>  Week 7-12: Script writing  Week 13-14: Script revision, Script performing  Week 15: Performance Examination @ <i>Nhogakudo</i></p> <p>(Specific modes of teaching to enhance students' learning)</p> <p>The course provides students not only with knowledge from reading materials but with opportunities where they can actually perform <i>kyogen</i> on the stage under the guidance of a professional <i>kyogen</i> player. Students are also encouraged to actively conduct a research on Oita local culture.</p>		
Recommendation for Private Study	2 to 4 hours per week are required to make yourself familiarized with <i>kyogen</i> moves and phonation. About 3 hours per week will be required to draft a <i>kyogen</i> script		
Textbooks	Hand-outs will be provided in the class.		
References	A list of references will be provided in the class.		
Assessment Criteria	General introduction to <i>kyogen</i> (10%), plot outline (5%); script submissions 1 to 3 (5% each), final script submission (10%), performance test (10%); final performance (50% [script memorizing 20%, acting 15%, plot originality 15%]).		
Supplementary Information	Students who fail to attend 70% of the classes fail this course, and are not eligible to sit for the performance examination. This course will accept no more than 10 local students, and the maximum number of students to be enrolled is 20. Students are also required to attend the <i>Kyogen</i> Workshop in May.		

Course Title	Sustainability and Glocal Development in Oita 2 サステナビリティ大分2		
Lecturer	BURKART, Kaori I.	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Spring: Thursdays 4 <sup>th</sup> 前期：木 4
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 <sup>rd</sup> Floor Office No. 3-3 kburkart@oita-u.ac.jp		
Aims	The main purpose of this course is to discuss key sustainable development issues globally and in Oita. The course is intended to develop knowledge, attitudes, and values essential to creating a sustainable future through familiar environmental and social themes related to our immediate surroundings. It is also designed to motivate and empower students to reconsider their own behaviors and make collaborative decisions to support sustainable development from a democratic perspective.		
Learning Outcomes	<p>At the end of the semester, students should be able to</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Conduct their own research and present the results in class to construct deeper knowledge</li> <li>• Compare and contrast cultural elements behind international relationships</li> <li>• Reflect on their own cultural biases via learning about different cultural values</li> </ul>		
Content	<p>Week 1: Orientation, introduction, and overview of the course  Week 2: Theme 1-1 What's your favorite 100-yen shop?  Week 3: Theme 1-2 Responsible consumption  Week 4: Theme 2-1 Food waste causes lifestyle diseases?!  Week 5: Theme 2-2 Obesity and starvation: Health and Welfare  Week 6: Oita City Environmental Faire Visit  Week 7: Sustainability-related movie watch  Week 8: Movie Talk (group discussions)  Week 9: Theme 3-1 Wars triggered by your mobile phone?!  Week 10: Theme 3-2 Global disparity  Week 11: Theme 4-1 Poverty issues  Week 12: Theme 4-2 What do you mean by equity?  Week 13: Presentation 1/2  Week 14: P presentation 2/2  Week 15: Overflow presentation and/or in-class discussion  &lt; Specific modes of teaching to enhance students' learning &gt;  Students will practice critical thinking skills through planned in and outside of class learning activities. Learning activities may include role play, online and in-class discussions, playing games, volunteering in the community, and knowledge building through reading news articles and academic papers. Students will give a presentation during the semester. Possibilities of site visits.</p>		
Recommendation for Private Study	Minimum of 2 hours each week reading news articles to keep up-to-date with sustainability issues in the world. Building knowledge via active participations throughout the semester including periodic online discussions and movie watching will help forming the final research topic as well as the final paper.		
Textbooks	To be provided by the instructor		
References	Additional materials are provided on the class website. Please check periodically.		
Assessment Criteria	Homework & online discussion 20%; Presentation (individual) 40%; Final Report 40%		
Supplementary Information	<p>In this course, International students learn alongside local students. It is required that students attend 70% of the (at least 10) class meetings to be considered for submitting the final paper for passing the course. Course instruction will be mostly in English supplemented with some Japanese. All in-class discussion must be conducted in English but writing assignments can be submitted either in English or Japanese.</p> <p><u>このクラスは本学正規学生と留学生とが一緒に学ぶための融合クラスで、講義はほとんど英語で行われる。授業中のディスカッションやオンラインディスカッションも英語を共通語とするが、期末レポートは英語もしくは日本語のいずれかの言語で作成しても良い。</u></p>		

Course Title	City Project: Oita & Beppu		
Lecturer	NANRI, Keizo	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semester: 1 Day of the Week: Fridays Period: 3
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3rd Floor Office No. 5 097-554-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp		
Aims	This course aims to critically but constructively review the streetscapes in Beppu-shi and Oita-shi within the framework of design thinking. The areas to be critically reviewed are the central areas around JR Oita and Kannawa area in Beppu-shi.		
Learning Outcomes	By the end of the course, students will have a good understand of the following: (1) what design thinking is, (2) the characteristics of the central area of Oita-shi, the JR front area of Beppu-shi, and Kannawa area, and (3) how tourism industry in Japan after the collapse of the bubble economy in the early 1990s.		
Content	<p>Session 1: Orientation, an Introduction to Design Thinking</p> <p>Session 2: Getting to know more about Design Thinking</p> <p>Sessions 3: What needs to be done to make the City Art Museum</p> <p>Session 4: Utilize Otomo Sorin</p> <p>Session 5: Preparation for Field Trip 1</p> <p>Session 6: Field Trip 1 (Why don't we explore the central area of Oita City?)</p> <p>Session 7: Presentation 1</p> <p>Session 8: Changing tourism, Changing Japan</p> <p>Session 9: Get to know Kannawa 1</p> <p>Session 10: Get to know Kannawa 2</p> <p>Sessions 11: Field Trip 2 (Explore Kannawa Area, the site of Jigoku and Jigokumushi)</p> <p>Session 12: Make a grand plan to change Kannawa</p> <p>Session 13: Presentation 2</p> <p>(Specific modes of teaching to enhance students' learning)</p> <p>Students' progress will be monitored with class discussion. Their acquisition of new knowledge will be substantiated through field trips and their documentation of their research on the landscapes in Beppu and Oita.</p>		
Recommendation for Private Study	2 hours weekly will be needed for class preparation, and 3 hours for reviewing lecture contents.		
Textbooks	Handouts to be provided in class.		
References	A list of references to be provided in class		
Assessment Criteria	Presentation 1 (25%), Presentation 2 (40%), Assignments (7×5%).		
Supplementary Information	Students are required to attend at least 70% of the sessions. 1 field trip counts as two class sessions. The sessions are given in Japanese and English.		

Course Title	Oita Area Studies		
Lecturer	NISHIJIMA, Yoriko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semester: Spring Day of the Week: Wednesdays Period: 2
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg, 3rd Floor Office No.3-6 097-554-7667 y-nishijima@oita-u.ac.jp		
Aims	Students learn about Oita's society and history from the perspectives of plurilingualism and pluriculturalism. Through group work and fieldwork, they will not only have a deep understanding of Oita, but also be able to consider solutions to local problems from diverse cultural backgrounds and ways of thinking. Through activities on the Internet in multiple languages, they will be able to recognize various languages and raise interest in them.		
Learning Outcomes	1. To understand the history and social problems of Oita and propose solutions. 2. Through these activities, be able to understand one other as individuals with different cultural and language backgrounds. 3. To understand the diversity of languages through working in their mother tongue alongside other languages.		
Content	1. Orientation / Basic knowledge of Oita 2. <u>Depopulation problem in Oita</u> 3. Preparation for coverage 4. Visit to Agimu area (visit depopulated area in Oita; converted to 2 lessons) 5. Discussion (solution to the depopulation problem) 6. Creating and publishing an internet magazine 7. <u>History of Christians in Oita</u> 8. Preparation for coverage 9. Visit to Taketa City (Taketa Cave Chapel, Takeda Christian Museum; converted to 2 lessons) 10. Discussion (Society that accepts diversity) 11. Creating and publishing an internet magazine 12. <u>Summary</u> : Final discussion 13. Presentation (Specific modes of teaching to enhance students' learning) The policy of this class is to be agnostic to a single culture or language. Students will be more flexible in dealing with others by working with an understanding of plurilingualism and pluriculturalism.		
Recommendation for Private Study	Students do weekly preparations and assignments. They prepare for group work and write articles in a magazine.		
Textbooks	To be prepared and provided by the lecturer.		
References	Reference materials will be posted on Moodle for each issue		
Assessment Criteria	Fieldwork (10% x 2), Discussion (10% x 2) Report (10% x 2), Final presentation and report (30%), class performance (10%)		
Supplementary Information	The maximum number of participants is 30. Intermediate and above Japanese learners can register for this class. Intermediate level learners must have knowledge of 500 kanji and 3000 vocabulary. It is a requirement that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible for the final tasks.		



Course Title	Intercultural Communication		
Lecturer	NAGAIKE, Kazumi	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Spring: Tuesdays 3 <sup>rd</sup> Period
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg., 3rd Floor Office No. 3-4 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp		
Aims	Exploring new types of knowledge and analyzing the structures of cultural activities are both required, in order to enhance cross-cultural communication in this contemporary era of internationalization. In this course, we will attempt to understand the kinds of ideological concept which are required to cultivate intercultural communication; this will mainly involve discussing such issues as Japanese ways of thinking, the structure of Japanese society, globalization, multiculturalism, and so forth.		
Learning Outcomes	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Understanding the specific nature of Japanese society and culture: After taking this course, students will be able to explain key concepts concerning Japanese sociocultural structures.</li> <li>2. Acquiring theoretical perspectives on intercultural communication: After taking this course, students will be able to explain key theories of intercultural communication.</li> <li>3. Broadening the scope of multiculturalism: After taking this course, students will be able to analyze specific sociocultural circumstances within a broader multicultural context.</li> </ol>		
Content	<p>April 13<sup>th</sup>: Introduction and Orientation  April 20<sup>th</sup>: What is Intercultural Communication?  April 27<sup>th</sup>: The Analysis of Japanese Society and the Psychology of Japanese People (1)  May 11<sup>th</sup>: The Analysis of Japanese Society and the Psychology of Japanese People (2)  May 18<sup>th</sup>: The Analysis of Japanese Society and the Psychology of Japanese People (3)  May 25<sup>th</sup>: Culture Shock  June 1<sup>st</sup>: Gesture and Non-Verbal Communication  June 8<sup>th</sup>: Orientalism and Techno-Orientalism (1)  June 15<sup>th</sup>: Orientalism and Techno-Orientalism (2)  June 22<sup>nd</sup>: Nationalism and Imagined Community  June 29<sup>th</sup>: Multiculturalism (e.g. issues of Ainu people)  July 6<sup>th</sup>: Communication and Mass Media (e.g. stereotypical images of foreigners in Japanese mass media)  July 13<sup>th</sup>: Japan in Asia and in the World (e.g. issues of Yasukuni Shrine) (1)  July 20<sup>th</sup>: Japan in Asia and in the World (e.g. issues of Yasukuni Shrine) (2)  July 27<sup>th</sup>: Review  August 3<sup>rd</sup>: Final Exam</p>		
Assessment	Participation: 20% Presentation: 30% Final Examination: 50%		
Supplementary Information	<p><b><u>The main language of this course is English and supplementary explanation is provided in Japanese. この授業の使用言語は主に英語ですが、日本語での説明があります。プレゼンテーション発表の言語は英語ですが、期末試験の言語は英語か日本語が選べます。Please turn on your cameras during ZOOM sessions. If you don't, you will fail to gain participation marks for each session. ZOOM 中はカメラを on にしてください。怠った場合は、participation ポイントがなくなります。Students must attend more than 70% of the class meetings to be eligible to take the final examination. ※ Room: Kyoyo 26 (from April 19<sup>th</sup>)</u></b></p>		

Course Title	Japanese Popular Culture Studies		
Lecturer	Nagaike, Kazumi	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semester: Spring Day of the Week: Wednesday Period: 4 <sup>th</sup>
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg., 3rd Floor Office No. 3-4 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp		
Aims	The contemporary debate about Japanese popular culture has provided various important perspectives from which to deal with questions concerning Japanese society and culture. In this course, we will examine a variety of Japanese popular cultural materials—e.g. pre-modern Japanese popular culture, <i>Japanimation</i> (Japanese animations), pop idols, 2.5 dimension, <i>ranobe</i> (light novels), films, et cetera, and discuss the impact of these genres within both the Japanese socio-cultural and global contexts. We will discuss works which have been labeled as belonging to the Japanese aesthetic 'canon' of each period and examine the major recurring (literary and artistic) themes in these works.		
Learning Outcomes	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Understanding the value of Japanese popular culture: After taking this course, students will be able to explain the cultural values expressed in Japanese popular culture and consider the ways in which Japanese popular culture reflects Japanese socio-cultural structures.</li> <li>2. Understanding the transnationality and globalization of Japanese popular culture: After taking this course, students will have acquired cross-cultural perspectives on Japanese popular culture.</li> <li>3. Acquiring theoretical frameworks for popular-culture studies: After taking this course, students will understand a variety of theoretical frameworks in relation to popular culture studies (e.g. audience- and fan-studies, in particular).</li> </ol>		
Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Introduction to Japanese Popular Culture</li> <li>2) <i>Ukiyoe</i> (Pre-modern Japanese Popular Culture)</li> <li>3-5) Anime</li> <li>6-7) Pop Music and Idols</li> <li>8) <i>Ranobe</i> (Light Novels)</li> <li>9-11) Films</li> <li>12) Voice Actor</li> <li>13) 2.5 Dimension</li> </ol> <p>(Specific modes of teaching to enhance students' learning)</p> <p>This course includes three modes of teaching: lectures, group discussions, and presentations. Students are required to actively participate in class activities.</p>		
Recommendation for Private Study	Students are expected to carefully read the assigned readings and summarize each of them before class. At least four hours of private study per week will be required for preparation and review.		
Textbooks	To be prepared and provided by Lecturer.		
References	To be provided by Lecturer.		
Assessment	Participation: 20% Presentation: 30% Examination: 50%		
Supplementary Information	<p><b>The main language of this course is English and supplementary explanation is provided in Japanese.</b></p> <p>Students must attend more than 70% of classes to be eligible to take the final examination.</p>		

Course Title	Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies		
Lecturer	NAGAIKE, Kazumi NANRI, Keizo	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Spring: Wednesdays 3 <sup>rd</sup> Period
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg., 3rd Floor Office No. 3-4 097-554-7953 <a href="mailto:nagaike@oita-u.ac.jp">nagaike@oita-u.ac.jp</a> Arts (Kyoyo) Bldg., 3rd Floor Office No. 3-3 097-554-7635 <a href="mailto:keizo-nanri@oita-u.ac.jp">keizo-nanri@oita-u.ac.jp</a>		
Aims	Fashion in Japan is bound to be “boom”-oriented, in accordance with the various kinds of aesthetics which have been cultivated during each historical period. Accommodating the symbolic forms of beauty favored in each period, Japanese fashion magazines have evolved and continue to produce innovative “formulas” intended to increase magazine sales. In this course, by mainly focusing on fashion magazines for women, we will learn about period-specific semiotic structures, content, layouts, and the developing audiences for fashion magazines in Japan. We will examine a variety of Japanese fashions and related aesthetic forms and discuss the socio-cultural impact of such genres in both the Japanese and global contexts.		
Learning Outcomes	1) Understanding the value of Japanese fashion culture: After taking this course, students will be able to explain the cultural values expressed in Japanese fashion culture and consider the ways in which Japanese fashion culture reflects socio-cultural structures. 2) Understanding the transnationality and globalization of Japanese fashion culture: After taking this course, students will have acquired cross-cultural perspectives on Japanese fashion culture. 3) Acquiring practical methods to communicate knowledge through project-oriented learning: After taking this course, students will be acquainted with global-standard communication skills.		
Content	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Orientation</li> <li>● History of <i>kawaii</i></li> <li>● History of cross-dressing in pre-modern Japan</li> <li>● Women's Fashion in Jazz Age from 1920s to 1945</li> <li>● Blue Denim Pants &amp; Student Activism from 1945 to 1970s</li> <li>● Men's Clean-cut Fashion from 1945 to 1960s &amp; Presentation</li> <li>● Men's Fashion &amp; Japan's Economic Growth (1960s to 1980)</li> <li>● Women's Clean-cut Fashion from 1945 to 1980</li> <li>● Shibukaji Fashion and Bubble Economy (1970 to 1992) &amp; Presentation</li> <li>● Nyūtora to Konsaba &amp; Mechamote Outfits (1980-2006)</li> <li>● Gyarū &amp; Kyabajō Fashion (1992-2012)</li> <li>● Rise and Fall of Women's Clean-cut Fashion (1970-2021)</li> <li>● Cosplay culture</li> <li>● Queer fashion culture (cross-dressing in the 21<sup>st</sup> century)</li> <li>● Review</li> <li>● Final Exam</li> </ul>		
Assessment	Participation: 20% Presentation: 50% Final Examination: 30%		
Supplementary Information	<p><b><u>The main language of this course is English and supplementary explanation is provided in Japanese.</u></b> この授業の使用言語は主に英語ですが、日本語での説明があります。プレゼンテーション発表の言語は英語ですが、期末試験の言語は英語か日本語が選べます。Students must attend more than 70% of the class meetings to be eligible to take the final examination.</p>		

Course Title	Introduction to Japanese History, Culture and Society		
Lecturer	NAGAIKE, Kazumi	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Spring: Mondays 3 <sup>rd</sup> Period
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg., 3rd Floor Office No. 3-4 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp		
Aims	This is an introductory course designed for international students to acquire basic knowledge of Japan (history, culture, and society).		
Learning Outcomes	1. Becoming familiar with Japanese history 2. Understanding the specific nature of Japanese culture (especially in the pre-modern period) 3. Discussing the socio-cultural situation in contemporary Japan, based on our understanding of pre-modern Japan 4. Experiencing traditional Japanese culture (e.g. the tea ceremony)		
Content	April 12 <sup>th</sup> : Orientation April 19 <sup>th</sup> : History of Japan (1) April 26 <sup>th</sup> : History of Japan (2) May 10 <sup>th</sup> : History of Japan (3) May 17 <sup>th</sup> : History of Japan (4) May 24 <sup>th</sup> : Quiz (1) May 31 <sup>st</sup> : Japanese Performing Arts (1) June 7 <sup>th</sup> : Japanese Performing Arts (1) June 14 <sup>th</sup> : Family and the Concept of <i>Ie</i> June 21 <sup>st</sup> : Japanese Companies and Labor Relations June 28 <sup>th</sup> : Quiz (2) July 5 <sup>th</sup> : Religion and <i>Dō</i> July 12 <sup>th</sup> : Japanese Pre-modern Literature and Aesthetics July 19 <sup>th</sup> : TBA July 26 <sup>th</sup> : Review August 2 <sup>nd</sup> : Final Exam		
Assessment Criteria	Participation: 30% Quiz: 30% Examination: 40%		
Supplementary Information	<p><b><u>The main language of this course is English and supplementary explanation is provided in Japanese. この授業の使用言語は主に英語ですが、日本語での説明があります。クイズ&amp;期末試験の言語は英語か日本語が選べます。Please turn on your cameras during ZOOM sessions. If you don't, you will fail to gain participation marks for each session. ZOOM 中はカメラを on にしてください。怠った場合は、participation ポイントがなくなります。</u></b> Students must attend more than 70% of the class meetings to be eligible to take the final examination. ※ Room: Kyoyo 25 (from April 19<sup>th</sup>)</p>		

Course Title	Ethnographic Study on Rural Japan		
Lecturer	Ryo Kubota	Faculty	Faculty of Economics
Credit	2	Timetable	Spring: Thursdays 3rd
Lecturer's Office	Room 4-10 on the 4 <sup>th</sup> floor in Liberal Art Building, 097-554-7730, yuralria@oita-u.ac.jp		
Aims	We explore various issues that are associated with being Inaka / living in Inaka, which can be translated as countryside or rural area but has slightly different connotation and value from its English counterparts. We study what means to be Inaka, what natural/ cultural resources Inaka dwellers can appropriate to maintain their quality of life, and what we can do to support their challenges.		
Learning Outcomes	You will deepen your understanding of Japanese Inaka. You will acquire your communicative skills and improve your cognitive skills.		
Content	<p>***The following schedule is tentative***</p> <p>WEEK01 Guidance</p> <p>WEEK02 Ice break (tell us yourself and your principle)</p> <p>WEEK03 Urban vs Rural (1)</p> <p>WEEK04 Urban vs Rural (2)</p> <p>WEEK05 Social Issues in contemporary Japan (depopulation)</p> <p>WEEK06 Social Issues in contemporary Japan (aging)</p> <p>WEEK07 Revitalizing the community (landscape and natural resources)</p> <p>WEEK08 Revitalizing the community (Green tourism)</p> <p>WEEK09 Revitalizing the community (local specialty)</p> <p>WEEK10 Revitalizing the community (Japanimation)</p> <p>WEEK11 Revitalizing the community (mascot and kawaii culture)</p> <p>WEEK12 Revitalizing the community (local festivals)</p> <p>WEEK13 Revitalizing the community (international recognition)</p> <p>WEEK14 Final Presentation (1)</p> <p>WEEK15 Final Presentation (2)</p> <p>(Specific modes of teaching to enhance students' learning)</p> <p>To work on class activities diligently is more than welcome.</p>		
Recommendation for Private Study	It is your responsibility to read assigned articles, watch materials and think about issues you would like to discuss before the class.		
Textbooks	Reading assignments will be uploaded on Moodle.		
References	Additional materials will be provided and distributed via Moodle.		
Assessment Criteria	<p>Assignments (10pt)</p> <p>Contribution to discussion (40pt)</p> <p>Final Paper (50pt)</p>		
Supplementary Information	You will be exposed to a variety of viewpoints, values and opinions that might differ from your own. All students should feel comfortable expressing their viewpoints and concerns in lecture. You are an important part of creating an atmosphere that makes this possible.		

Course Title	The Politics and Economics of the EU		
Lecturer	DAY, Stephen	Faculty	Economics
Credit	2	Timetable	Semester: Spring Day of the Week: Thursdays Period: 3
Lecturer's Office	Faculty of Economics Bldg., 2nd Floor, Office No. 2-1, TEL: 097-534-6676 Email: sriday@oita-u.ac.jp		
Aims	The goal of this module is to provide learners with an in-depth understanding of: 1) the historical and contemporary development of the European Union, 2) a selection of key institutions and policies; 3) the processes associated with Brexit		
Learning Outcomes	A) Facilitate the ability of learners to critically discuss and evaluate some of the arguments advanced by the political mainstream and Eurosceptics vis-à-vis the EU and European integration B) Familiarize learners with the significance of the key institutional actors of the EU and the role that they play within the EU institutional architecture C) Facilitate the ability to discuss, in a cogent manner, the contextual realities that brought about Brexit		
Content	1. Introductory overview 2-3. Historical background – emerging from the ashes of war 4-6. What is the EU? What does it do? 7-8. Thinking about processes of integration - from an FTA to a political union 9. EU enlargement 10. Theorizing processes of integration  <b>Case Studies</b> 11-12. EU Citizenship – nurturing a common identity 13-14. European parliamentary elections – building a transnational democracy? 14-15. Brexit  16. Final Exam As an interactive class, there will be a number of individual and small-group task-based exercises. This will include quizzes, exercises in applying theory to real-world scenarios and evaluations of various types of media reports.		
Recommendation for Private Study	Michelle Cini and Nieves Pérez-Solórzano Borragán (eds.) (2022) <i>European Union Politics</i> , Oxford University Press (Seventh Edition) 『EU——欧州統合の現在（第4版）』創元社。2020		
Textbooks	For beginners - John Pinder and Simon Usherwood (2018), <i>The European Union: a very short introduction</i> , (4th edition) Oxford: OUP		
References			
Assessment Criteria	1. Final assessment (50 percent) 2. Portfolio of work (50 percent)		
Supplementary Information	The determination to study the European Union (EU), via English, and a willingness to participate in classroom-based activities. Preparatory reading prior to class so as to aid understanding and facilitate discussion is recommended. We will make use of newspaper, video and web-based material during the module.		



Course Title	Japanese Presentation Skill		
Lecturer	NISHIJIMA, Yoriko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Tuesdays      Period:4
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg, 3rd Floor Office No.3-6    097-554-7667    y-nishijima@oita-u.ac.jp		
Aims	The aim of this class is to actively participate in discussions and to be able to accurately convey information and views in Japanese. Students will analyze content and develop the skills to speak logically. In addition, international students and Japanese students will deepen mutual understanding through group work.		
Learning Outcomes	1. To present a formal speech using PowerPoint (etc.) depending on the purpose. 2. To be able to talk logically and convincingly. 3. To collaborate and discuss with people from various backgrounds.		
Content	1. Orientation / Effective self-introduction 2. Discussion ①: Discussion method 3. Discussion ② 4. Presentation method 5. Preparation for presentation ① 6. Preparation for presentation ② 7. Presentation ① 8. Presentation ② 9. Speaking logically ①: Logical and persuasive way of speaking 10. Speaking logically ②: Discussing without removing the points 11. Debate method 12. Preparation for simple debate ① 13. Preparation for simple debate ② 14. Simple debate match ① 15. Simple debate match ②  (Specific modes of teaching to enhance students' learning) In any activity, students not only perform self-evaluation and peer evaluation, but also discuss points for improvement within the group and deepen introspection. In addition, the teacher will provide feedback to students to improve their speaking abilities.		
Recommendation for Private Study	Students do weekly assignments. They carry out group activities outside of class for presentations and ensure sufficient preparation time.		
Textbooks	To be prepared and provided by the lecturer.		
References	<i>Chi no navigeta</i> , Kuroshio <i>Koto-happyo to Toron no gijuts</i> , Tokaidaigakushuppansha. <i>Ronriteki de tadashii nihongo o tsukautame no gijutu to toreningu</i> , Beret		
Assessment Criteria	Group discussion (20%), Presentation (30%), Debate (30%), Assignments (10%), Final report (10%)		
Supplementary Information	The maximum number of participants is 30. Intermediate and above Japanese learners can register for this class. Intermediate level learners must have knowledge of 500 kanji and 3000 words. It is a requirement that a student should attend more than 70% of the class time to be eligible for the final debate match.		

Course Title	Japanese Linguistics I		
Lecturer	SAKAI, Mieko	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Fall: Thursdays 2 <sup>nd</sup> period
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 <sup>rd</sup> floor Office No.3-7 097-554-7516 msakai@oita-u.ac.jp		
Aims	This course aims at offering a basic overview of Japanese linguistics and showing how linguists analyze language. This course also provides beginning students with a solid grounding in basic Japanese linguistic concepts in the fields of phonetics, vocabulary, grammar, dialect, and so on.		
Learning Outcomes	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. To observe carefully in basic Japanese linguistic concepts in the fields of phonetics, vocabulary, grammar, dialect, and so on, and acquire a solid grounding.</li> <li>2. To research and analyze an area of interest.</li> </ol>		
Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Overview</li> <li>2. Japanese compared with other languages</li> <li>3. Grammar</li> <li>4. Phonetics: the sound of language</li> <li>5. Phonetics: the sound of language</li> <li>6. Phonology: the function and patterning of sounds</li> <li>7. Contraction</li> <li>8. Dialect</li> <li>9. Mid term</li> <li>10. Vocabulary</li> <li>11. Phase</li> <li>12. Grammaticalization</li> <li>13. Preparation for group presentation</li> <li>14. Group presentation</li> <li>15. Group presentation and feedback</li> </ol> <p>【Specific modes of teaching to enhance students' learning】 Students regularly exchange their ideas and opinions in group. They have to work with each other to collect examples and find language rules and characteristics.</p>		
Recommendation for Private Study	Students will be assigned homework on a regular basis to consolidate the topic covered in class.		
Textbooks	Handouts to be provided in class.		
References	Iori, Isao (2012) <i>Atarashii Nihongogaku Nyumon</i> , 3A Network.		
Assessment Criteria	Mid-term exam 30%, Group project work 40%, Homework and presentation 20%, Class performance, etc. 10%.		
Supplementary Information	In order to take this course, students are expected to have passed JLPT N1, because Japanese is used in this course. Japanese students can take this course too. The class size is limited to 40 students. It is required that students attend more than 70% of the class time to be eligible to take the final examination.		

Course Title	Business Japanese Seminar 1		
Lecturer	FUJITA, Akemi	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Monday Period: 3
Lecturer's Office	akemi1027f@gmail.com		
Aims	This course is for students from Jiangnan University "3+1" program. In the course, students will work towards developing and acquiring reading skills based on mainly economic topics, but also strive in describing and expressing their own opinions.		
Learning Outcomes	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Choose appropriate information</li> <li>• Read newspaper articles and organize the contents</li> <li>• Accurately and comprehensibly communicate the contents of newspaper articles</li> <li>• Utilize the selected information to express their opinions</li> </ul>		
Content	<p>1. Orientation and outline of course 2-10. Reading of newspaper articles</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Summarization of newspaper articles after reading</li> <li>• Description and expression of opinions on selected information</li> <li>• Significance of selecting information</li> </ul> <p>11-14. Presentations 15. Feedback</p> <p>(Specific modes of teaching to enhance students' learning)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Obtain appropriate information from web-based news and other sources, and investigate.</li> <li>• Hold team discussions and debate.</li> <li>• Record the presentations; obtain feedback via a self-evaluation rubric.</li> </ul>		
Recommendation for Private Study	Get into the habit of reading Japanese newspaper.		
Textbooks	Economic related news and movies from websites, newspaper articles and handouts		
References	Japanese dictionaries, other. To be instructed in class.		
Assessment Criteria	Participation & Homework (15%), Listening (10%), Reading & Writing (15%), Presentation (15%), Final exam (45%)		
Supplementary Information	The course is also open to other students.		

Course Title	Business Japanese Seminar 2		
Lecturer	FUJITA, Akemi	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Tuesday Period: 2
Lecturer's Office	akemi1027f@gmail.com		
Aims	This course is for students from Jiangnan University "3+1" program. In the course, students will work towards developing and acquiring speaking and writing skills in business settings through understanding and analyzing themselves.		
Learning Outcomes	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Develop the ability to objectively analyze oneself and communicate politely.</li> <li>• In addition to a focus on conversation ability in a business setting, other skills such as writing ability and Japanese business etiquette will be developed.</li> <li>• Understand the circumstances of employment for Japanese people as well as the Japanese mindset as it relates to work.</li> </ul>		
Content	1. Orientation and outline of course 2-9. Research into Japanese job market and their views of jobs 10. Presentations 11-13. Self-analysis 14. Interview 15. Feedback (Specific modes of teaching to enhance students' learning) <ul style="list-style-type: none"> <li>• Conduct team-based investigation (survey or interviews).</li> <li>• Conduct mutual evaluation in mock interviews.</li> <li>• In addition to the team report, also create an individual report.</li> </ul>		
Recommendation for Private Study	Reflect on one's personality and history in order to develop an ability to promote one's own value. Additionally, foster an interest in Japanese university students' job-hunting activities and their attitudes towards work. Furthermore, develop communication skills for use in formal settings and aggressively execute on those skills.		
Textbooks	Handouts		
References	Japanese dictionaries, other. To be instructed in class.		
Assessment Criteria	Participation (10%), Tasks (20%), Presentations (25%), Final exams (45%)		
Supplementary Information	The course is also open to other students.		

Course Title	Intercultural Communication		
Lecturer	NAGAIKE, Kazumi	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Spring: Tuesdays 3 <sup>rd</sup> Fall: Mondays 3 <sup>rd</sup> Period
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg., 3rd Floor Office No. 3-4 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp		
Aims	Exploring new types of knowledge and analyzing the structures of cultural activities are both required, in order to enhance cross-cultural communication in this contemporary era of internationalization. In this course, we will attempt to understand the kinds of ideological concept which are required to cultivate intercultural communication; this will mainly involve discussing such issues as Japanese ways of thinking, the structure of Japanese society, globalization, multiculturalism, and so forth.		
Learning Outcomes	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Understanding the specific nature of Japanese society and culture: After taking this course, students will be able to explain key concepts concerning Japanese sociocultural structures.</li> <li>2. Acquiring theoretical perspectives on intercultural communication: After taking this course, students will be able to explain key theories of intercultural communication.</li> <li>3. Broadening the scope of multiculturalism: After taking this course, students will be able to analyze specific sociocultural circumstances within a broader multicultural context.</li> </ol>		
Content	<p>1) Introduction and Orientation 2) What is Intercultural Communication?  3-5) The Analysis of Japanese Society and the Psychology of Japanese People (honne and tatemae, uchi and soto, giri, shudanishiki, zoto, senpai and kohai, amae, etc)  6) Gesture and Non-Verbal Communication  7) Orientalism and Techno-Orientalism (e.g. the analysis of Hollywood Movies)  8) Nationalism and Imagined Community 9) Multiculturalism (e.g. issues of Ainu people)  10) Communication and Mass Media (e.g. stereotypical images of foreigners in Japanese mass media) 11) Culture Shock 12-13) Japan in Asia and in the World (e.g. issues of Yasukuni Shrine) 14-15) Group Project</p> <p>(Specific modes of teaching to enhance students' learning)</p> <p>This course includes three modes of teaching; lectures, group discussions, and presentations. Students are required to actively participate in class activities.</p>		
Recommendation for Private Study	Students are expected to carefully read the assigned readings, and summarize each of them in advance. At least four hours of private study per week, for preparation and review, will be required.		
Textbooks	To be prepared and provided by Lecturer.		
References	To be provided by Lecturer.		
Assessment	Participation: 20% Presentation and Project: 30% Final Examination: 50%		
Supplementary Information	<b>The main language of this course is English and supplementary explanation is provided in Japanese.</b> Students must attend more than 70% of the class meetings to be eligible to take the final examination.		

Course Title	Manga Studies		
Lecturer	Kazumi Nagaike	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Wednesday Period: 3 <sup>rd</sup>
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg., 3rd Floor Office No. 3-4 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp		
Aims	The contemporary debate concerning Japanese manga culture provides various important perspectives on questions concerning Japanese society and culture. In this course, we will examine a variety of Japanese manga genres and discuss the socio-cultural impact of these genres, within both the Japanese and global contexts. The specific design characteristics and motifs of each manga genre will also be analyzed.		
Learning Outcomes	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Understanding the value of Japanese popular culture: After taking this course, students will be able to explain the cultural values expressed in Japanese popular culture and consider the ways in which Japanese popular culture reflects Japanese socio-cultural structures.</li> <li>2. Understanding the transnationality and globalization of Japanese popular culture: After taking this course, students will have acquired cross-cultural perspectives on Japanese popular culture.</li> <li>3. Acquiring theoretical frameworks for popular-culture studies: After taking this course, students will understand a variety of theoretical frameworks in relation to popular culture studies (e.g. audience- and fan-studies, in particular).</li> </ol>		
Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) Orientation</li> <li>2) Japanese "Soft Power"</li> <li>3-5) Theoretical Perspectives on Manga Drawing (1)~(3)</li> <li>6) Analysis of Shōnen (boys) manga</li> <li>7) Analysis of Shōjo (girls) manga</li> <li>8) Analysis of Ladies' Comics</li> <li>9) Analysis of Boys' Love Manga</li> <li>10) Data-Based Consumption and Manga</li> <li>11) Censorship and Manga</li> <li>12) Racial Issues in Manga</li> <li>13) Analysis of Yuri Manga</li> <li>14) Globalization and Manga</li> <li>15) Review (Specific modes of teaching to enhance students' learning)</li> </ol> <p>This course includes three modes of teaching; lectures, group discussions, and presentations. Students are required to actively participate in class activities.</p>		
Recommendation for Private Study	Students are expected to carefully read the assigned readings and summarize each of them before class. At least four hours of private study per week will be required for preparation and review.		
Textbooks	To be prepared and provided by Lecturer.		
References	To be provided by Lecturer.		
Assessment	Participation: 20% Presentation: 30% Examination: 50%		
Supplementary Information	<p><b><u>The main language of this course is English and supplementary explanation is provided in Japanese.</u></b></p> <p>Students must attend more than 70% of classes to be eligible to take the final examination.</p>		

Course Title	Japanese Aesthetics and Fashion Media Studies		
Lecturer	NAGAIKE, Kazumi NANRI, Keizo	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Fall: Fridays 4 <sup>th</sup> Period
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg., 3rd Floor Office No. 3-4 097-554-7953 <a href="mailto:nagaike@oita-u.ac.jp">nagaike@oita-u.ac.jp</a> Arts (Kyoyo) Bldg., 3rd Floor Office No. 3-3 097-554-7635 <a href="mailto:keizo-nanri@oita-u.ac.jp">keizo-nanri@oita-u.ac.jp</a>		
Aims	Fashion in Japan is bound to be “boom”-oriented, in accordance with the various kinds of aesthetics which have been cultivated during each historical period. Accommodating the symbolic forms of beauty favored in each period, Japanese fashion magazines have evolved and continue to produce innovative “formulas” intended to increase magazine sales. In this course, by mainly focusing on fashion magazines for women, we will learn about period-specific semiotic structures, content, layouts, and the developing audiences for fashion magazines in Japan. We will examine a variety of Japanese fashions and related aesthetic forms and discuss the socio-cultural impact of such genres in both the Japanese and global contexts.		
Learning Outcomes	1) Understanding the value of Japanese fashion culture: After taking this course, students will be able to explain the cultural values expressed in Japanese fashion culture and consider the ways in which Japanese fashion culture reflects socio-cultural structures. 2) Understanding the transnationality and globalization of Japanese fashion culture: After taking this course, students will have acquired cross-cultural perspectives on Japanese fashion culture. 3) Acquiring practical methods to communicate knowledge through project-oriented learning: After taking this course, students will be acquainted with global-standard communication skills.		
Content	<ul style="list-style-type: none"> <li>● Orientation</li> <li>● History of <i>kawaii</i></li> <li>● History of cross-dressing in pre-modern Japan</li> <li>● Women's Fashion in Jazz Age from 1920s to 1945</li> <li>● Blue Denim Pants &amp; Student Activism from 1945 to 1970s</li> <li>● Men's Clean-cut Fashion from 1945 to 1960s &amp; Presentation</li> <li>● Men's Fashion &amp; Japan's Economic Growth (1960s to 1980)</li> <li>● Women's Clean-cut Fashion from 1945 to 1980</li> <li>● Shibukaji Fashion and Bubble Economy (1970 to 1992) &amp; Presentation</li> <li>● Nyūtoro to Konsaba &amp; Mechamote Outfits (1980-2006)</li> <li>● Gyarū &amp; Kyabajō Fashion (1992-2012)</li> <li>● Rise and Fall of Women's Clean-cut Fashion (1970-2021)</li> <li>● Cosplay culture</li> <li>● Queer fashion culture (cross-dressing in the 21<sup>st</sup> century)</li> <li>● Review</li> <li>● Final Exam</li> </ul>		
Assessment	Participation: 20% Presentation: 50% Final Examination: 30%		
Supplementary Information	<p><b><u>The main language of this course is English and supplementary explanation is provided in Japanese.</u></b> この授業の使用言語は主に英語ですが、日本語での説明があります。プレゼンテーション発表の言語は英語ですが、期末試験の言語は英語か日本語が選べます。Students must attend more than 70% of the class meetings to be eligible to take the final examination.</p>		



Course Title	Introduction to Japanese History, Culture and Society		
Lecturer	NAGAIKE, Kazumi	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Spring: Fridays 2 <sup>nd</sup> Fall: Wednesdays 4 <sup>th</sup>
Lecturer's Office	Arts (Kyoyo) Bldg., 3rd Floor Office No. 3-4 097-554-7953 nagaike@oita-u.ac.jp		
Aims	This is an introductory course designed for international students to acquire basic knowledge of Japan (history, culture, and society).		
Learning Outcomes	1. Becoming familiar with Japanese history 2. Understanding the specific nature of Japanese culture (especially in the pre-modern period) 3. Discussing the socio-cultural situation in contemporary Japan, based on our understanding of pre-modern Japan 4. Experiencing traditional Japanese culture (e.g. the tea ceremony)		
Content	1) Orientation 2~5) History of Japan 6~7) Japanese Performing Arts 8) Family and the Concept of <i>ie</i> 9~10) Experiencing Japanese Culture 11~12) Japanese Companies and Labor Relations 13) Religion and <i>Dō</i> 14) Japanese Pre-modern Literature and Aesthetics 15) Review (Specific modes of teaching to enhance students' learning) Students' progress is constantly assessed by means of quizzes. The primary components of this course are lectures and discussions. Students are required to actively participate in these class discussions.		
Recommendation for Private Study	Students are expected to carefully read the assigned readings, and summarize each of them in advance. At least four hours of private study per week, for preparation and review, will be required.		
Textbooks	To be prepared and provided by Lecturer.		
References	To be prepared and provided by Lecturer.		
Assessment Criteria	Participation: 30% Quiz: 30% Examination: 40%		
Supplementary Information	<b><u>The main language of this course is English and supplementary explanation is provided in Japanese.</u></b> Students must attend more than 70% of the class meetings to be eligible to take the final examination.		

Course Title	Japanese Grammar and Discourse		
Lecturer	NANRI, Keizo	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semesters 2: Day of the Week: Fridays Period: 3 <sup>rd</sup> Period
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3rd Floor Office No. 5 097-554-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp		
Aims	This course aims to explore the Japanese language from two perspectives: sentence construction and discourse construction. The sentential exploration will be conducted by focusing on 5 case markers ( <i>o</i> , <i>ni</i> , <i>to</i> , <i>e</i> , <i>de</i> ) the topic marker <i>wa</i> , the subject marker <i>ga</i> , and serial verb construction. The discourse exploration will be conducted from the perspective of schema.		
Learning Outcomes	By the end of the semester, students are expected to be able to improve their linguistic performance in Japanese by understanding (a) the function of the foregoing 5 case markers, (b) the mechanism of Japanese serial verb construction, (c) how the particle <i>wa</i> contributes to text construction, and (d) some Japanese ways of text creation (which will be explored from the perspective of schema).		
Content	<p>Week 1: Orientation &amp; an Overview of the Japanese Language.  Week 2. Parts of Speech.  Weeks 3-7: Experiential Function and Sentence Structure I  Week 8. Presentation 1  Week 9. Experiential Function and Sentence Structure II  Weeks 10-12: Interpersonal Function and Serial Verbal Construction.  Weeks 13-14: The Function of <i>Wa</i>, Text structure, and Japanese Culture  Week 15: Presentation 2</p> <p>(Specific modes of teaching to enhance students' learning)  The class is conducted in an interactive manner. A strong emphasis will be placed on discussion. Two or three topics are presented for discussion in each session. Students are encouraged to analyze provided data and find out theories behind it. Students will be navigated from the discussion of parts of speech through to that of Japanese culture from the viewpoint of schema.</p>		
Recommendation for Private Study	They are expected to spend two hours for class preparation and another two for reviewing the class.		
Textbooks	Handouts to be provided in the class		
References	To be provided in the class.		
Assessment Criteria	Small assignments (5 marks x 10 times), First Presentation 20 marks, Second Presentation 30 marks, Students who fail to attend more than 70% fail this course.		
Supplementary Information	The lectures will be given in English and Japanese.		

Course Title	Social Networks and Introduction of Oita to the World II		
Lecturer	NANRI, Keizo	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Semester 2 Day of the Week: Tuesdays Period: 3rd Period
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3rd Floor Office No. 5 097-554-7635 keizo-nanri@oita-u.ac.jp		
Aims	This Course aims to provide students with a basic training to disseminate information on the Internet by making use of blogs and web sites. Students are strongly encouraged to participate in group discussion. The class is conducted in Japanese and English.		
Learning Outcomes	By the end of the semester, students are expected to acquire (1) a basic knowledge of netiquette and how to launch blogs and websites; they will also have a good knowledge of (3) <i>rokugo manzan bunka</i> and the relationship between Shintoism and Buddhism in Japan.		
Content	<p>Session 1: Orientation, finding group member, session summary 1  Session 2: An introduction to the Internet; getting to know blogs, session summary 2.  Session 3: Let's start a blog, session summary 3.  Session 4: What <i>rokugo manzan bunka</i> is/was, session summary 4  Session 5: Preparation for Field Trip 1,  Session 6:Field Strip 1: Exploring the <i>Kunisaki Mikuni</i> area (provisional destination)  Session 7: Blog presentation  Session 8: The Satoyama, session summary 4.  Session 9: Launch a website with Wix, session summary 5.  Session 10: Preparation for field trip 2  Session 11:Field trip 2: the <i>Musashi</i> Area in <i>Kunisaki</i> (provisional destination)  Session 12: Edit a website.  Session 13: Website presentation.</p> <p>(Specific modes of teaching to enhance students' learning)  The knowledge introduced in the class will be consolidated through group discussion. The last 10 or 15 minutes of the session will be spend to summarize the content of the class; each student submit their summary to the lecturer in the following session, which enables them to monitor students understanding of the class.</p>		
Recommendation for Private Study	2 hours are needed for class preparation and 3 hours for reviewing lecture contents. One field trip accounts as two sessions.		
Textbooks	Handouts to be provided in class		
References	A list of references to be posted on a blog.		
Assessment Criteria	Class summaries (10 marks), field work (1 <sup>st</sup> 10 marks, 2 <sup>nd</sup> 15 marks), launching a blog (20 marks), launching a homepage (20 marks), the final report (25 marks). Students who attend less than 70% of the sessions will not pass this course; marks allocated the field works and the final report will not be included in their final marks. 2 marks are deducted from you total marks for each absence from the session.		
Supplementary Information	Lectures are given in English and Japanese. Join us, for the field trips will be your good memories. That's for certain.		

Course Title	Sustainability and Glocal Development in Oita サステナビリティ大分		
Lecturer	BURKART, Kaori I.	Faculty	Global Education and Intercultural Advancement Center
Credit	2	Timetable	Fall: Thursdays 4 <sup>th</sup> 後期：木 4
Lecturer's Office	Kyoyo Bldg., 3 <sup>rd</sup> Floor	Office No. 3-3	kburkart@oita-u.ac.jp
Aims	The main purpose of this course is to discuss key sustainable development issues globally and in Oita. The course is intended to develop knowledge, attitudes, and values essential to creating a sustainable future through familiar environmental and social themes related to our immediate surroundings. It is also designed to motivate and empower students to reconsider their own behaviors and make collaborative decisions to support sustainable development from a democratic perspective.		
Learning Outcomes	At the end of the semester, students should be able to <ul style="list-style-type: none"> <li>• Conduct their own research and present the results in class to construct deeper knowledge</li> <li>• Compare and contrast cultural elements behind international relationships</li> <li>• Reflect on their own cultural biases via learning about different cultural values</li> </ul>		
Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Week 1: Orientation, introduction, and overview of the course</li> <li>2. Week 2: What is "sustainability"? SDGs #1-17 Introduction</li> <li>3. Week 3 Sustainability—What do you know?! Anything to do with you?</li> <li>4. Week 4 Theme 1 Potato chips kill elephants!?</li> <li>5. Week 5: Theme 2 What's going on underwater?</li> <li>6. Week 6: Theme 3 Let's eat Japanese traditional Tempura soba!</li> <li>7. Week 7: Special Lecture by guest speakers</li> <li>8. Week 8: Sustainability-related movie watch</li> <li>9. Week 9: Movie Talk (group discussions)</li> <li>10. Week 10: Theme 4 Blueberries cause global warming?!</li> <li>11. Week 11: Theme 5 Convenience stores' inconvenient business?!</li> <li>12. Week 12: Theme 6 Hamburgers will take over the world?!</li> <li>13. Week 13: Presentation 1/2</li> <li>14. Week 14: Presentation 2/2</li> <li>15. Week 15: Overflow presentation and/or in-class discussion</li> </ol> <p>&lt; Specific modes of teaching to enhance students' learning &gt;</p> <p>Students will practice critical thinking skills through planned in and outside of class learning activities. Learning activities may include role play, online and in-class discussions, playing games, volunteering in the community, and knowledge building through reading news articles and academic papers. Students will give a presentation during the semester. Possibilities of site visits.</p>		
Recommendation for Private Study	Minimum of 2 hours each week reading news articles to keep up-to-date with sustainability issues in the world. Building knowledge via active participations throughout the semester including periodic online discussions and movie watching will help forming the final research topic as well as the final paper.		
Textbooks	To be provided by the instructor		
References	Additional materials are provided on the class Moodle site. Please check periodically.		
Assessment Criteria	Homework & online discussion 20% Presentation (individual) 40%; Final report 40%		
Supplementary Information	<p>In this course, International students learn alongside local students. It is required that students attend 70% of the (at least 10) class meetings to be considered for submitting the final paper for passing the course. Course instruction will be mostly in English supplemented with some Japanese. All in-class discussion must be conducted in English but writing assignments can be submitted either in English or Japanese.</p> <p>このクラスは本学正規学生と留学生とが一緒に学ぶための融合クラスで、講義はほとんど英語で行われる。授業中のディスカッションやオンラインディスカッションも英語を共通語とするが、期末レポートは英語もしくは日本語のいずれかの言語で作成しても良い。</p>		

Course Title	The Politics and Economics of Globalization		
Lecturer	DAY Stephen	Faculty	Economics
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Thursdays Period: 3
Lecturer's Office	Faculty of Economics Bldg., 2nd Floor, Office No. 2-1, TEL: 097-534-6676 Email: sriday@oita-u.ac.jp		
Aims	The purpose of this module is to provide learners with an understanding of various aspects of global issues and globalization from a political and economic perspective as they continue to dominate our lives – for good or for ill. In what ways has globalization impacted upon the nature of state sovereignty? Facilitated the role that global-level institutions play? Is globalization being superseded by de-globalization?		
Learning Outcomes	A) Familiarize learners with the key debates and provide the means to assess and comment upon those debates in a critical and lucid fashion B) Enable learners to articulate the pros and cons of globalization by drawing together some theoretical and real-world experiences C) Enable learners to evaluate and comment upon the impact of global issues in a cogent and concise manner		
Content	1. Introductory overview - understanding and evaluating globalization 2-3. Developing critical thinking skills and tackling fake news 4-5. Uncovering the dynamics of political and economic change 6-7. Globalization: three perspectives - hyperglobalists, sceptics, and transformationalists 8-10. Political and economic developments 1945-1989 11. Revisiting the global financial crisis (2007-2009) 11-12. Borders and identity 13-14. Globalization and wealth inequality 14. Globalization and the environment 15. Patriots and Globalists – a battle of ideas  As an interactive class, there will be a number of individual and small-group task-based exercises. This will include quizzes, exercises in applying theory to real-world scenarios and evaluating a range of media reports.		
Recommendation for Private Study	Manfred B. Steger and Paul James, <i>Globalization Matters: Engaging the Global in Unsettled Times</i> , Cambridge University Press, 2019		
Textbooks	For absolute beginners I would recommend Manfred B. Steger (2020), <i>Globalization: A Very Short Introduction</i> , (5th edition) Oxford: Oxford University Press		
References			
Assessment Criteria	Final Assessment - 50 percent Portfolio of work - 50 percent		
Supplementary Information	Learners will be expected to have a determination to study in English and a willingness to participate in classroom-based activities. Preparatory reading prior to class to aid understanding and facilitate discussion is recommended. We will make use of newspaper, video, and web-based material during the module.		

Course Title	Contrastive Analysis of Semantic Structures in English and Japanese within the framework of Cognitive Linguistics		
Lecturer	HASHIMOTO, Mikio	Faculty	Education
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Thursday Period: 4
Lecturer's Office	Education Bldg. B, 5 <sup>th</sup> Floor	097-554-7578	mikioha@oita-u.ac.jp
Aims	One of the main goals is to help you understand some differences of the basic structures between Japanese and English from the viewpoint of Cognitive Linguistics.		
Learning Outcomes	You will be able to understand the interconnectedness between language, cognition, and culture.		
Content	<p>Week 1 How to represent Japanese in the Roman Alphabet</p> <p>Week 2 Basic Sentence Types and Stage Model</p> <p>Week 3 Syntactic differences between Japanese and English</p> <p>Week 4 Cause-Effect Relation</p> <p>Week 5 Structure of Speech Situation</p> <p>Week 6 Conjugations of Japanese Verbs (Group 1)</p> <p>Week 7 Conjugations of Japanese Verbs (Group 2 and irregular verbs)</p> <p>Week 8 Tense and Aspect</p> <p>Week 9 Semantic Classification of Japanese verbs</p> <p>Week 10 Semantic Classification of English Verbs</p> <p>Week 11 Japanese Passive Constructions</p> <p>Week 12 English Passive Constructions</p> <p>Week 13 English Causative Constructions</p> <p>Week 14 Japanese Causative Constructions</p> <p>Week 15 Topicalization and Summary</p> <p>(Specific modes of teaching to enhance students' learning) You will discuss relevant topics in groups of three or more to deepen your knowledge.</p>		
Recommendation for Private Study	You will work on tasks assigned in the lectures.		
Textbooks	Handouts to be provided in class through Moodle		
References	Handouts to be provided in class through Moodle		
Assessment Criteria	Weekly Assignment 40% Essay 60%		
Supplementary Information	You need your smartphone or PC.		

Course Title	The World of Chemistry		
Lecturer	Yuichi Ishikawa, Seiji Ujiie, Yasushi Ohga, Takanori Inoue	Faculty	FACULTY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY
Credit	2	Timetable	Semester:2 Day of the Week: Tuesday Period:5th
Lecturer's Office	Applied Chemistry Bldg., 3rd Floor, Office, No.307, 097-554-7898, tinoue@oita-u.ac.jp		
Aims	This class provides learners with several introductory chemical experiments ranging from organic syntheses to manipulation of advanced analytical equipment such as a spectrophotometer. The aim of this class is to give a chance to touch with molecular world through chemical experiment.		
Learning Outcomes	Although the amount of the experiment is just about a tenth of what it is designed for a third grade underground of Applied Chemistry Department, learners who have never experienced in molecular treatments would become aware of interests in chemistry. This is the goal of this class.		
Content	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Organic Synthesis(ISHIKAWA) 1~3 : Marking a reddish organic dye from colorless chemicals with your own hands. Through synthesizing the dye, learners can study how to calculate weight (mole) of various molecules and to treat harmful chemicals.</li> <li>• Liquid Crystal and Polymer Chemistry(UJIE) 4~6 : Synthesis and characterization of liquid crystals and polymer. Thermal and physicochemical properties can be studies.</li> <li>• General Chemistry(OHGA) 7~9 : Synthetic Ikura(salmon roe):Preparation of Microcapsule. Smelting of Iron and Copper. Indigo: Chemical Synthesis and Vat Dye.</li> <li>• Analytical Chemistry(INOUE) 10~12 : Operation of advanced equipment such as Fluorescence Microscope, Raman Spectroscope and UV-VIS Spectroscope. Using AI to analyze those big data.</li> <li>• Inorganic Chemistry 13~15 : To be announced</li> </ul>		
Recommendation for Private Study			
Textbooks	To be prepared and provided by lecturer		
References	Additional materials will be provided in class		
Assessment Criteria	Reports 100% : Please describe your impression and thought about your first chemical experiment		
Supplementary Information	<p>It is necessary for learner to take out accident insurance (JEES 学生教育研究災害傷害保険) in the duration of the class.</p> <p>This class will be held by nearly once a month (Tuesday, 13:10 – 18:00). Information regarding schedule will be announced.</p>		



Course Title	Globalization and Japan's economy		
Lecturer	Shigeki SHIBATA	Faculty	Economics
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Friday Period: 2
Lecturer's Office	Lecture Room 419, 4th. fl, Faculty of Economics Building, TEL: 097-554-7715, Email: sshiba@oita-u.ac.jp		
Aims	The aim of this course is to give international students a series of basic knowledge regarding globalization of Japan's Economy		
Learning Outcomes	At the end of the course, students should have 1. Obtained basic knowledge regarding globalization of Japan's economy 2. Become capable at evaluating economic policies in this domain. 3. Improved their ability to participate in discussions.		
Content	This course will concentrate on analyzing and explaining globalization of Japan's economy while reading textbooks.  1. Concepts of global economy 2. Development of Japan's economy 3. Globalizing Japan's economy by reading case studies (some articles)  Students need to read assignments and prepare presentations.		
Recommendation for Private Study	To be provided by lecturer based on students' interests		
Textbooks	To be provided by lecturer		
References	To be provided by lecturer		
Assessment Criteria	Attendance and participation: 50% Power-point presentation: 50%		
Supplementary Information			

Course Title	Japanese Management and Sustainable Development		
Lecturer	Kunio Ikari	Faculty	Economics
Credit	2	Timetable	Semester: Fall Day of the Week: Fridays Period: 3
Lecturer's Office	Economics Bldg., 4 <sup>th</sup> Floor Office No. 15, 097-554-7711, kunioik2@oita-u.ac.jp		
Aims	The purpose of this course is to learn basic knowledges on traditional and cultural uniqueness of Japanese corporations.		
Learning Outcomes	Understanding historical and social background of Japanese corporations and economics in Kyushu and Oita.		
Content	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Positioning Japan for the twenty-first century</li> <li>3. The challenge to Japan's economy in an evolving world</li> <li>4. Challenges facing Japan's science and technology</li> <li>5. Cool Japan and the struggle with globalization</li> <li>6. Entrepreneurship in Japan</li> <li>7. Group exercise: Make groups and choose industrial sectors</li> <li>8. Group exercise: International comparisons of countermeasures against social crisis</li> <li>9. Group Presentation</li> <li>10. Disparity Problem between Tokyo and Local cities</li> <li>11. Entrepreneurship in Japanese local cities</li> <li>12. Economics in Kyushu</li> <li>13. Economics in Oita</li> <li>14. Tourism sector in Oita</li> <li>15. Necessarily of social entrepreneurship in Oita</li> </ol>		
Recommendation for Private Study	Please read the lecture materials before each class before attending.		
Textbooks	Lecture materials will be distributed via online in each class.		
References	<p>Mouer, Ross. (Eds.). (2015). Globalizing Japan: Striving to Engage the World, Australia: Transpacific press</p> <p>Abegglen, J. C., &amp; Stalk, G. (1985). Kaisha Japanese Corporation. Basic Books.</p> <p>Jacoby, S. M. (2007). The Embedded Corporation: Corporate Governance and Employment Relations in Japan and the United States. Princeton University Press.</p>		
Assessment Criteria	<p>Participate to discussion 20%</p> <p>Short presentation 20%</p> <p>Final report 60%</p>		
Supplementary Information	All students have to attend over 70 % of this course.		



The background is a solid blue color. Scattered across the page are several white squares of varying sizes, some of which are arranged in a grid-like pattern, creating a modern, geometric design.

## **Global Education and Intercultural Advancement Center, Oita University**

700 Dannoharu, Oita-shi, Oita, 870-1192, JAPAN

TEL : +81-97-554-7444 FAX : +81-97-554-7437

E-mail : [ryugaku@oita-u.ac.jp](mailto:ryugaku@oita-u.ac.jp)

URL : <https://www.gaia.oita-u.ac.jp>

## **大分大学国際教育推進センター**

870-1192 大分市大字旦野原700番地